



ア
カ
ラ
で

チ
コ
コ

ハ
メ
ハ
メ
ハ
ー
レ
ム
!

ど
ん
な
女
も

ヤ
リ
放
題
!!

水
野
ま
い
み



フルカラー



まなか ひかる 彼女イナイ歴 = 年齢
間中 光 (20)



群がって陰口を
噂話するか
食うか着飾るか
しかかないだ
低脳ばかりだ

虫ケラでも
見るような
目で見やがる

男をイケメンとか
金持ちとかで
判断し
そうでない
男には

女なんて
どいつも
ギャンギャン
煩いわ

下品な
奴らだ

いつも誰に
ナンパされた
とかやったとか
声高に話す

とくにこの女
神条瑠衣と
その周辺の
女ども

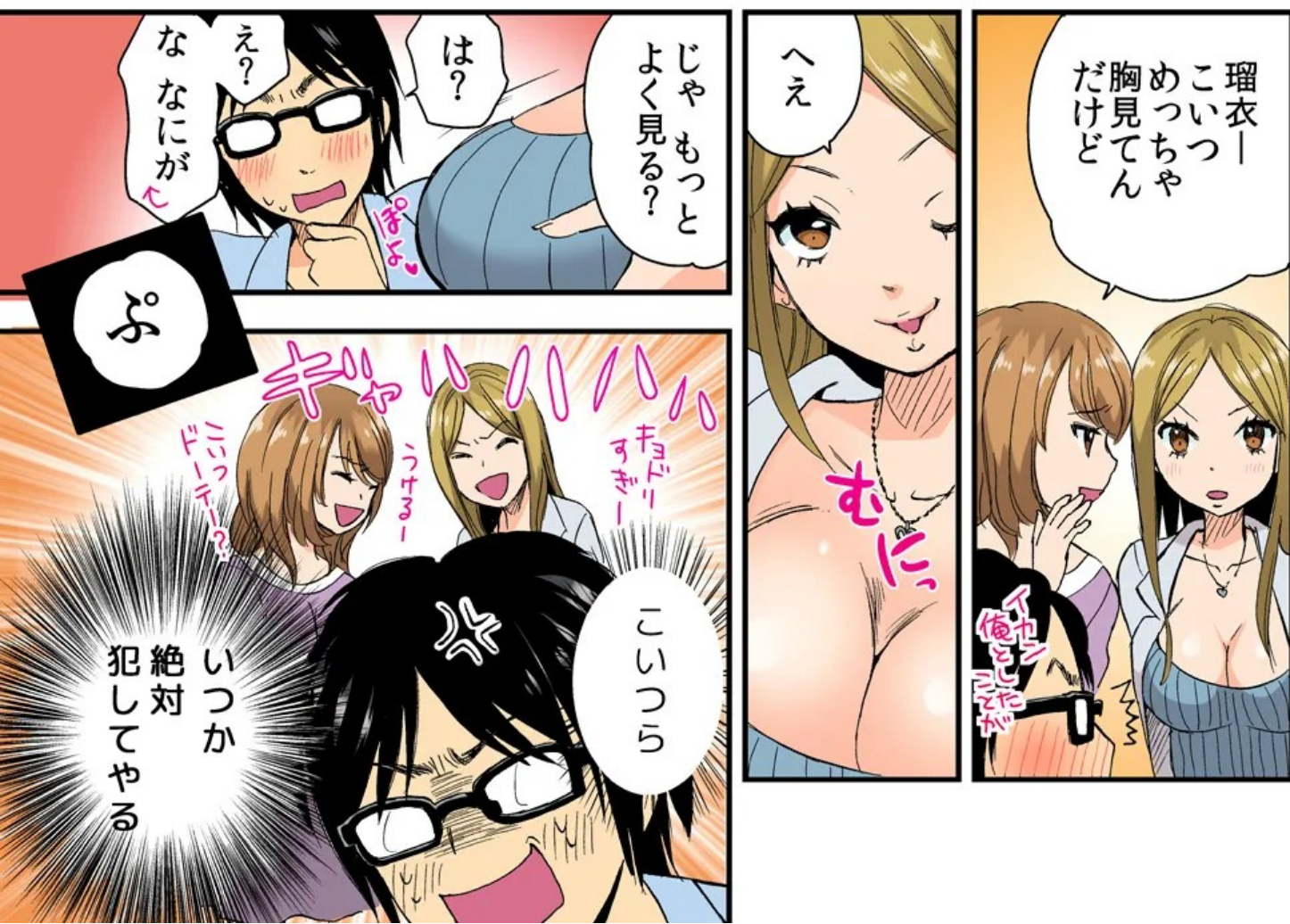
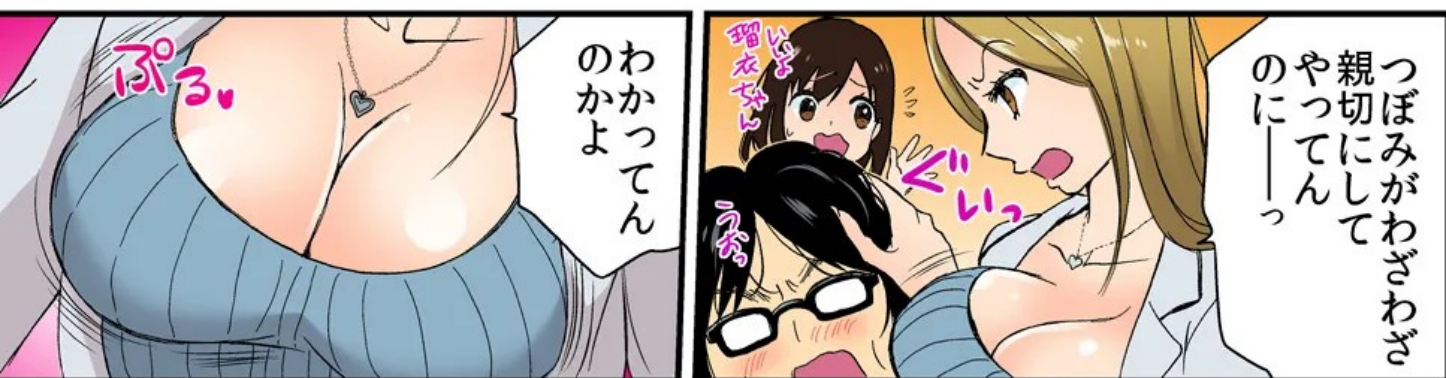
間中君

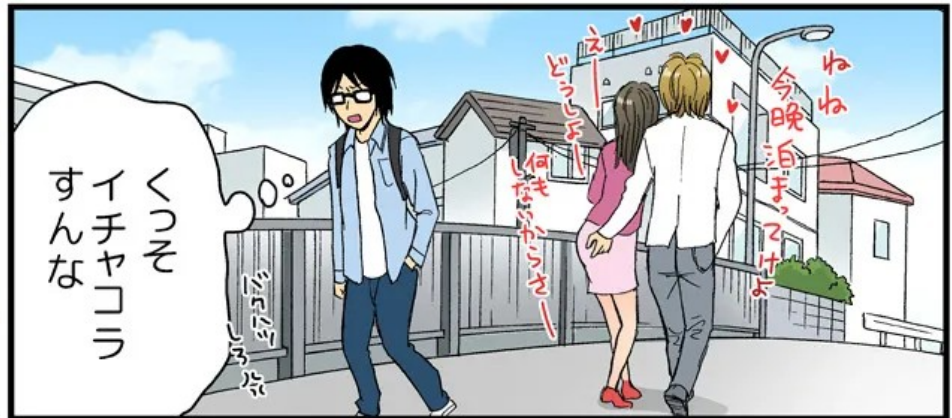
先週休んだ
でしょ？これ

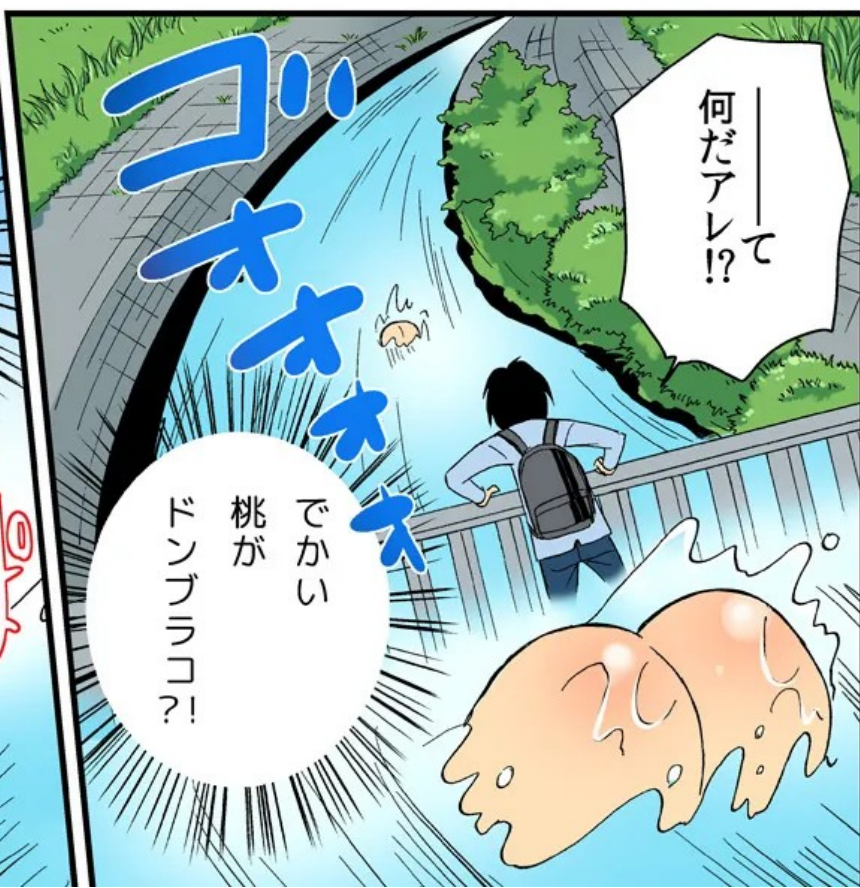
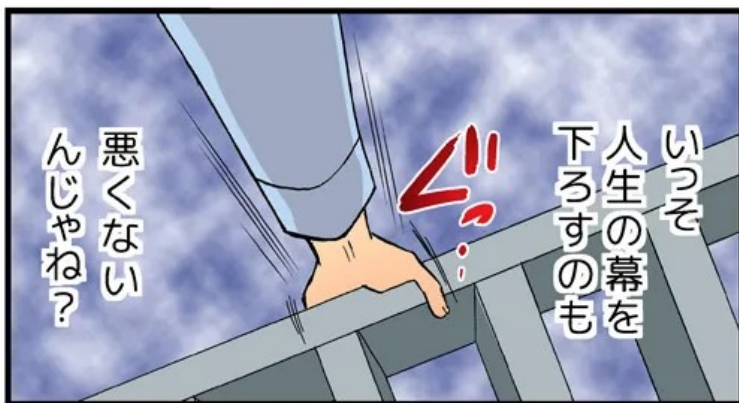
プリント
先生に
頼まれて…

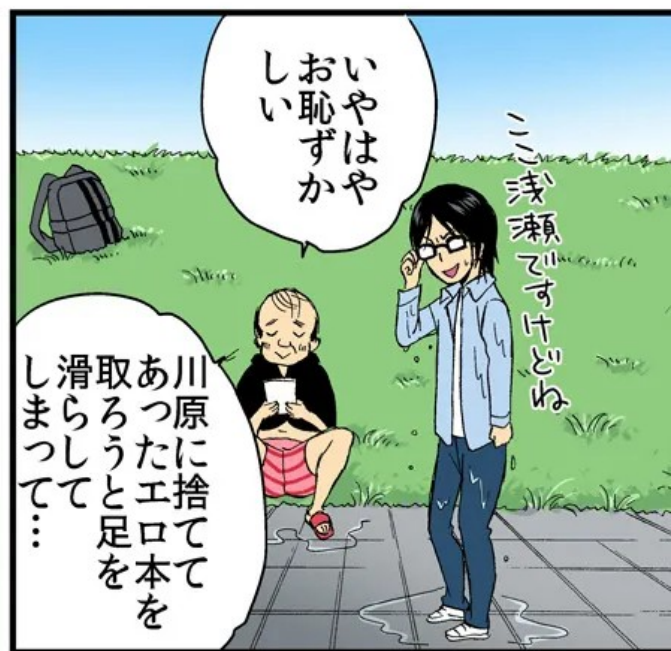
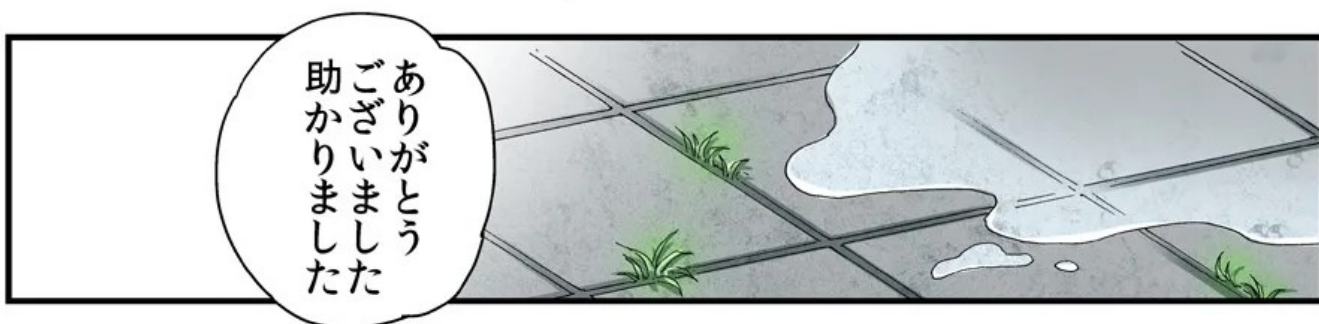
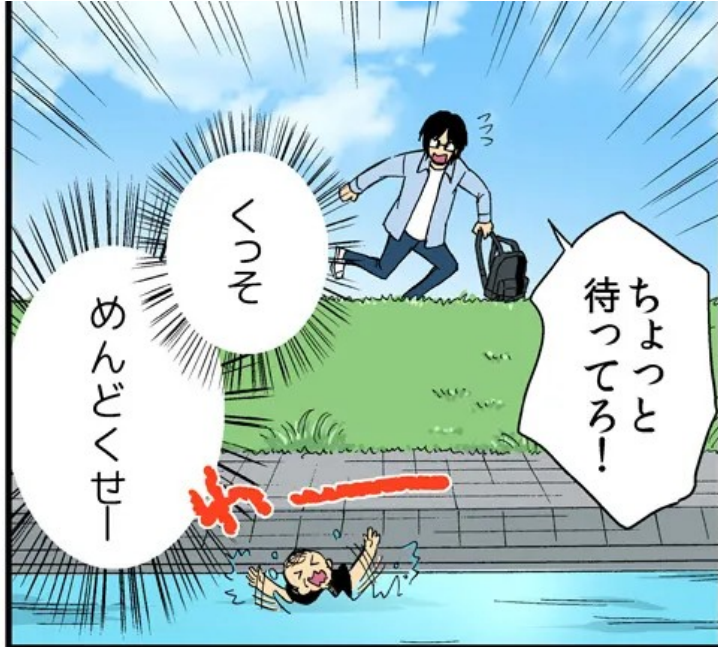
おはよう

紺野
つぼみ



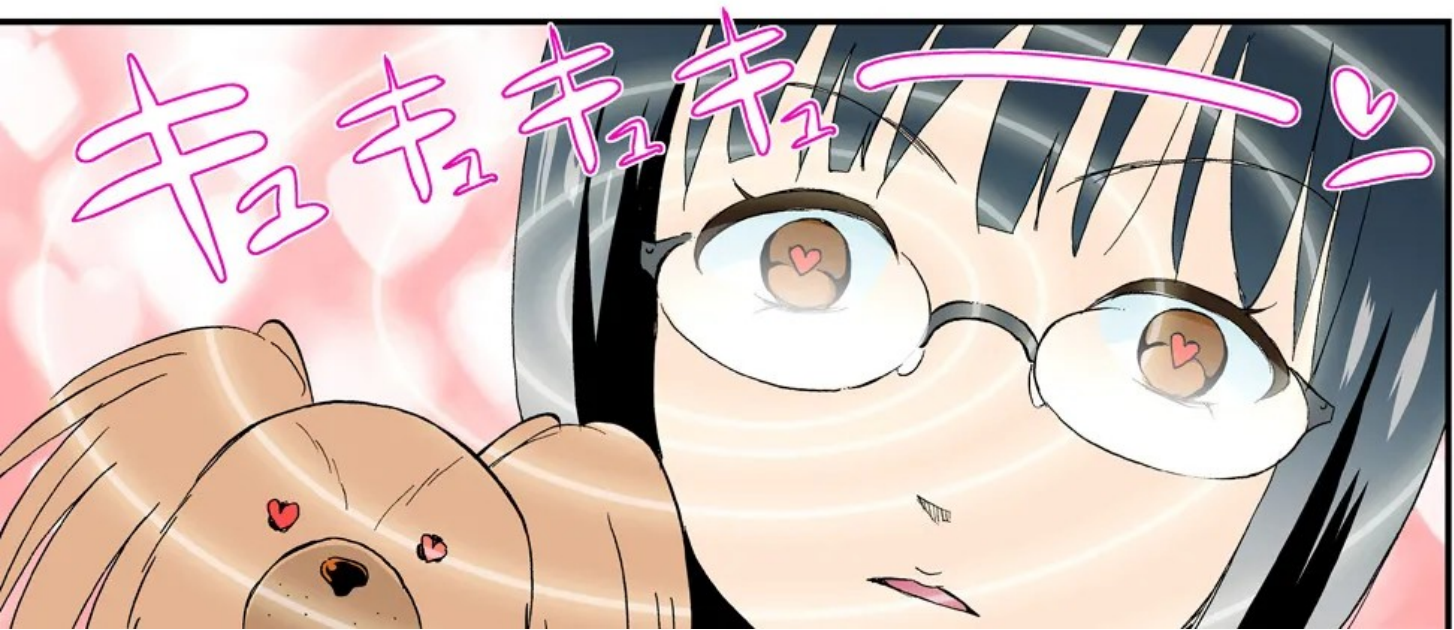
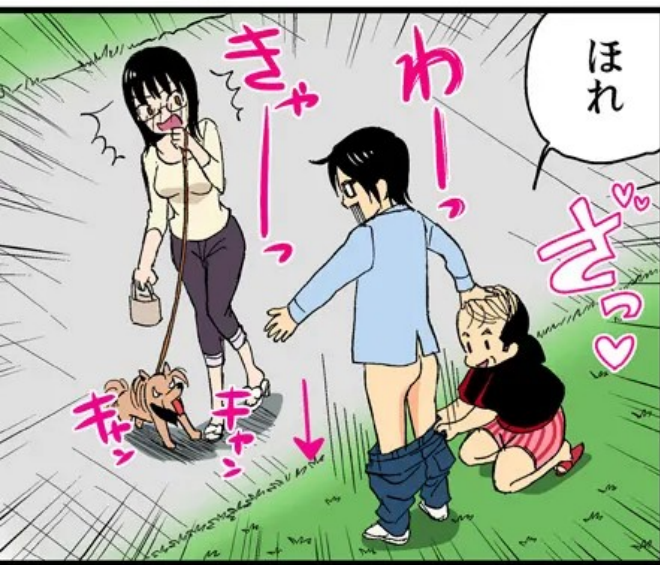
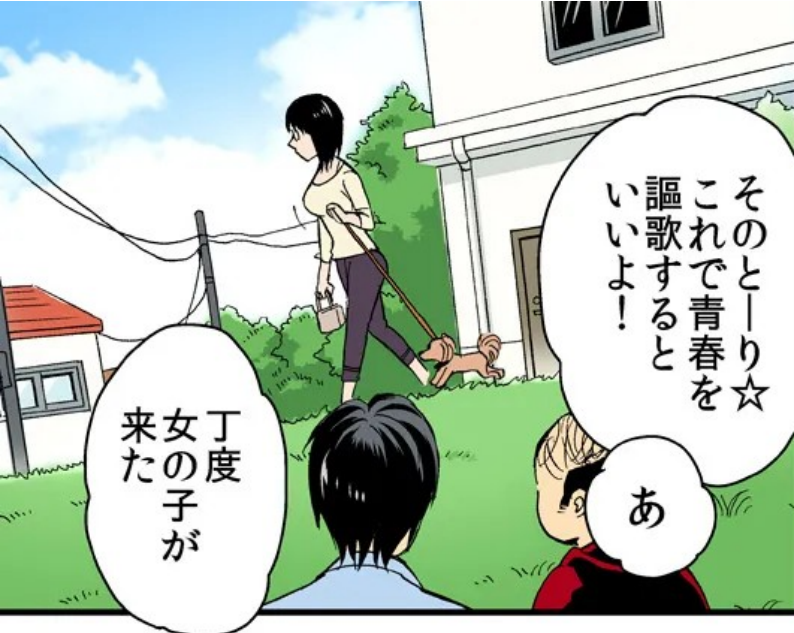


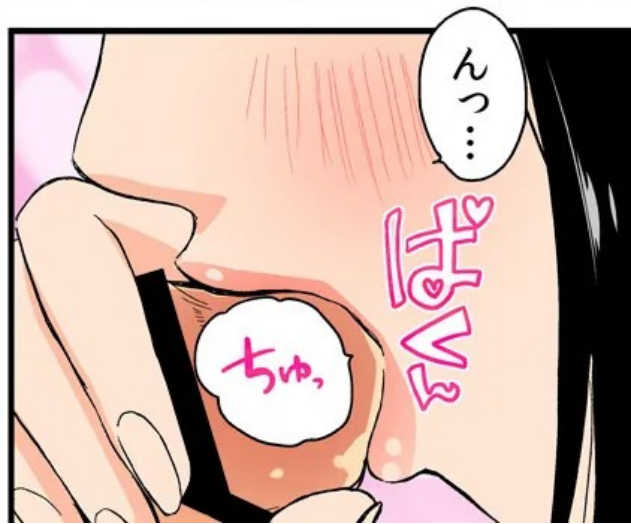
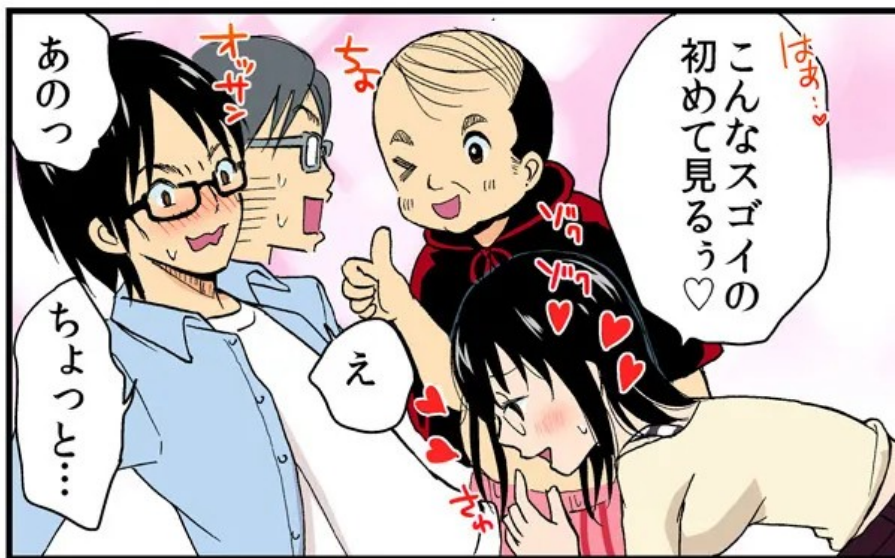


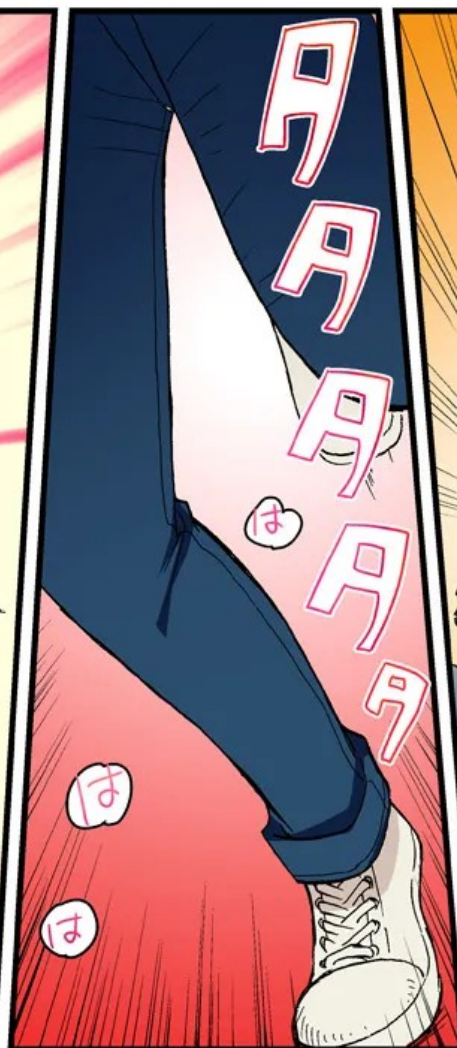














突然
そう
言われても
な……



思い返せば
苦渋の20年間
だった

幼稚園時代——

「光」という名前から某アニメの
キャラ役をやらされる

体が小さかった
せいかよく
女子に
かわれた



小・中学生時代——

引き続き色々な女子から
イジメをうける

高校時代——

孤独を好む俺をキモオタ認定し
クラスの女子からシカトされる
好きな子ですら……

告白の呼び出しに
誰もこないとか……

女装させられたり……
かいいハハハ
ギャハハハ

『好きな女の子と
やりまくるも
よし』

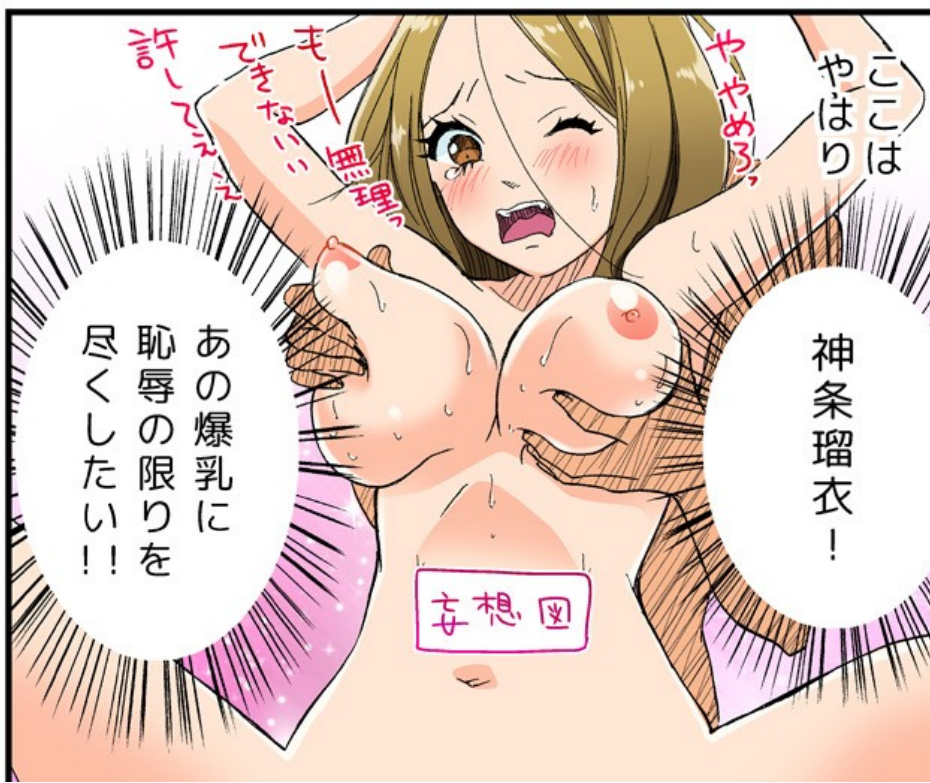
『うるんな子と
ハレムを作る
のもよし』

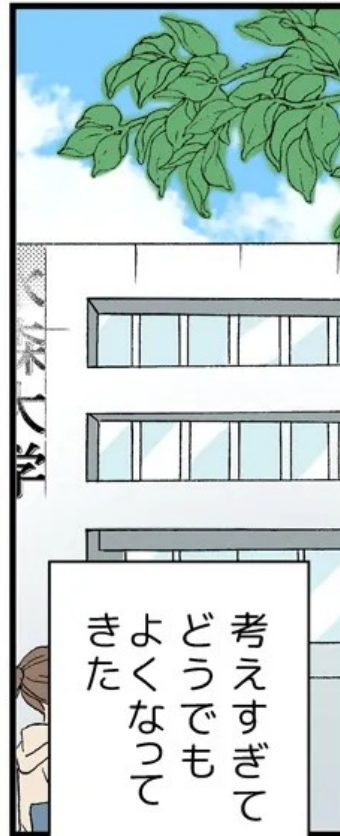
『君の欲望の
赴くままだ』

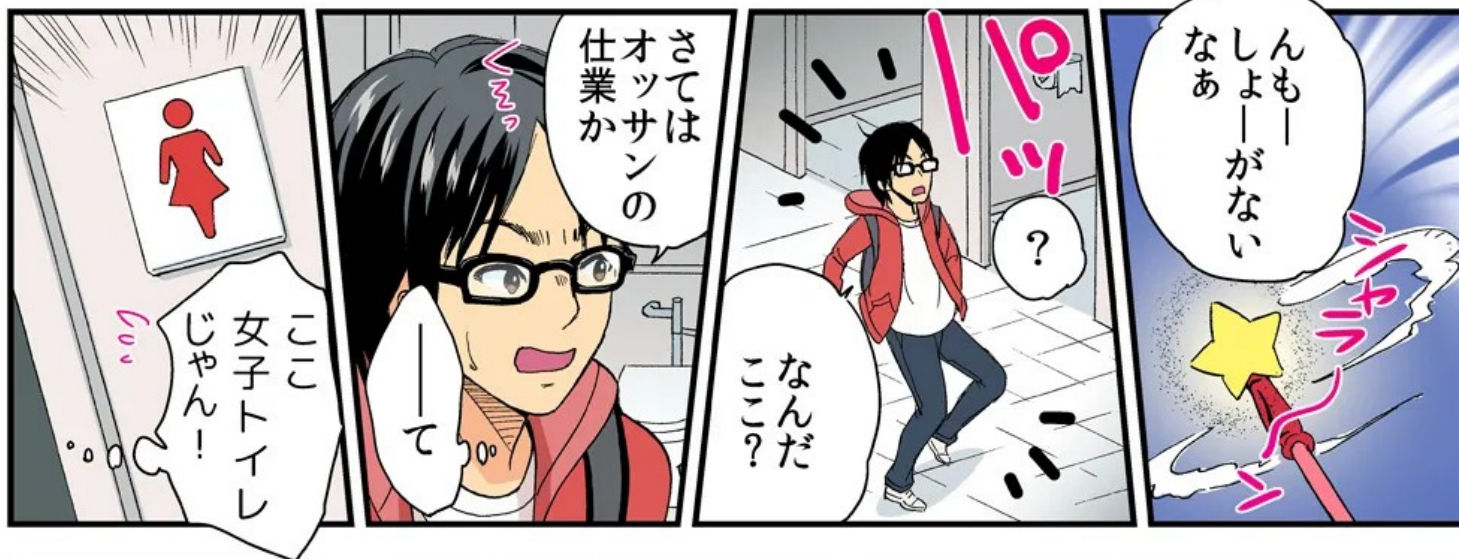
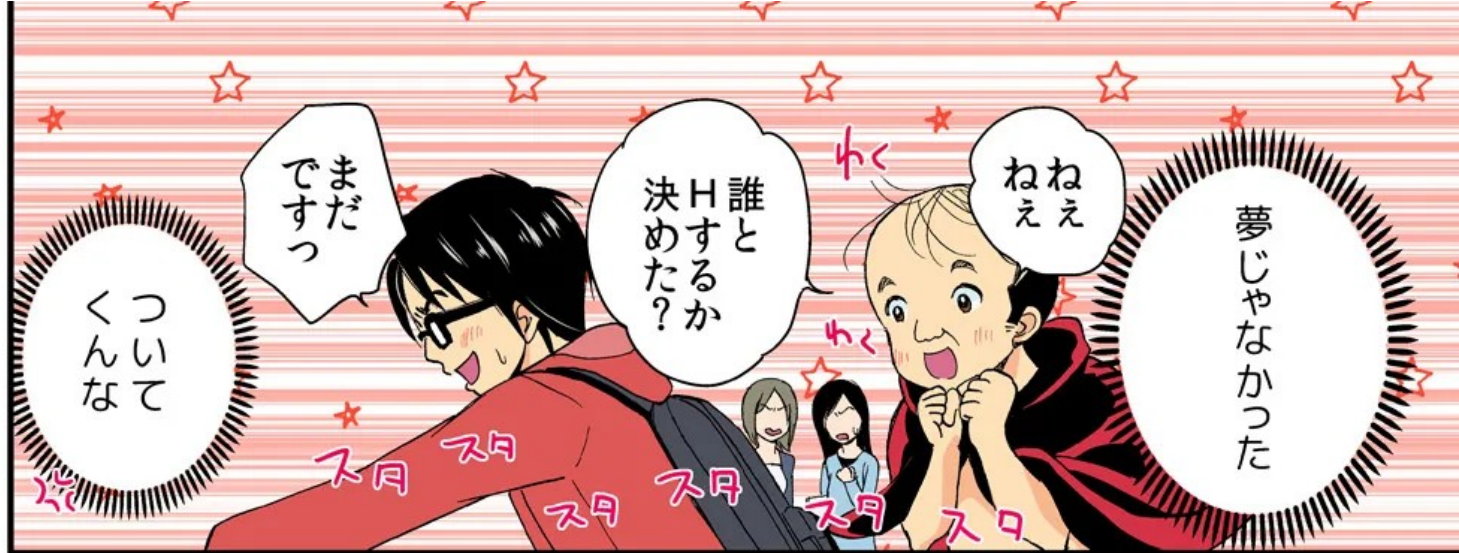


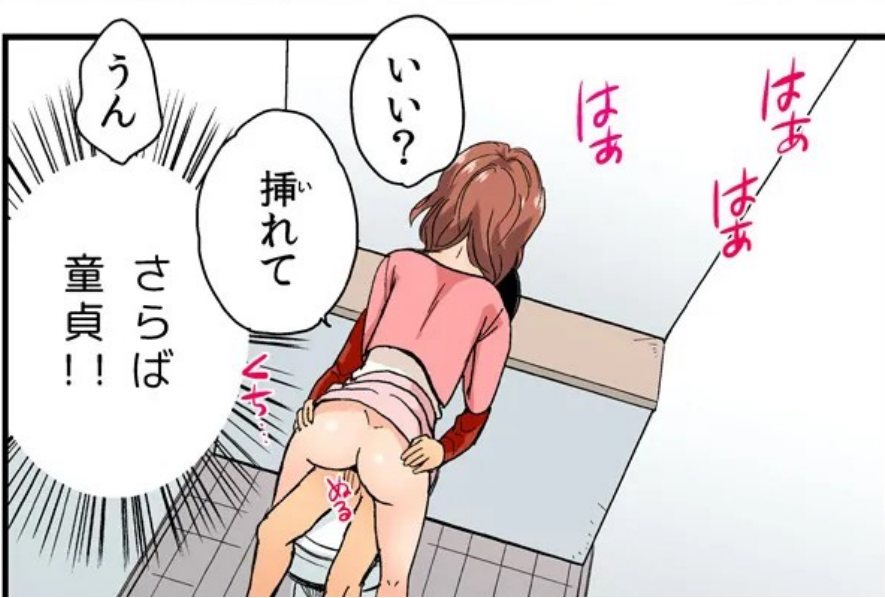
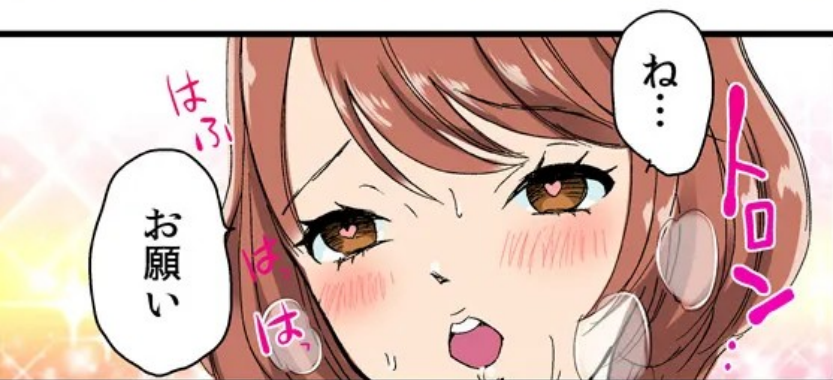
ふふふふ

ふふ







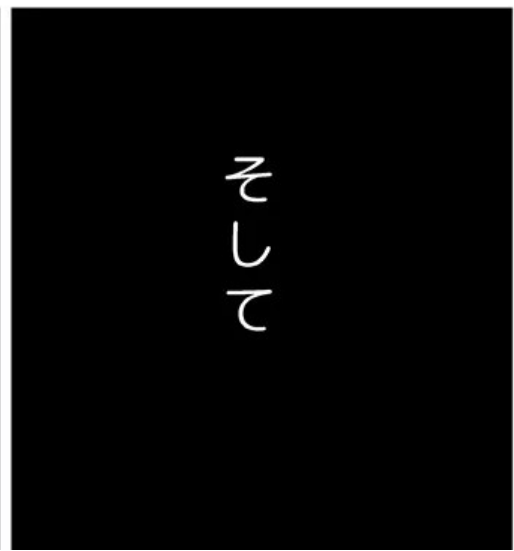
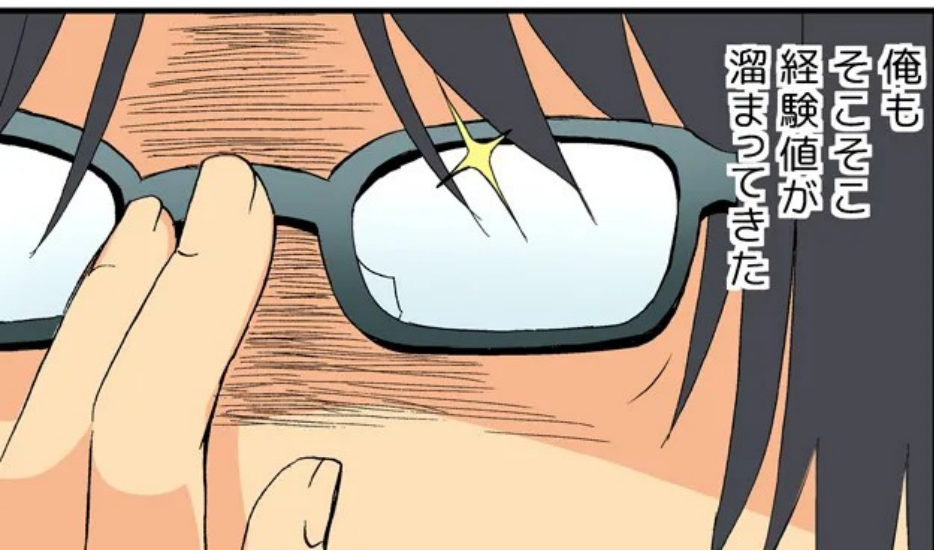
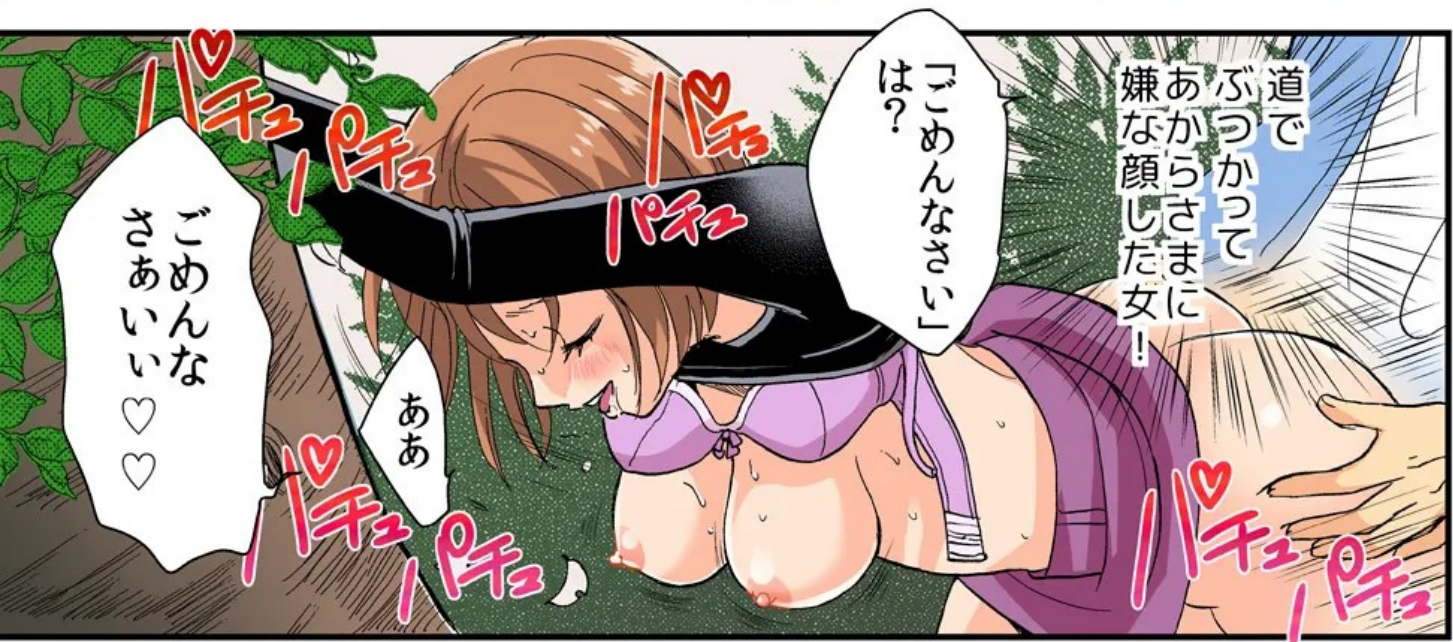






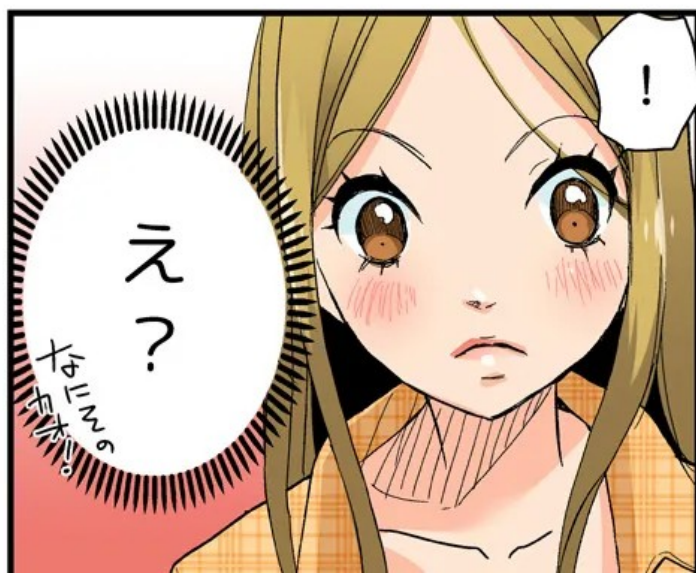
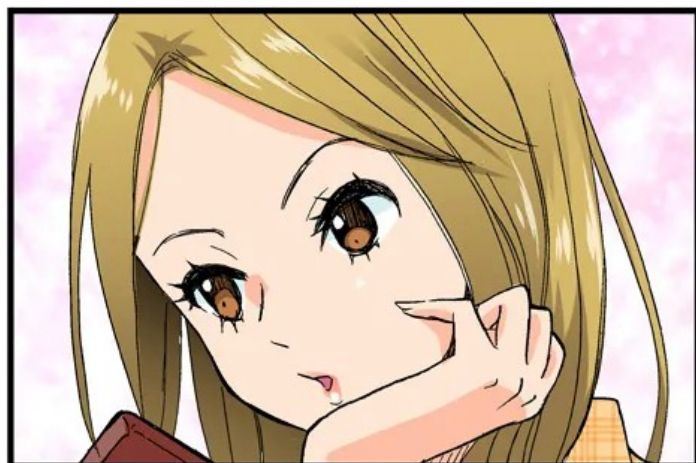
こうして
俺の復讐は
始まった



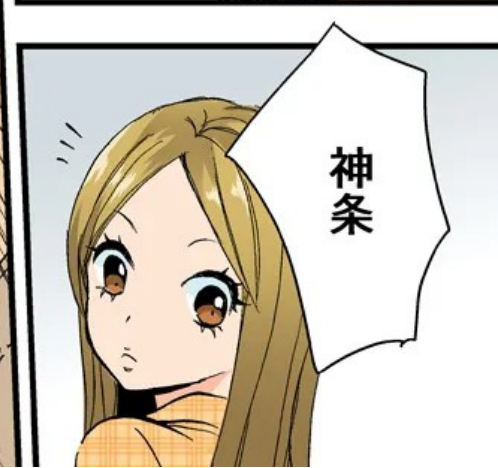
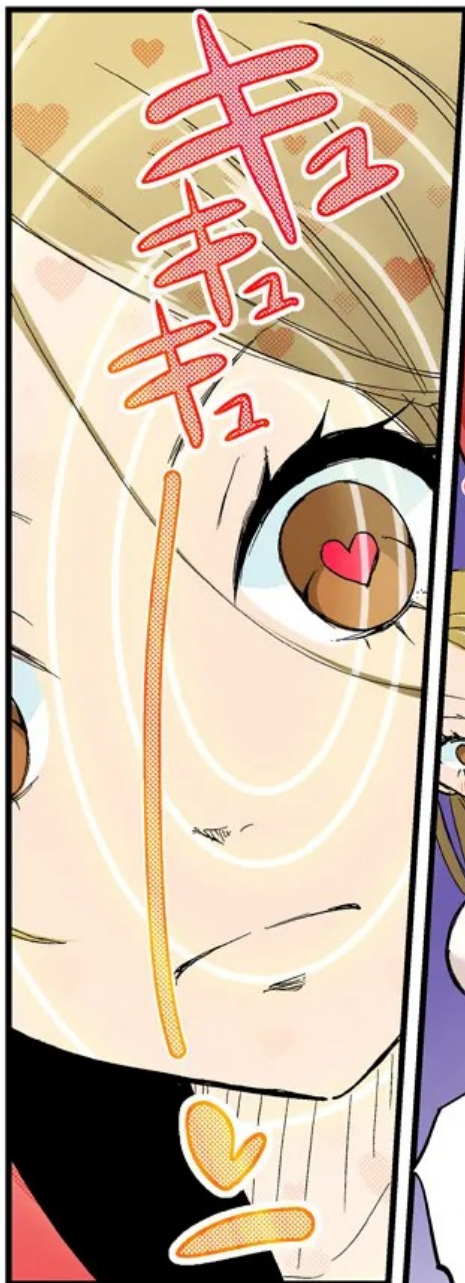


神条瑠衣

次は
キサマの
番だ



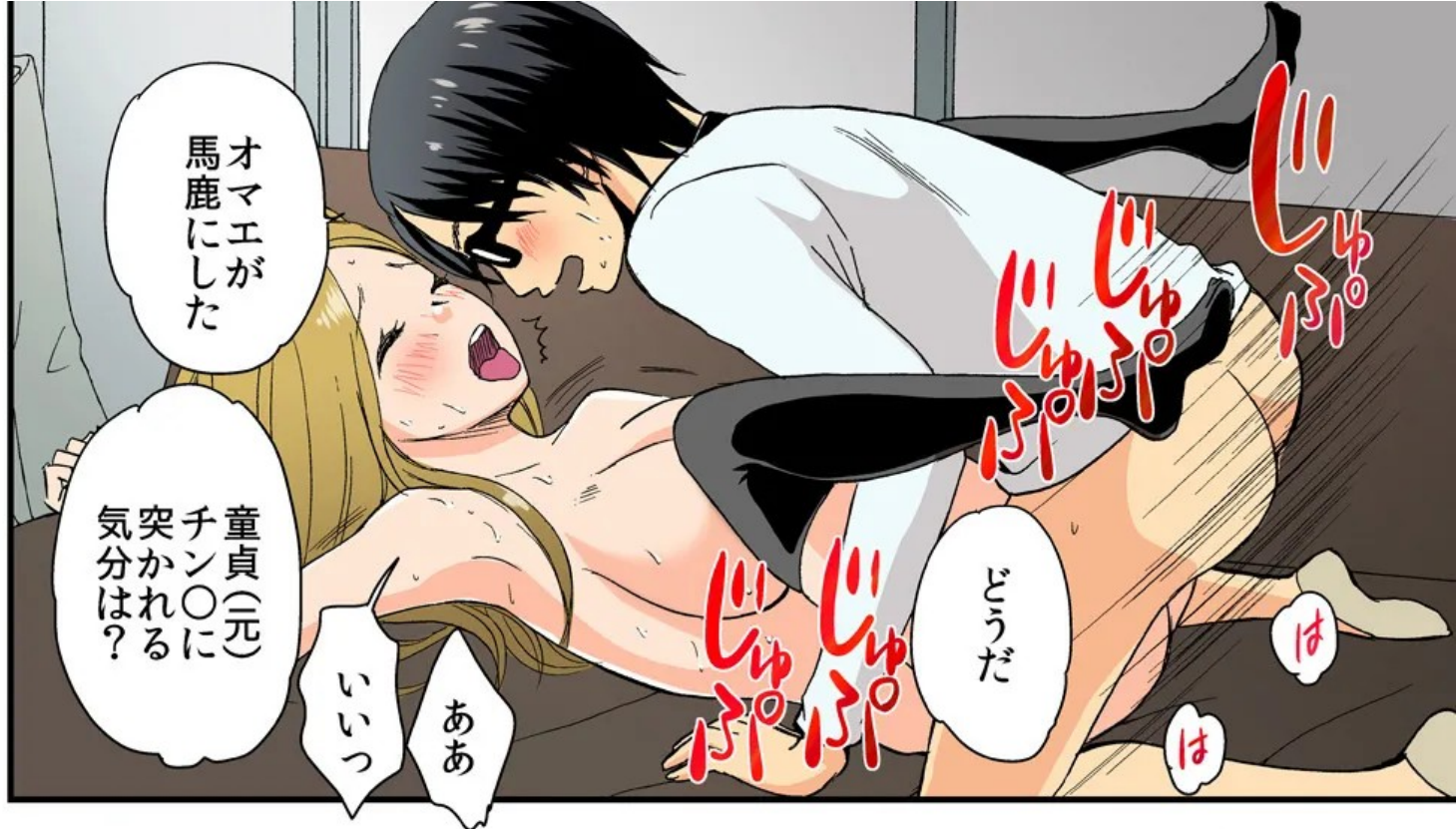


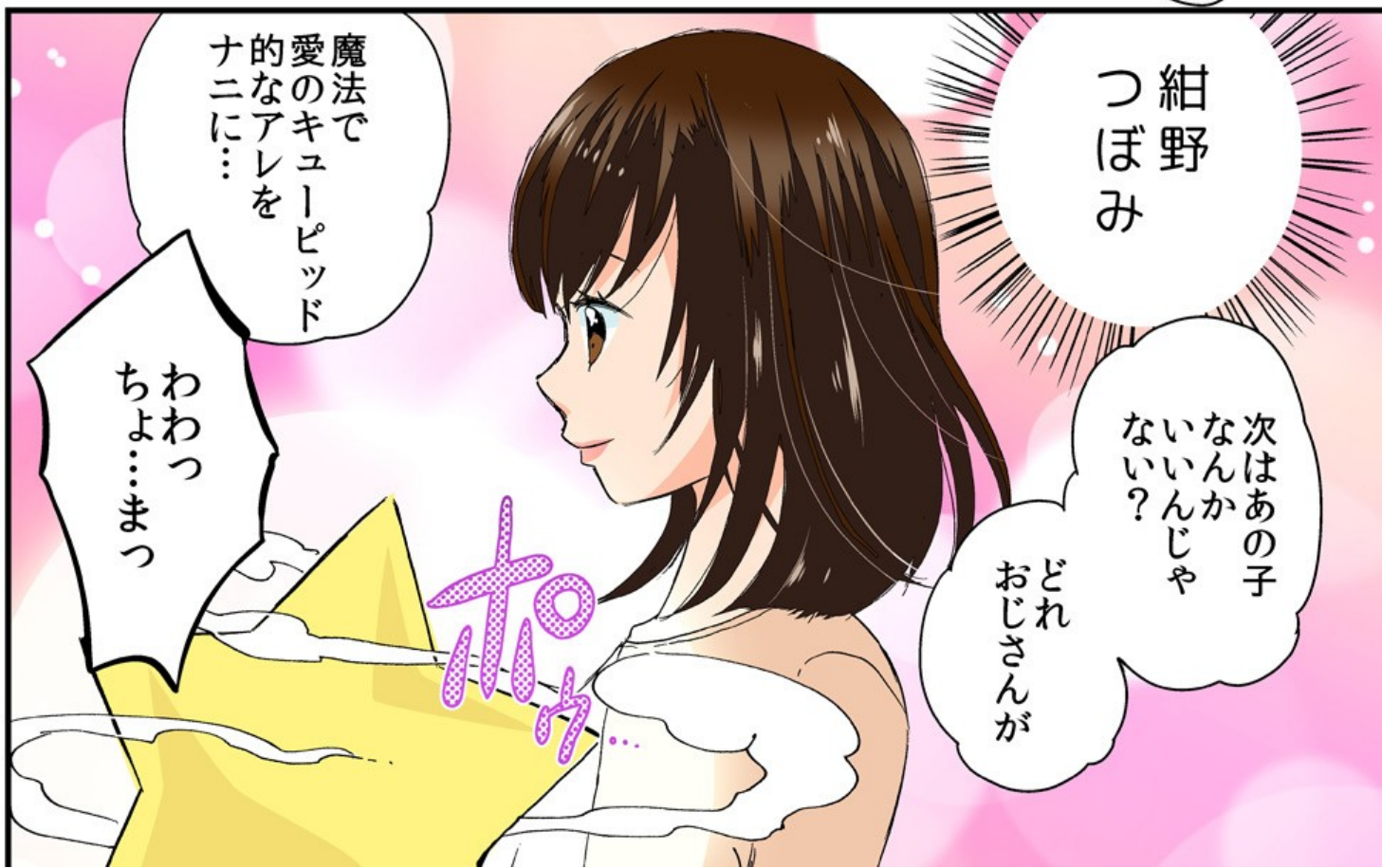
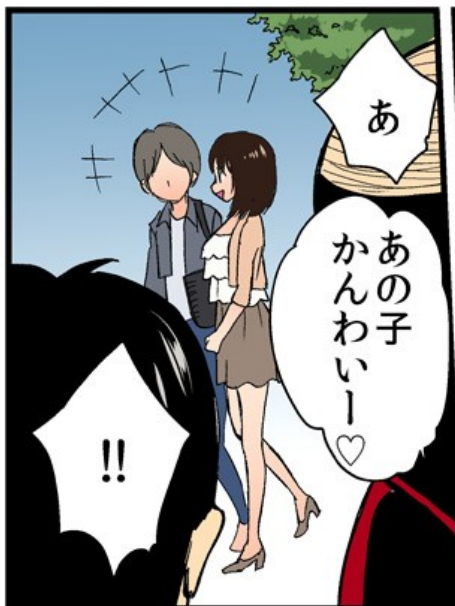


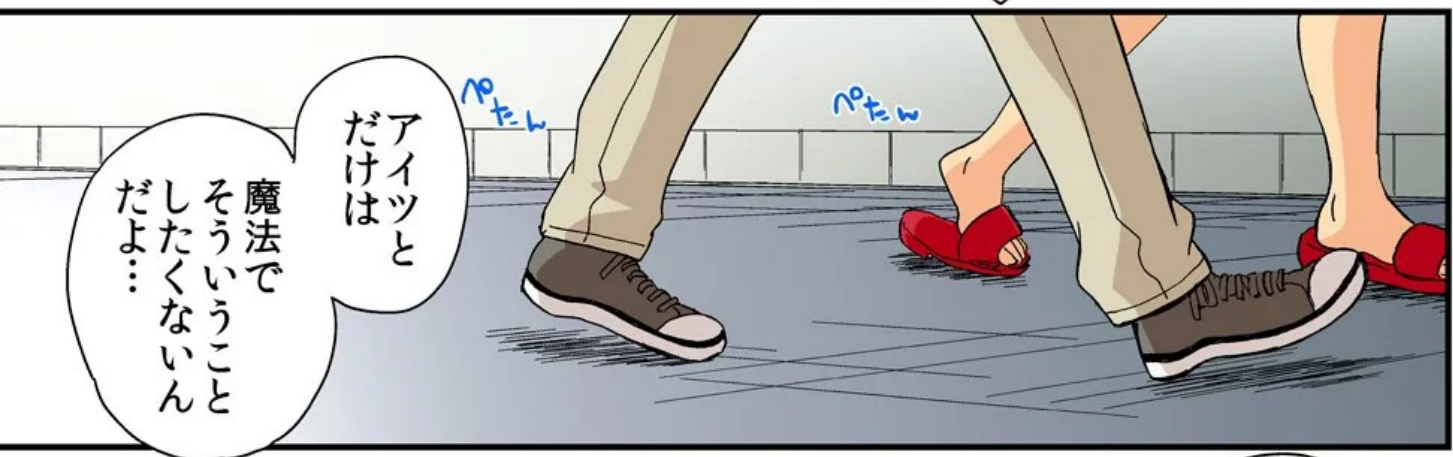
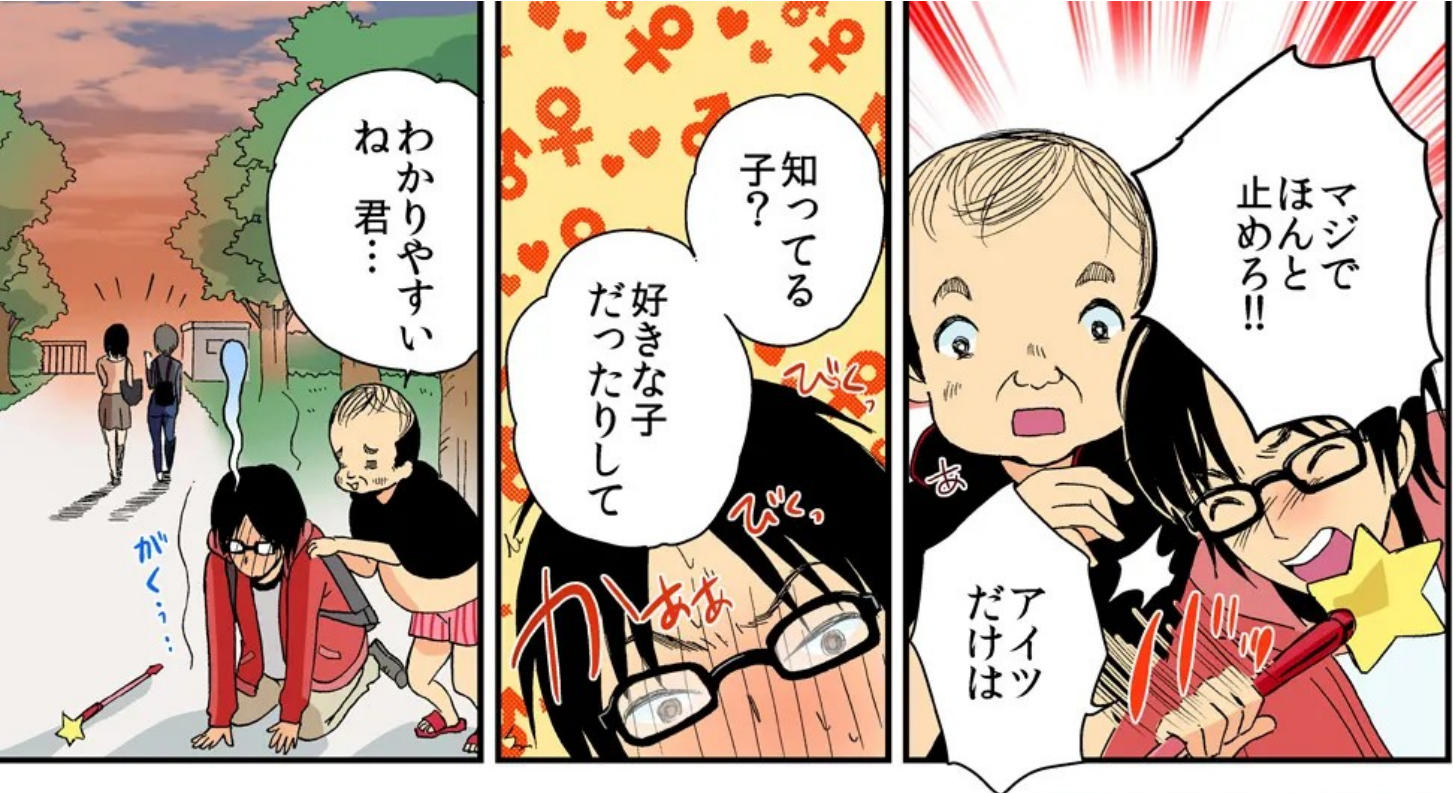


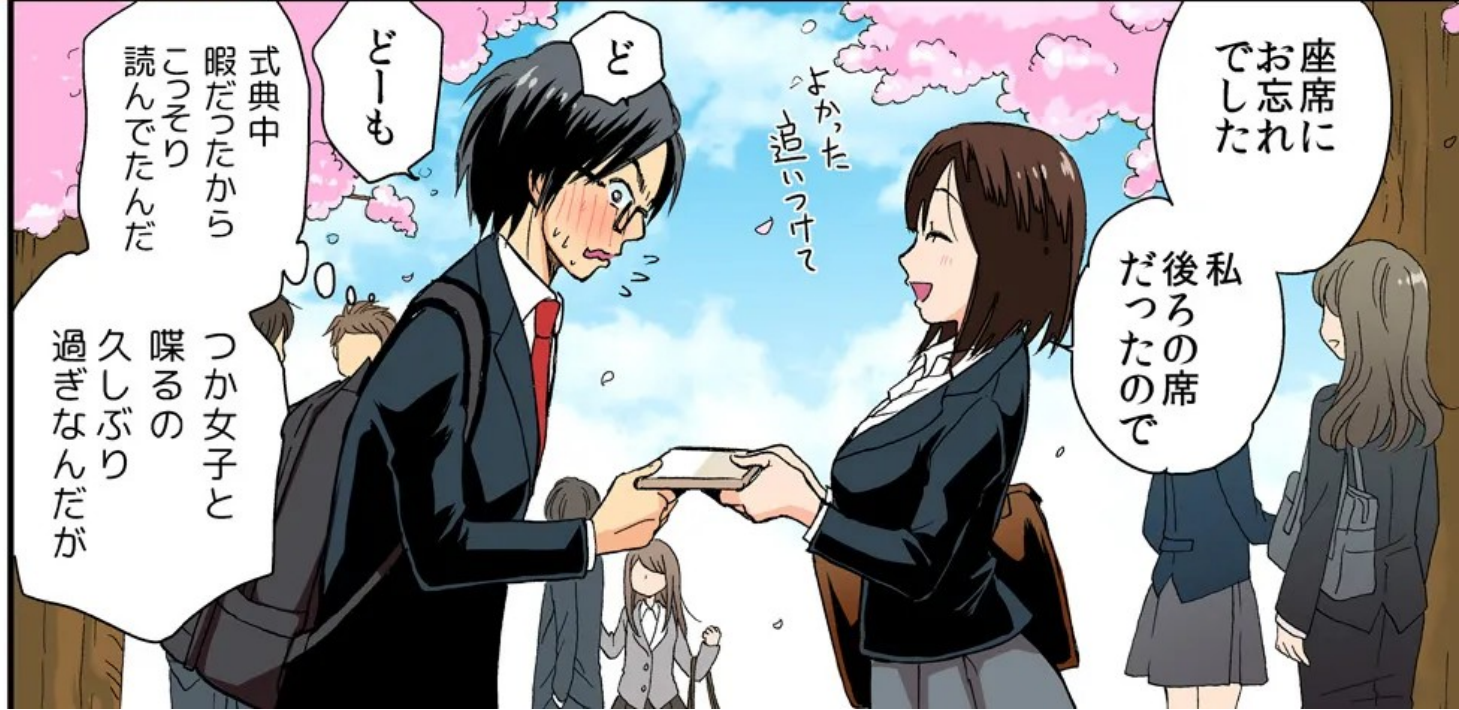
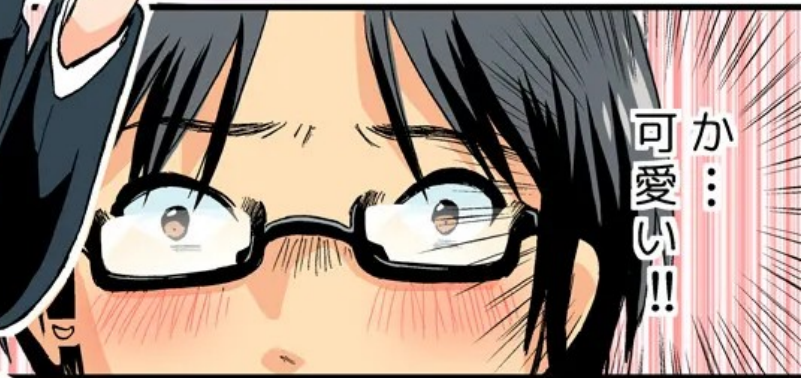


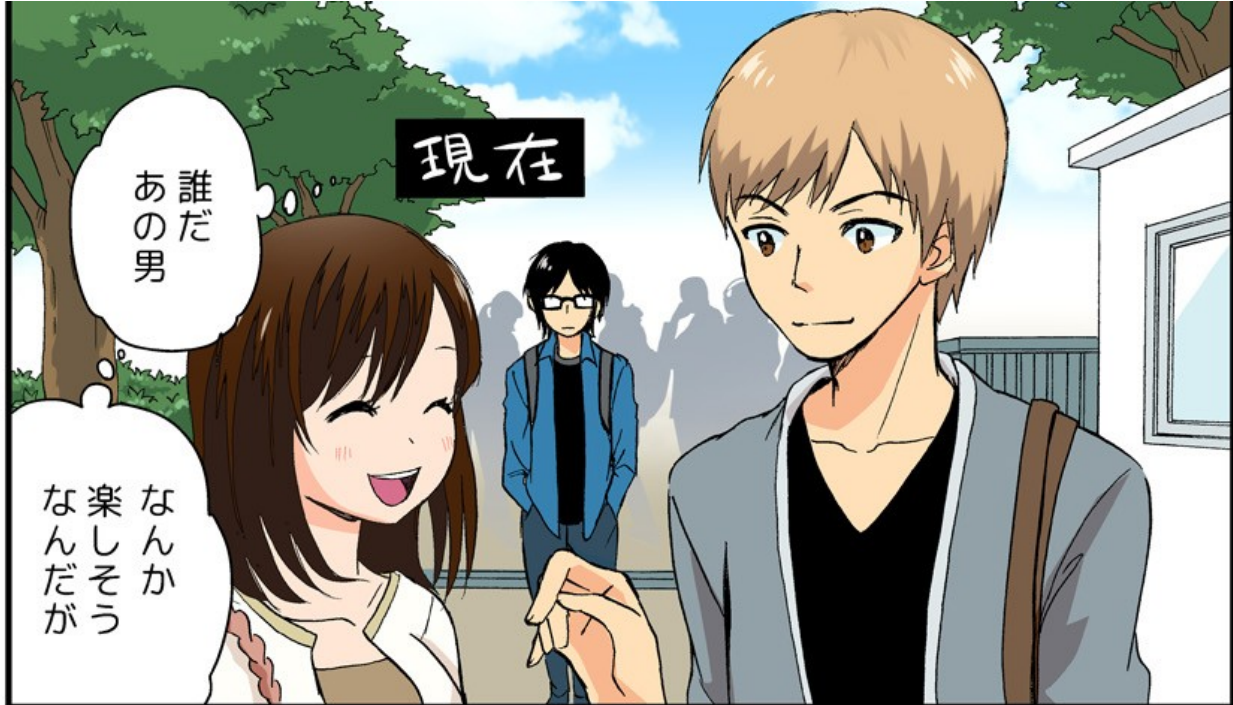








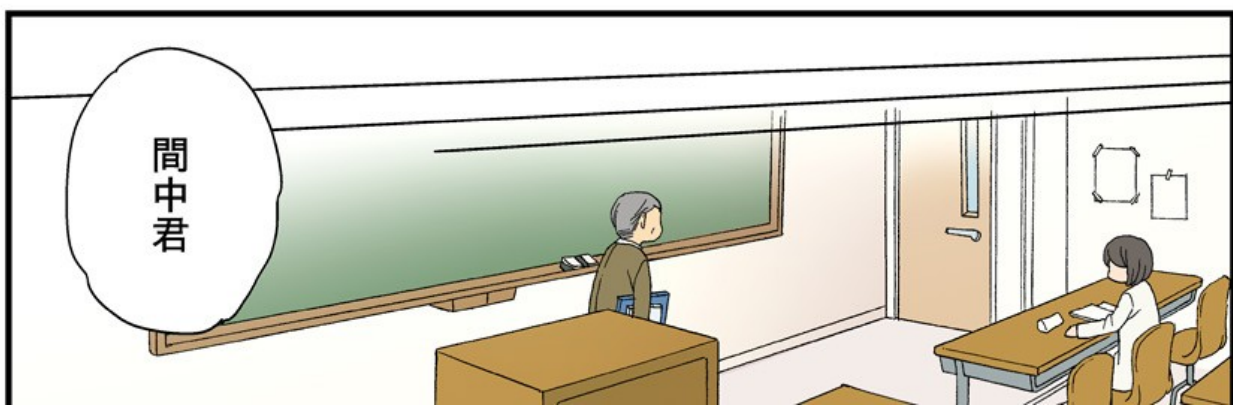
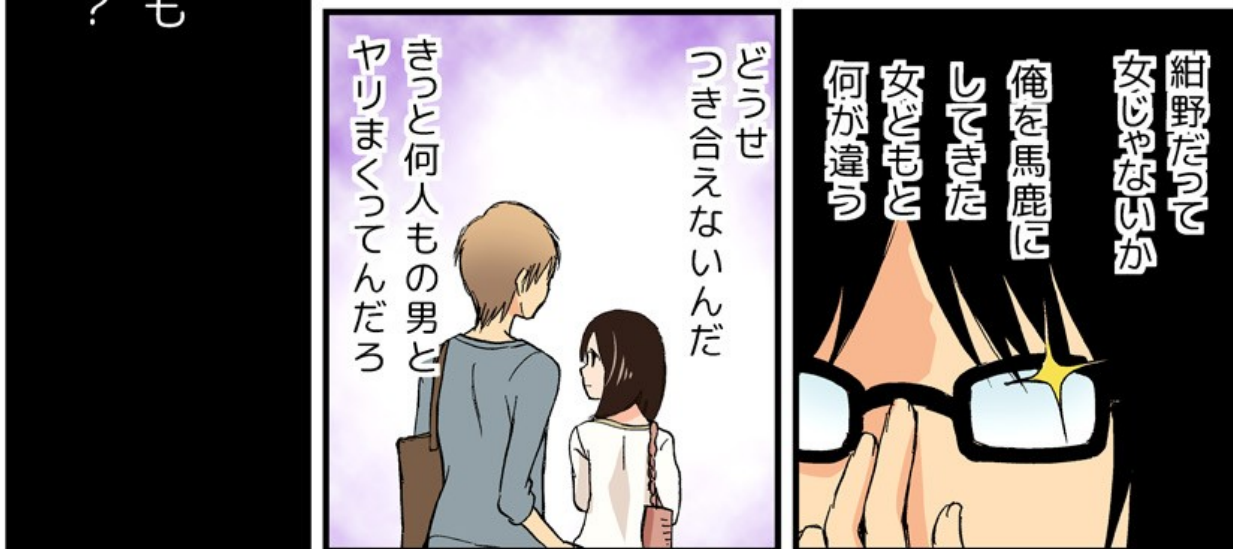




……はずだった



だったら
俺とヤッても
同じじゃね？







いや
勝手に
呑みすぎた
だけだし

近う

ごめんね
強引に誘って
お酒弱いん
だね



ああ外の風
にあたったら
良くなつて
きたよ

大丈夫？

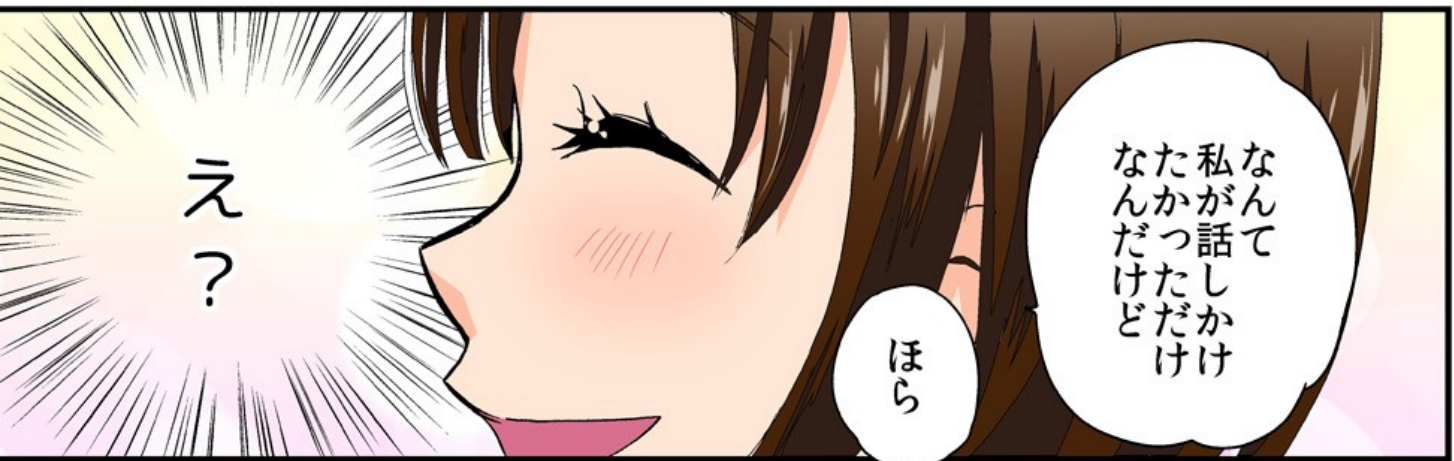


手がっ
手があ

おせうかい
しちゃった

こういう
機会あると
いいかなつて

間中君
皆とあまり
喋らないから



え？

ほら

なんて
私が話しかけ
たんだけど
なんだけど



入学式の時
忘れ物の本
届けたの私

覚えてる？

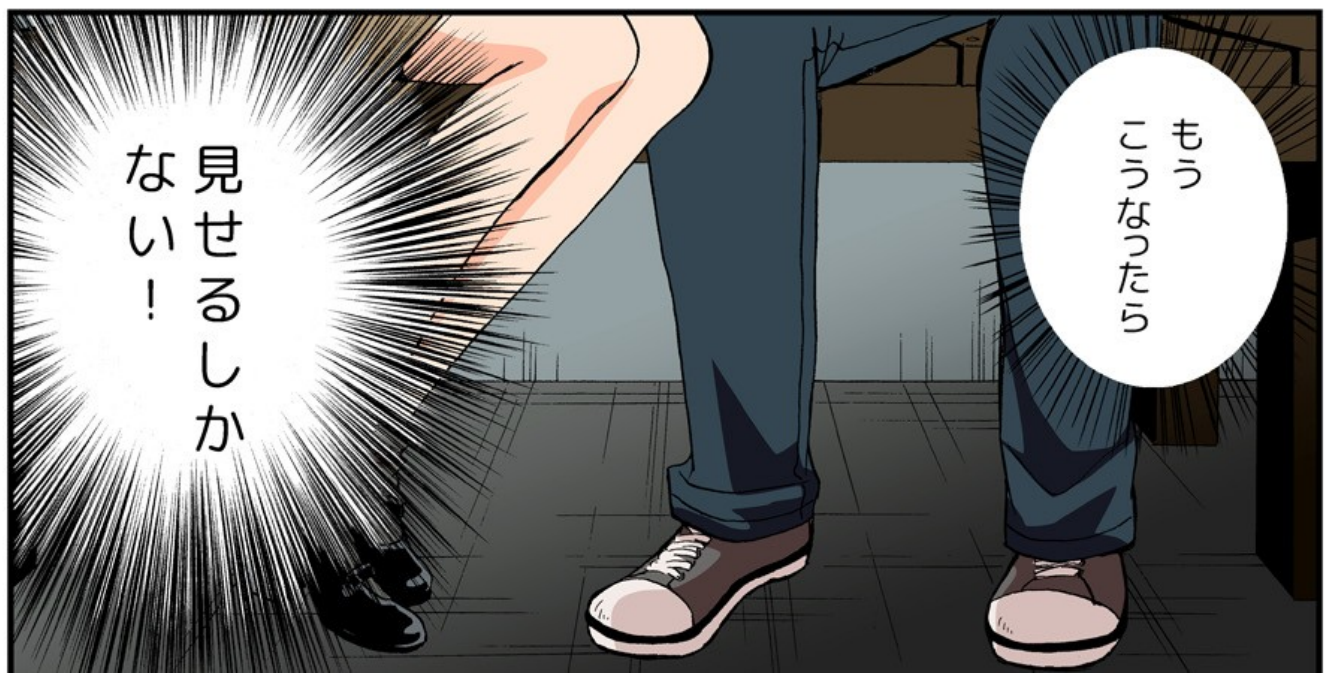
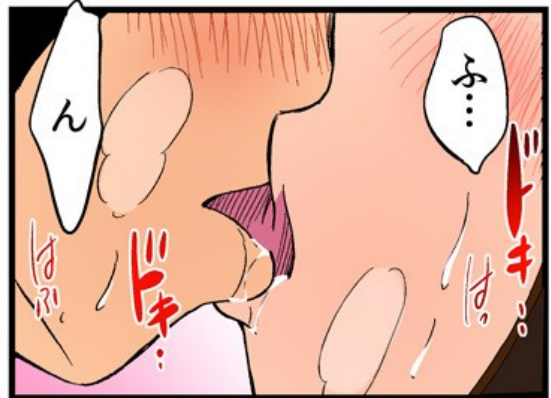
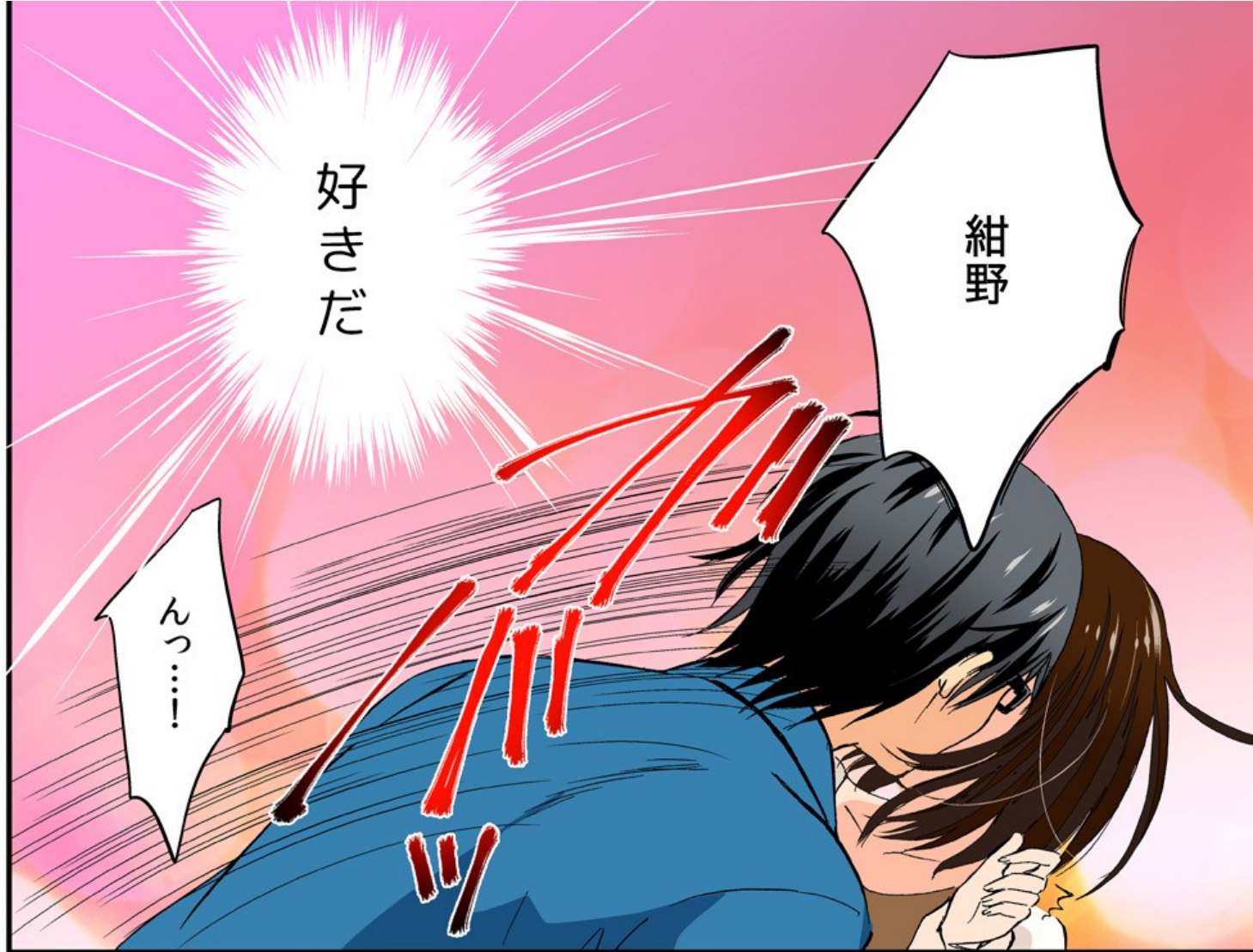
うん
うん

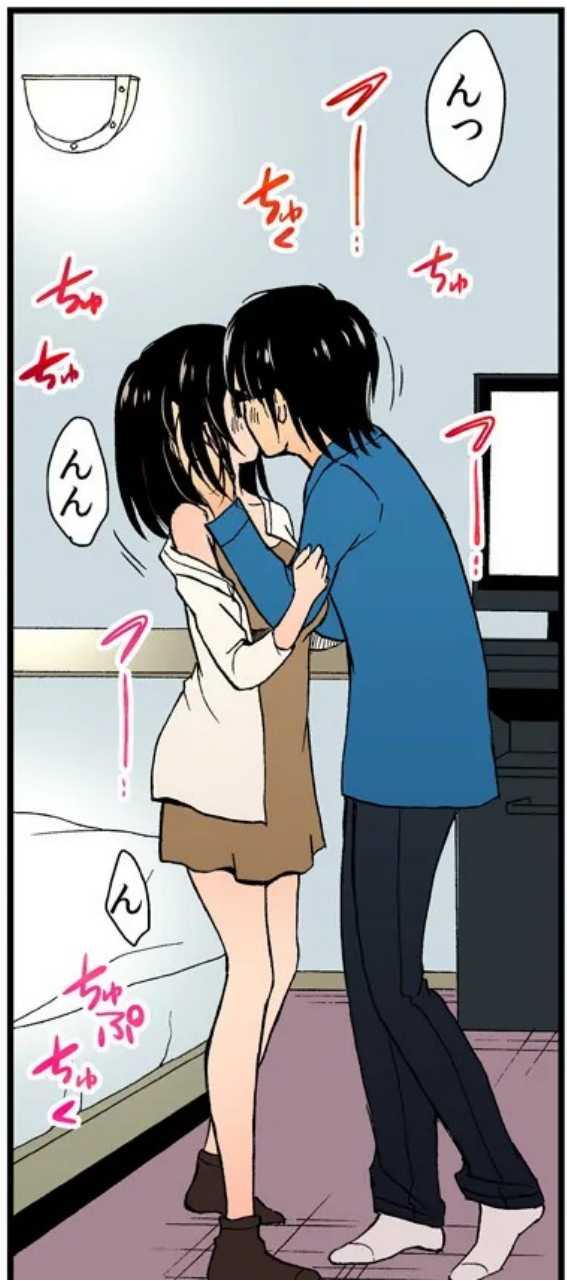
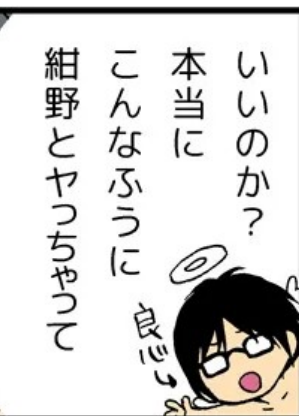
紺野

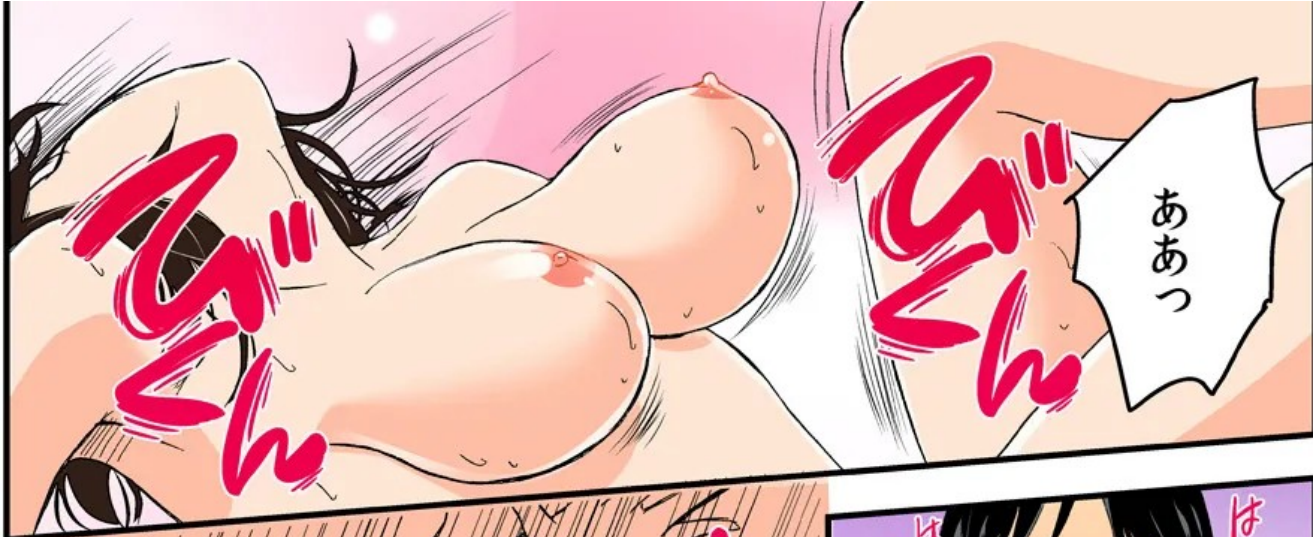
きつと話
合はんじやない
かなうて

思つてて

覚えててくれたんだ











それならせめて



何もかも
終わるか



普通の恋人に
なりたかった

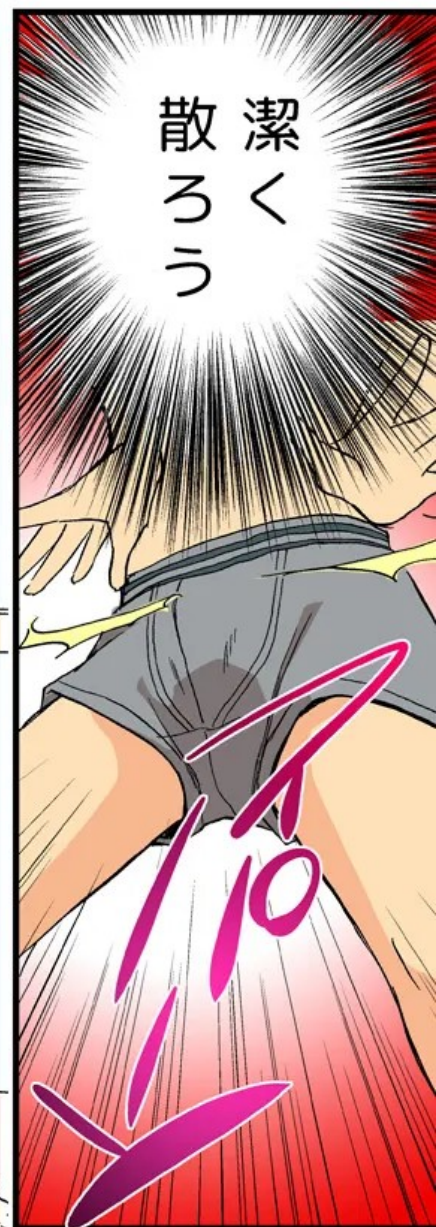
もう少し
勇気があれば
叶えられたかも
しれない



俺と
つき合って
下さい

紺野

ずっと
好きでした



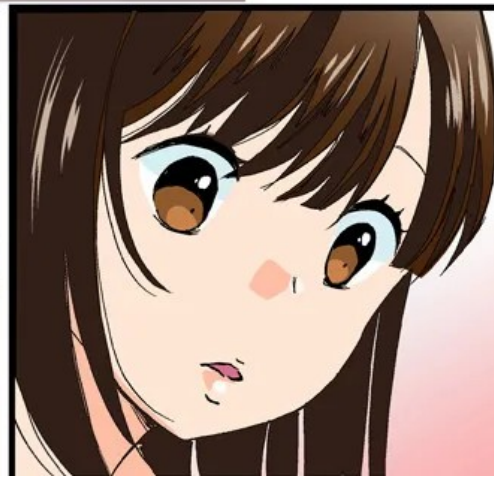
潔く
散ろう



間中君…

すまん…

ヤバイヤバイ
叫ばれる？
警察沙汰かも





とりあえず
ま

結果良しとしよう――



私だよ
ければ



そんなこと
忘れないよお

どういう事だ
魔法が効いて
なかったのか?!



ええっ

「順番」って
覚えてるの?!
俺としたこと

順番逆に
なっちゃった
ね



もう魔法が
無くなったって

お



うわっ
親父っ

なんだ光が
入ってた
の...か

視線



お陰で俺
少し変わった
気がするよ...



まさか回数
限定の魔法
だったとは

最初に言え
っつーの

数えてみたら
部室でしたの
がラストだった☆

までも
良い思い出だし
彼女もできたし
それに



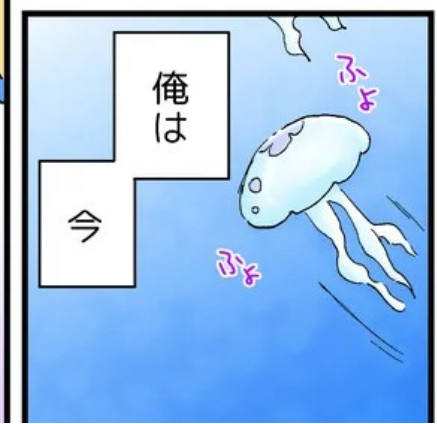
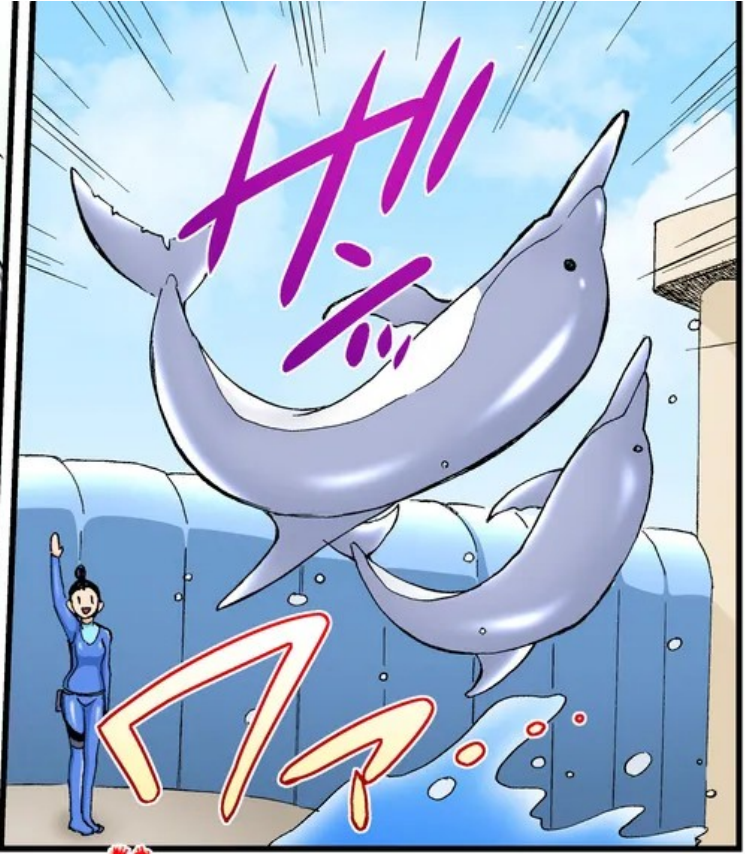
追加サービス
しといたよお
♡

魔法
無くなつてね——っ

どーなつて
んの?!

わ——っ
やめろ親父
抱きつくな!

ひ
光う~~~~♡♡♡







え
どこの？



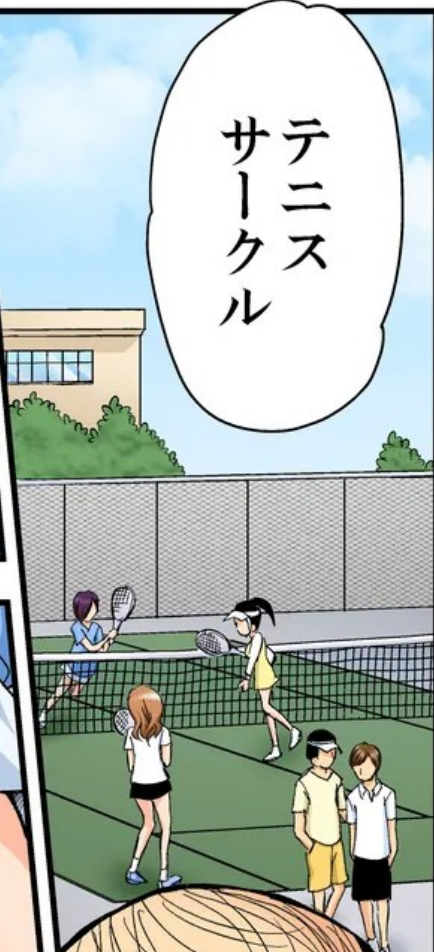
そう
そう
私ね
瑠衣ちゃんに
サークルの
助っ人頼まれ
たんだ



ふわっ♡
そっち行っただろ♡



ちらん♡
はっ♡



テニス
サークル



なぜ
オッサンが
ここに？！

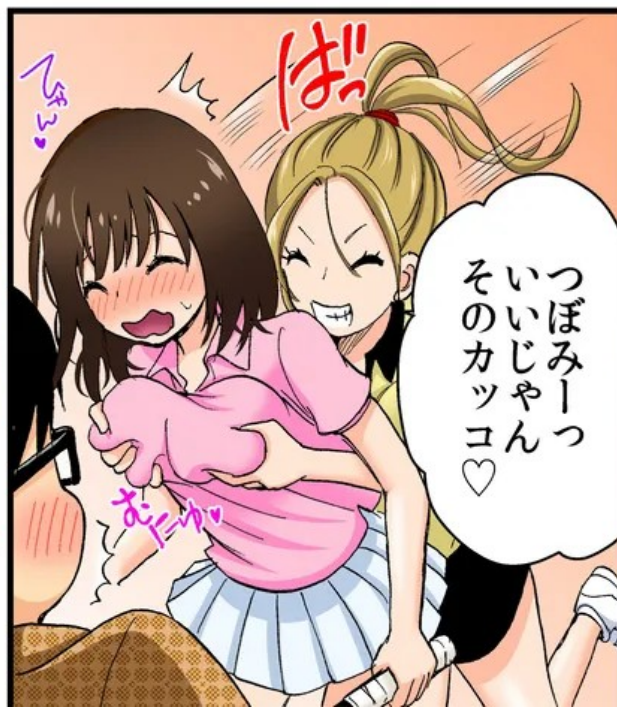
イイネ！
短いやつ♡



おおおお

俺はもう一生
プラトニックでも
いいiiiiiiii!!

ブツ





「冗談」じゃ
ねーから

何その冗談
ウケるー



はい？



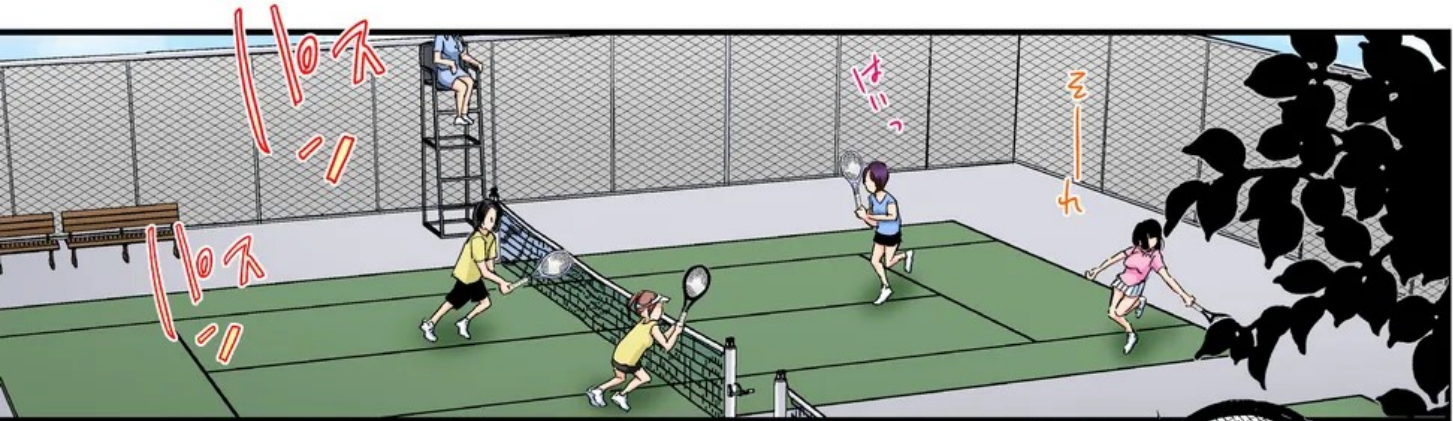
「彼氏」
だから？

「彼氏」!!!

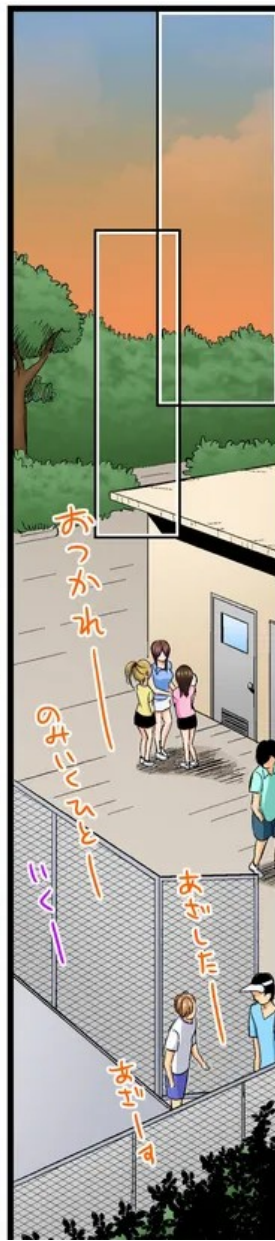


ウチがもつと
イイ男紹介
してやつから

犯った記憶が
無いのが
逆にムカつくわ



やっぱり紺野は
あっちの世界の
人間だよなあ：





見てたん
だろ？

ウチらの
スコートの中
のぞいてたろ

オッサン!?



ん？

ちよつと
オッサン！



パンツが
見たいんじゃーっ



ちよつと！
どうした？

あー
もー

何やって
んの!?



のぞいたような
そうでない
ような...

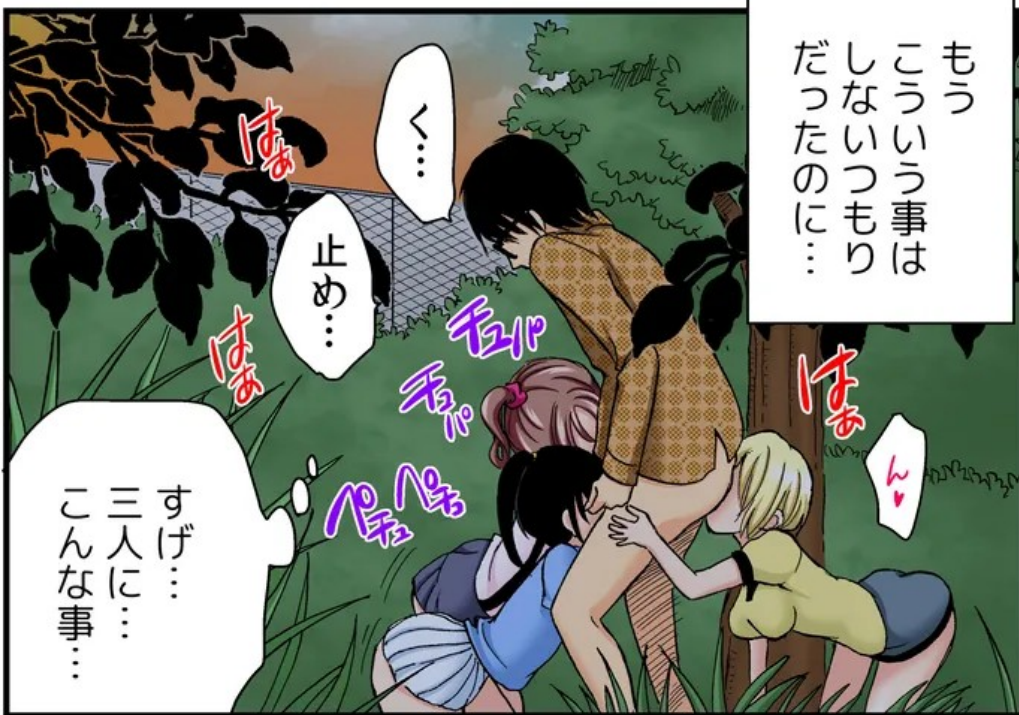
はあ？

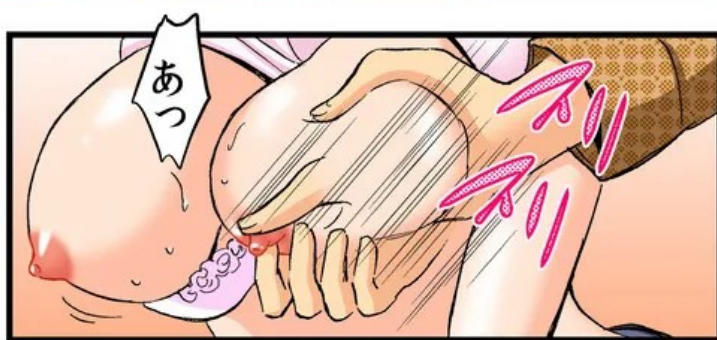


わー！
来んな!!

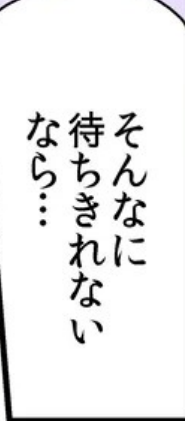
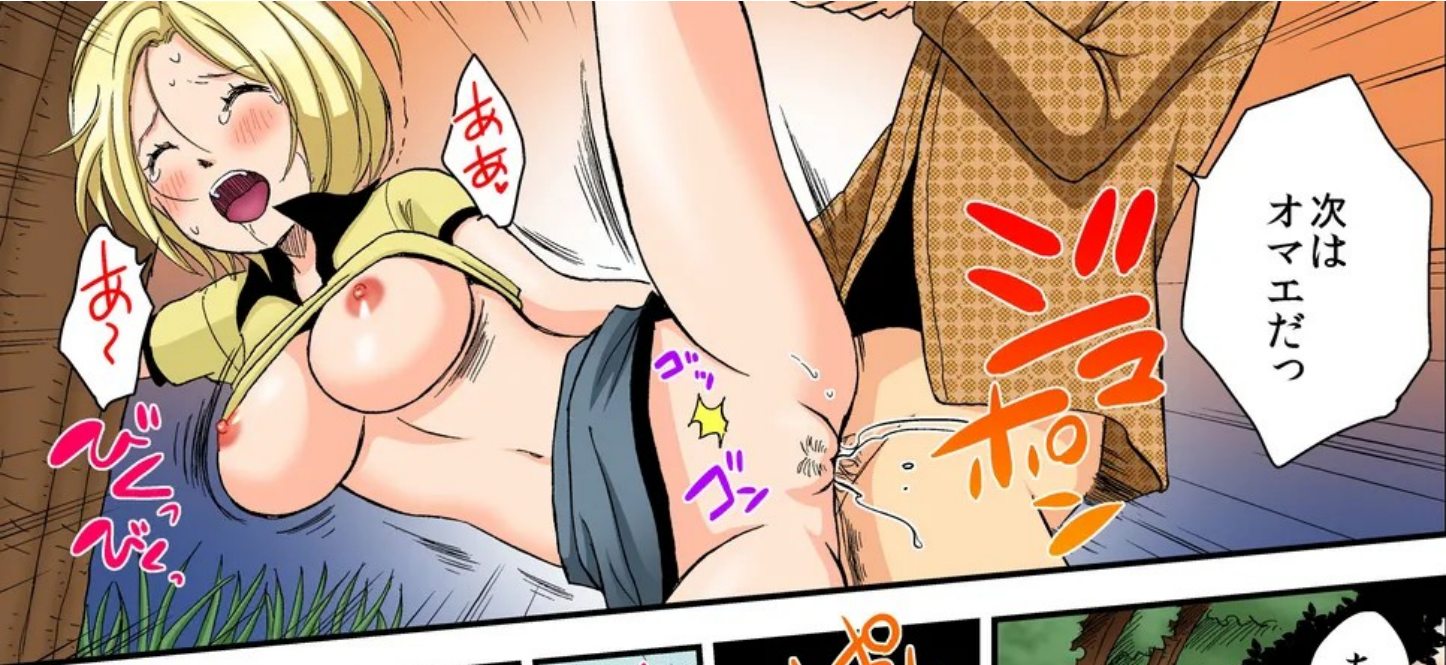


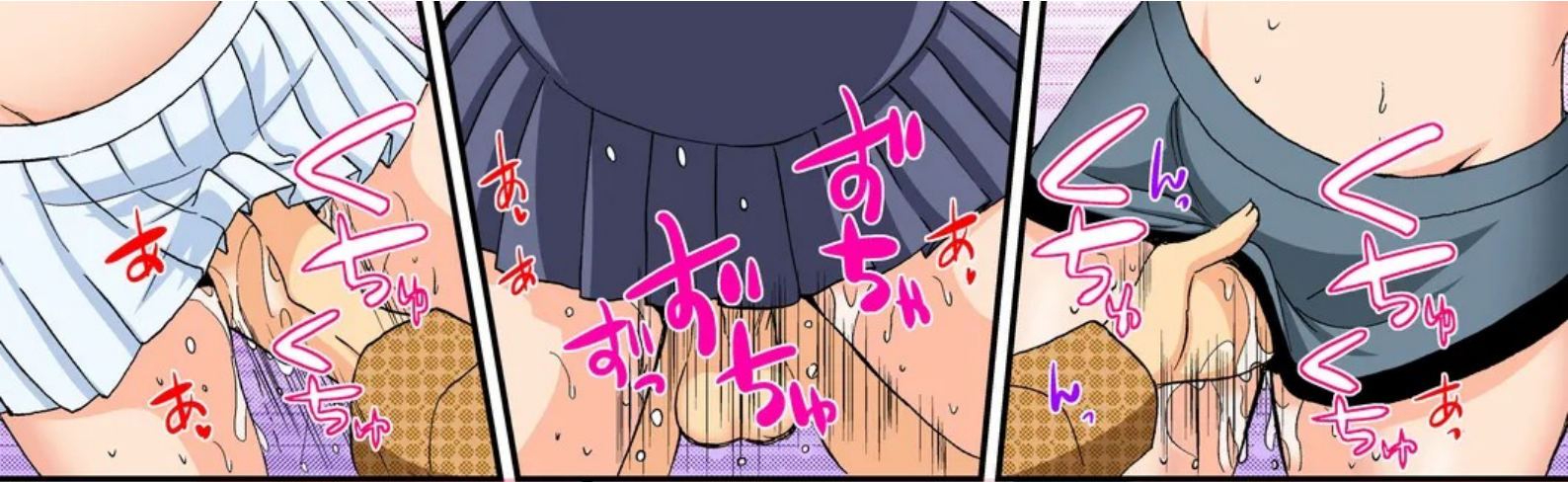
おじさん
だつて
おじさん
だつて！

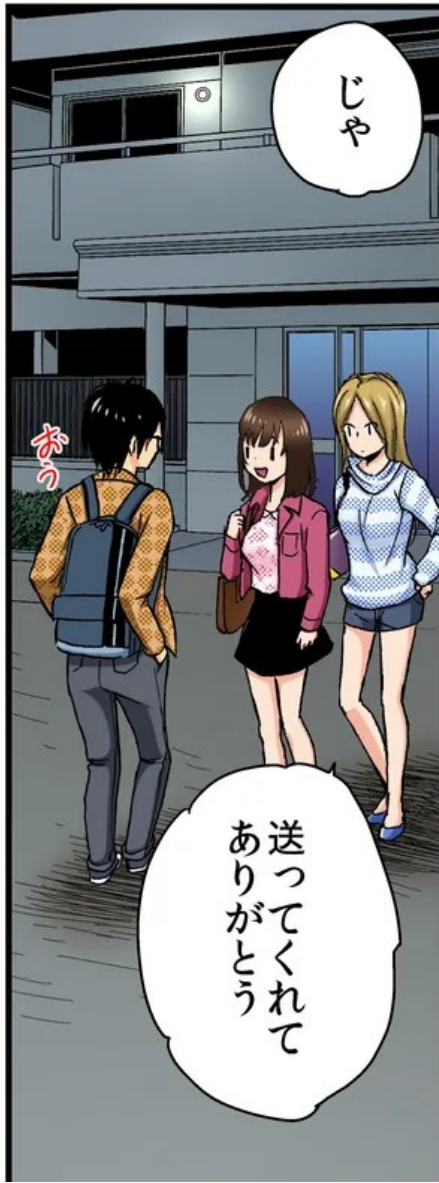
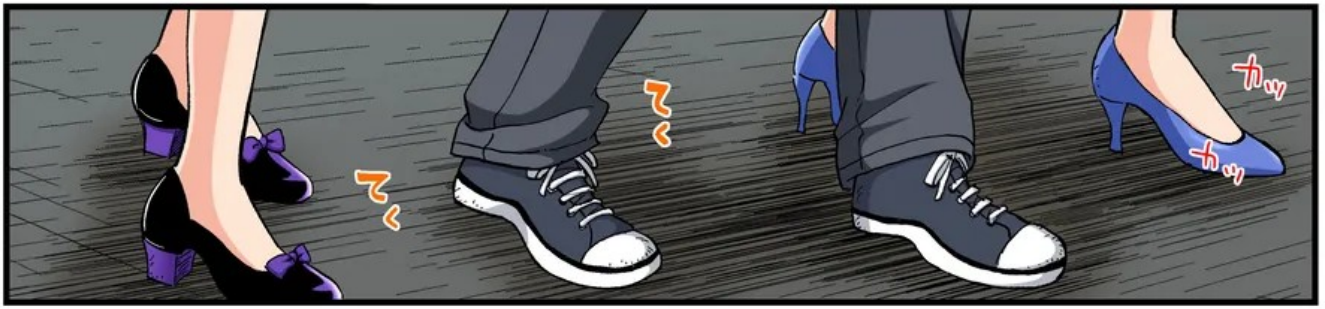


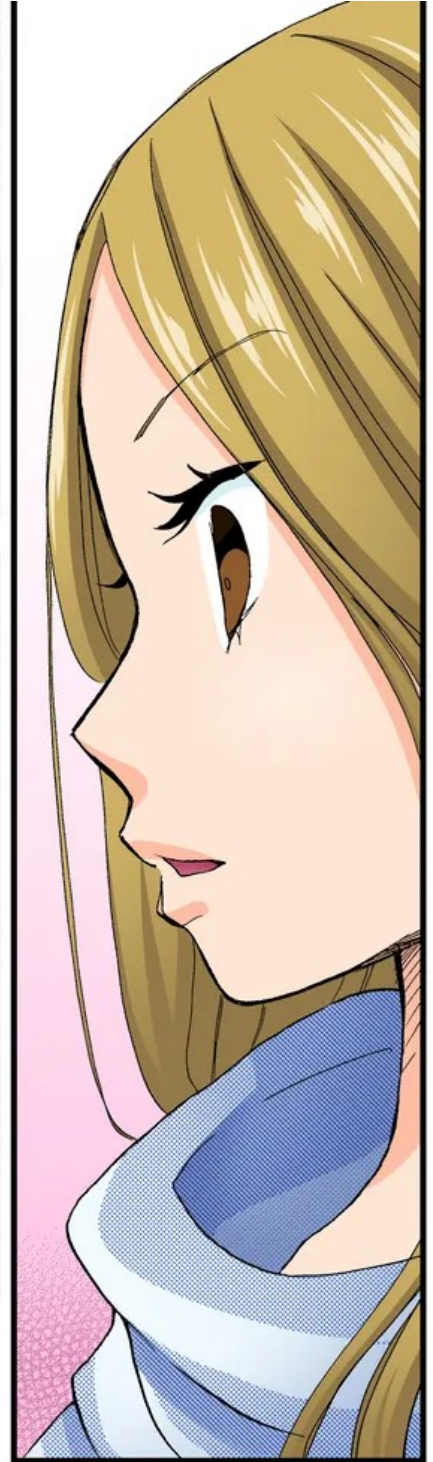


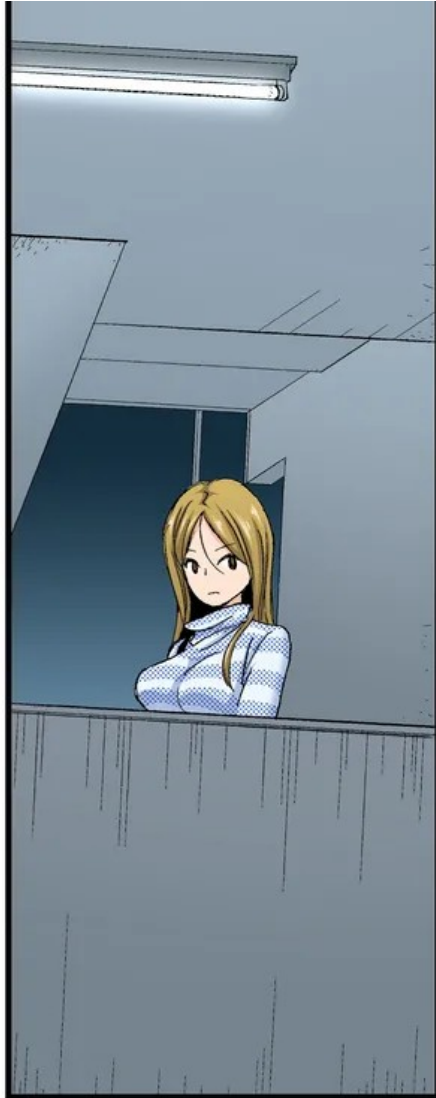






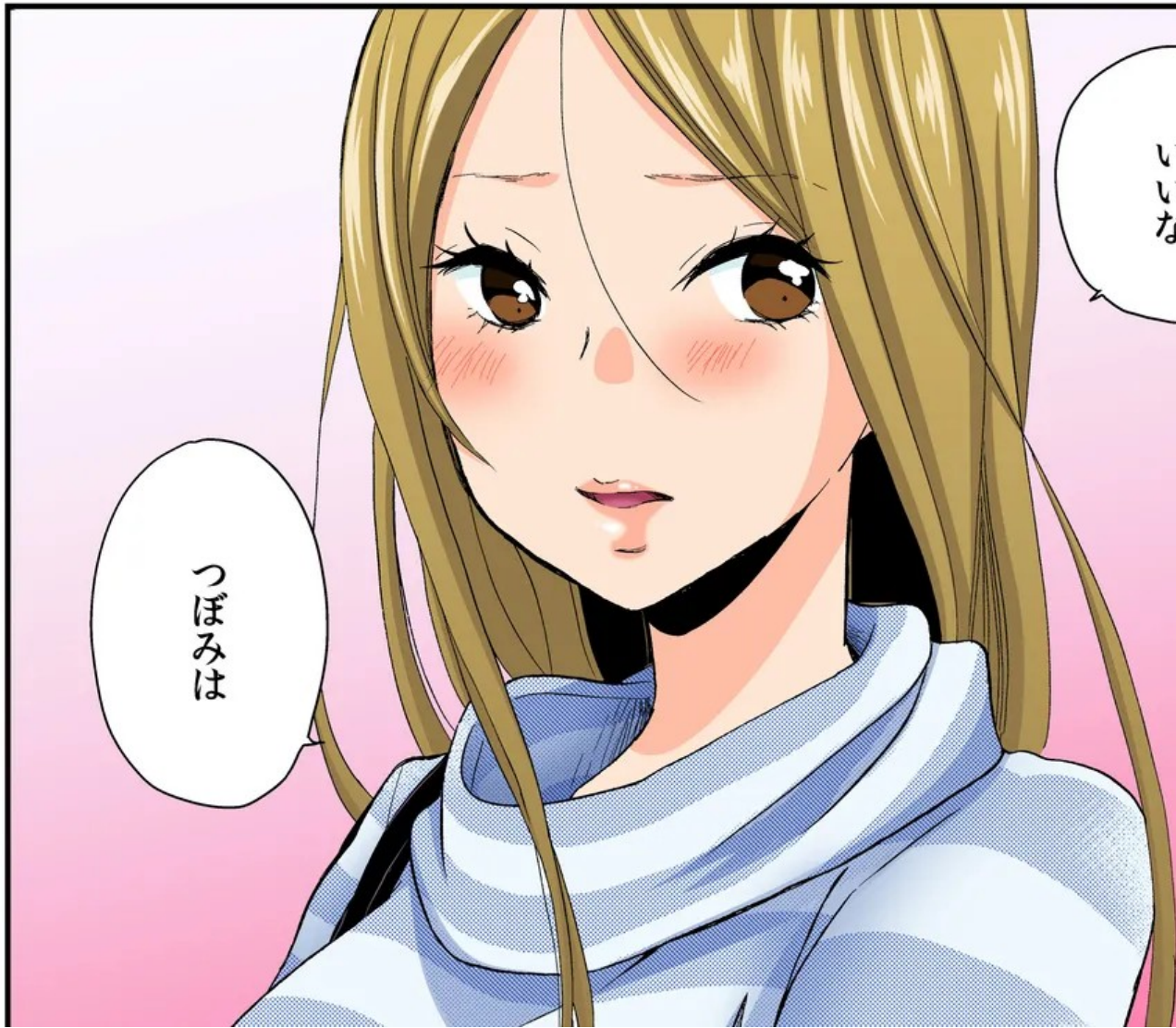






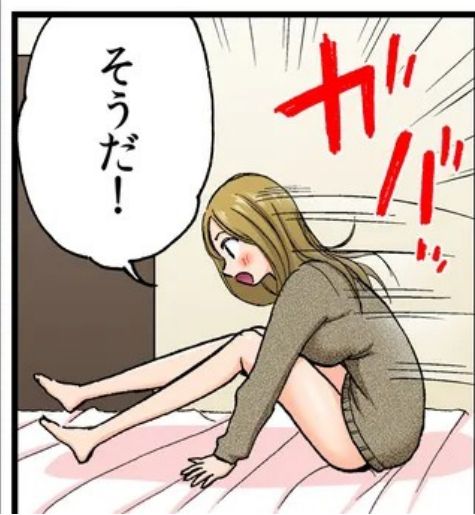
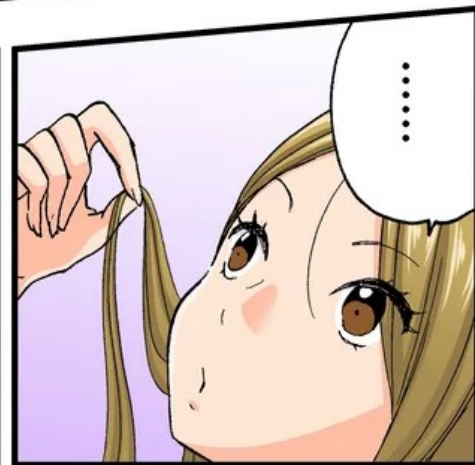
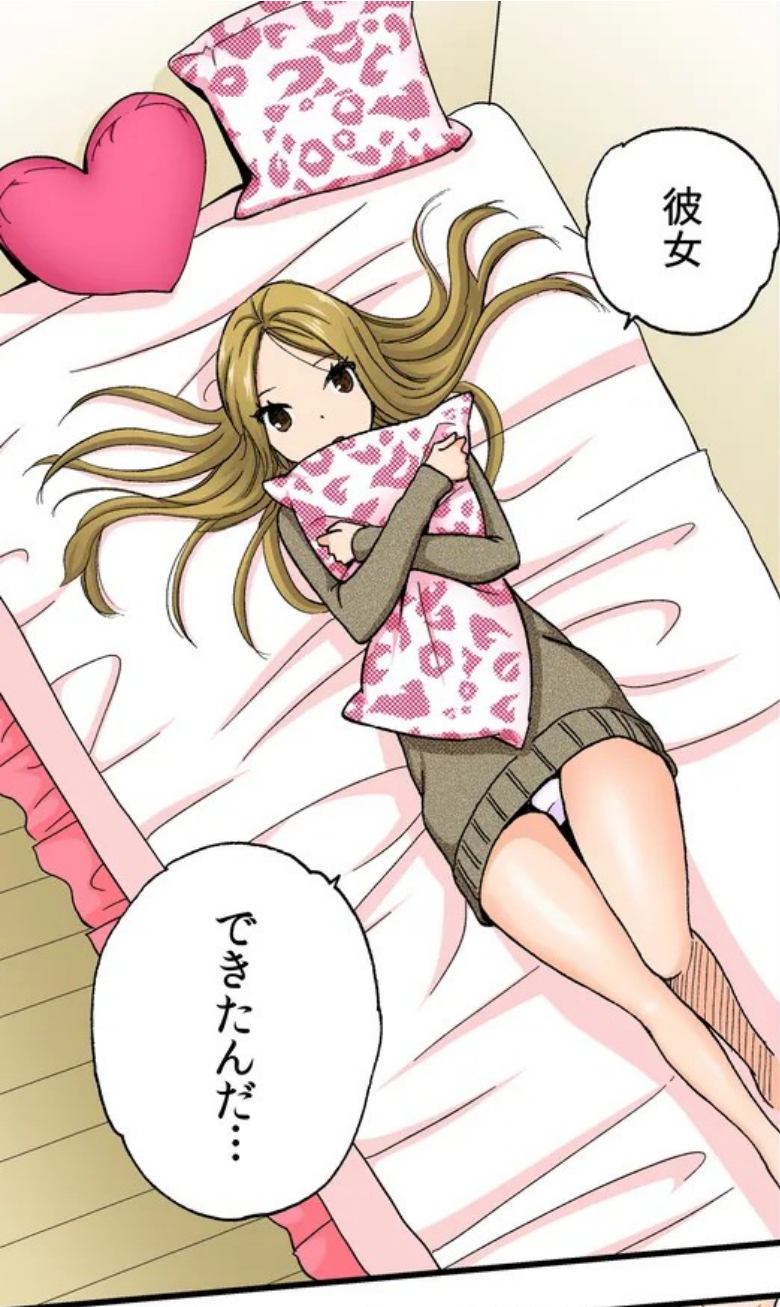
その
代わり…

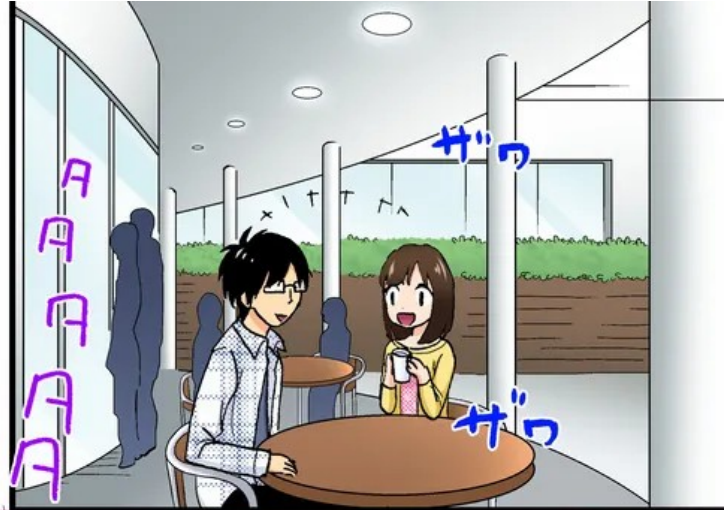
もう
一回だけ…

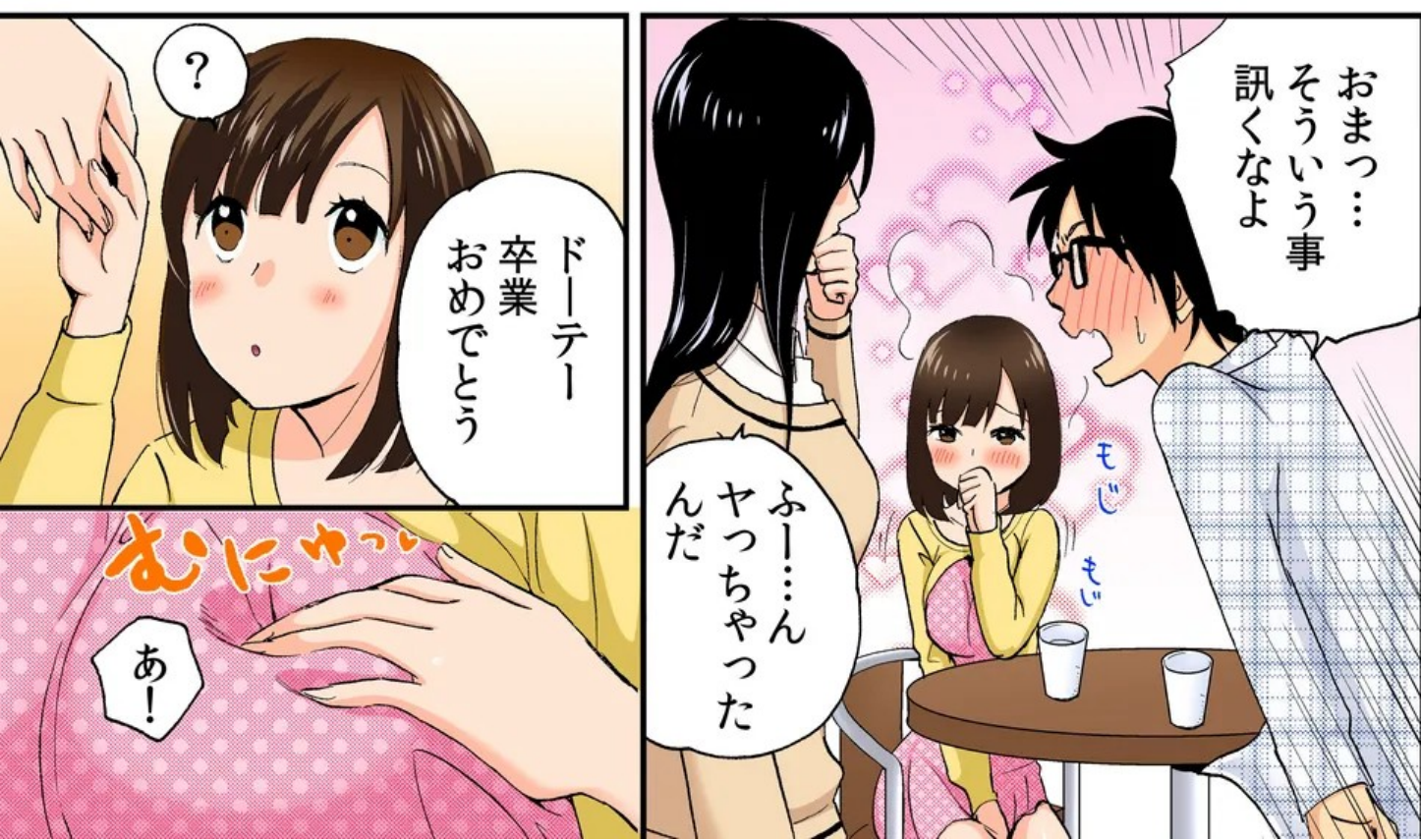
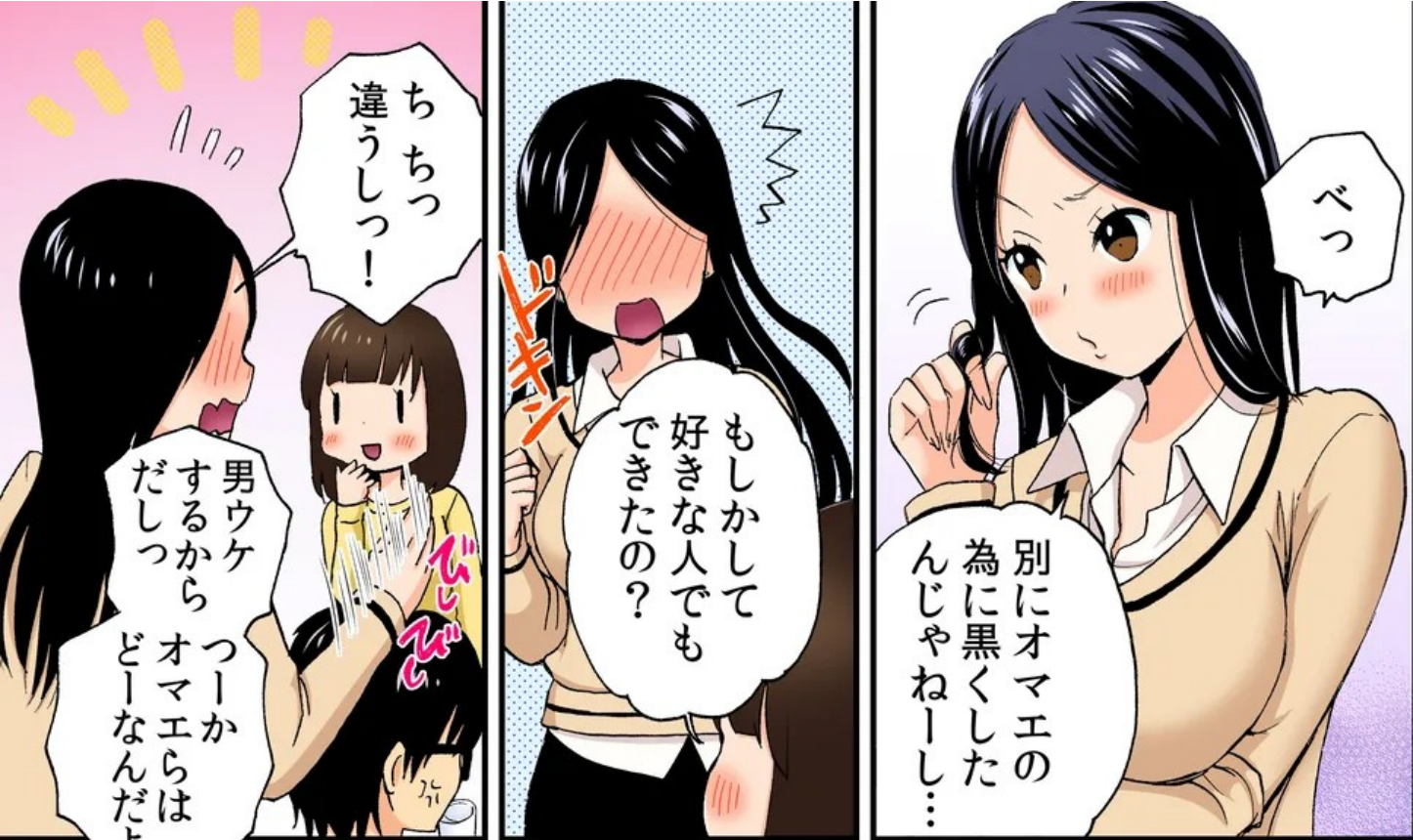


いいな

つぼみは



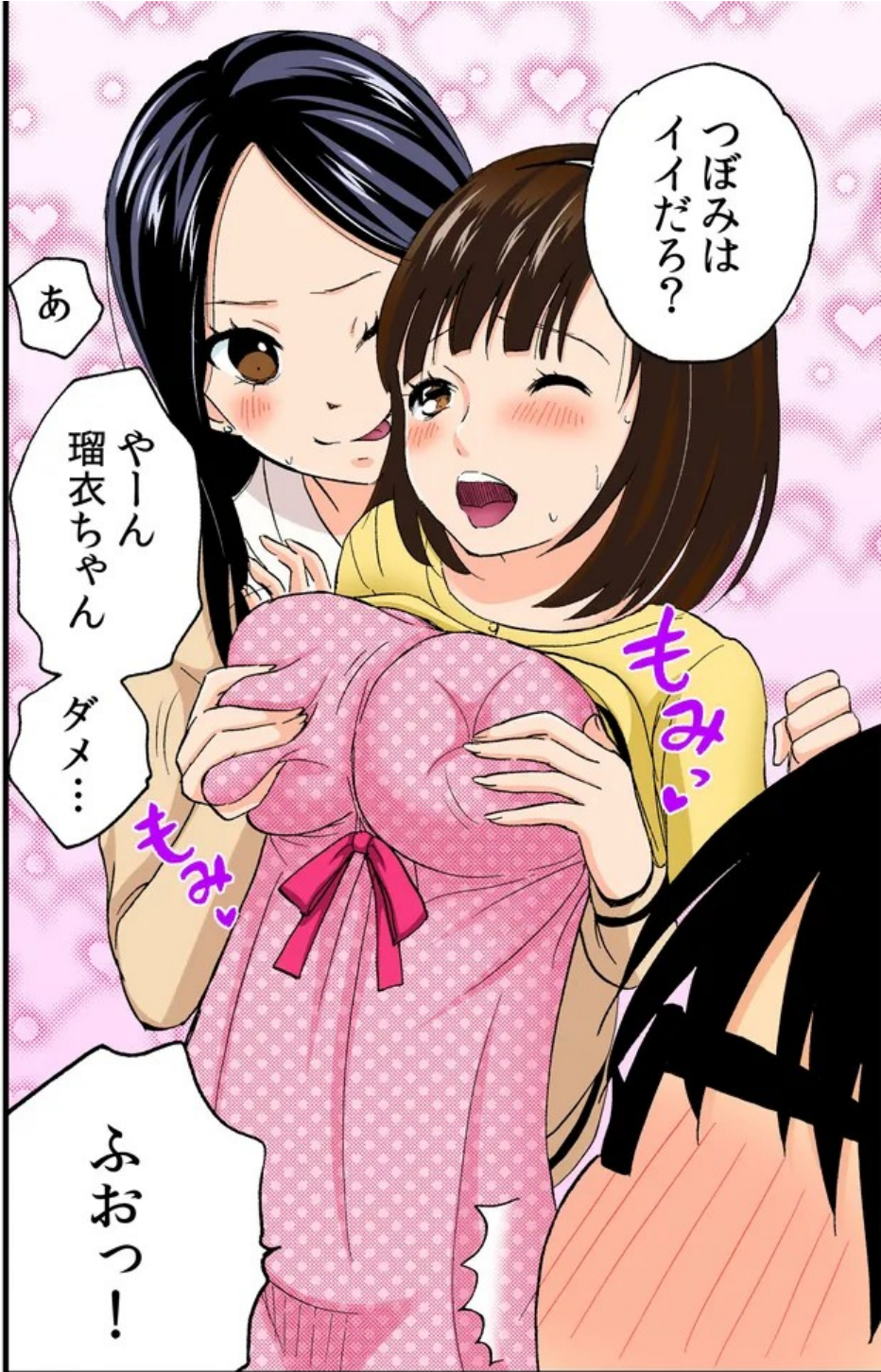






オマエなんかにつぼみを満足させられんの？

ドキッ



つぼみはいいだろ？

あ

やーん
瑠衣ちゃん
ダメ…

ふおっ！

もみっ

もみっ



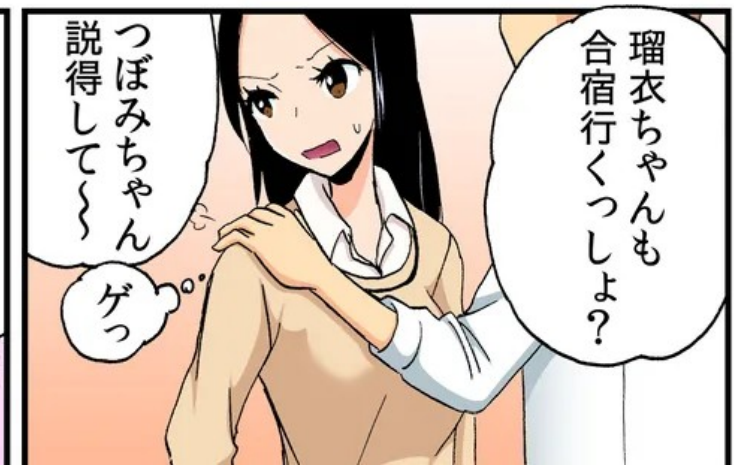
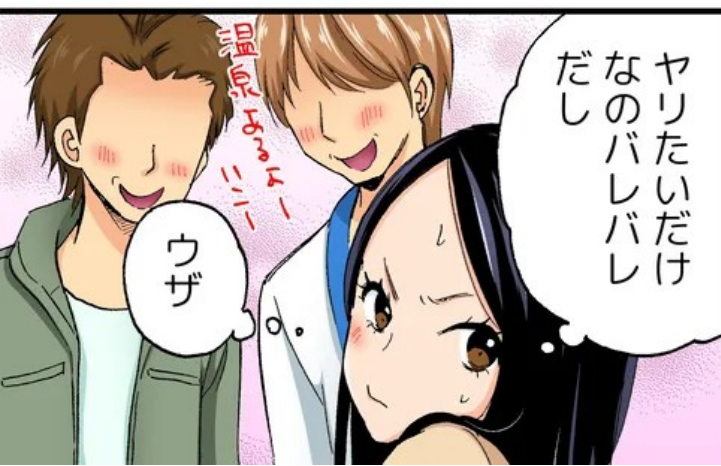
あー
いたいた！



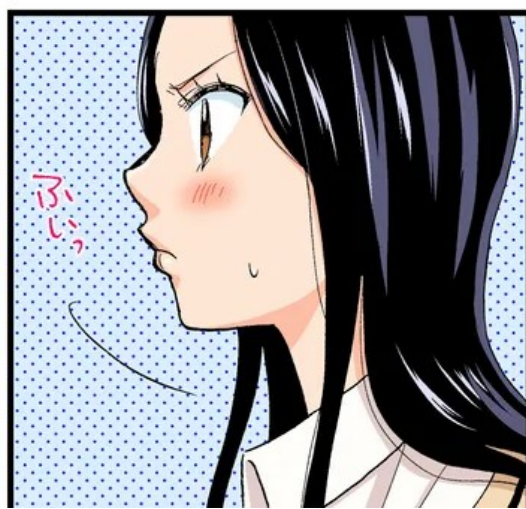
うるさい！
用が無いなら
うせろ！

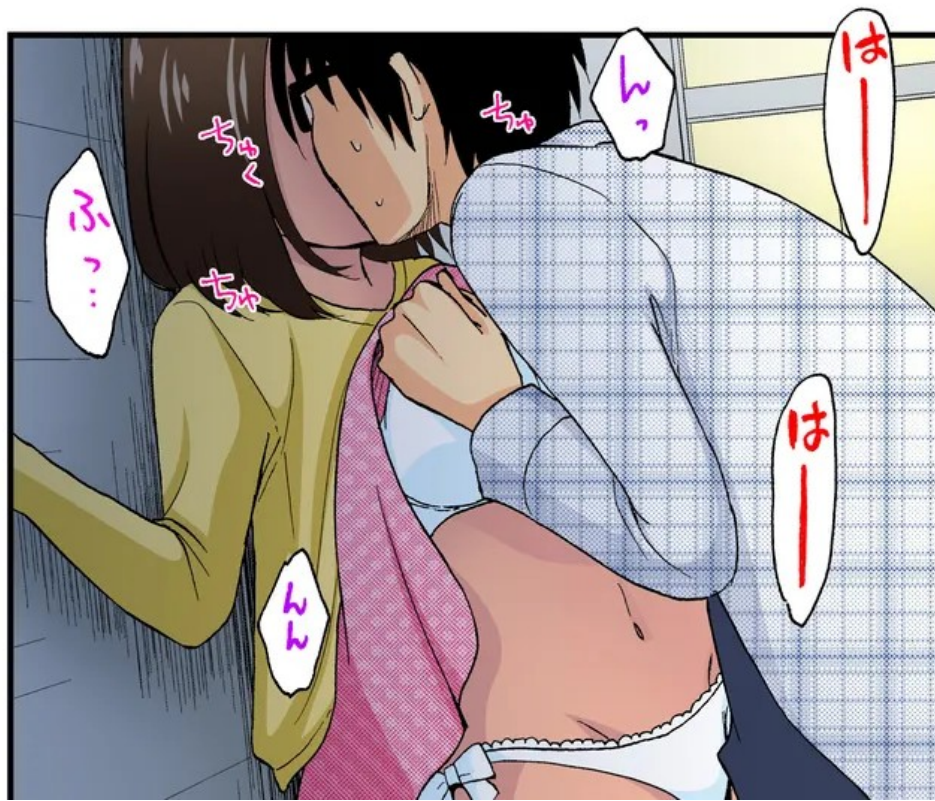
はいはい

バカバカバカ
うるさいうるさい
バカバカバカ









そうだ
オッサンの
顔を思い
浮かべれば――

ごめん
紺野……

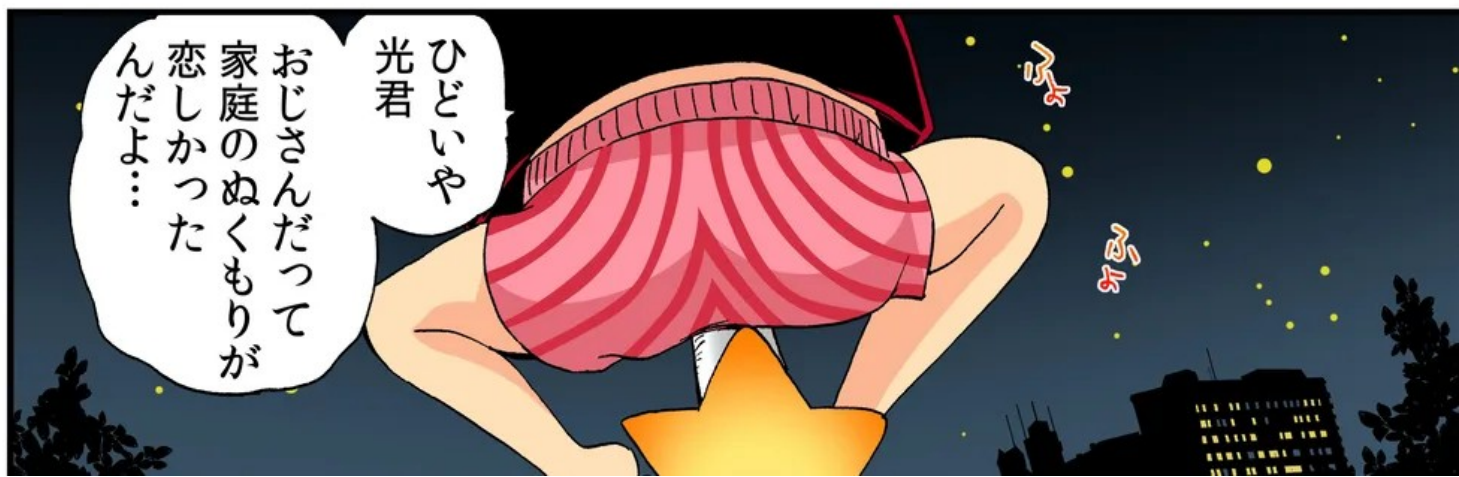
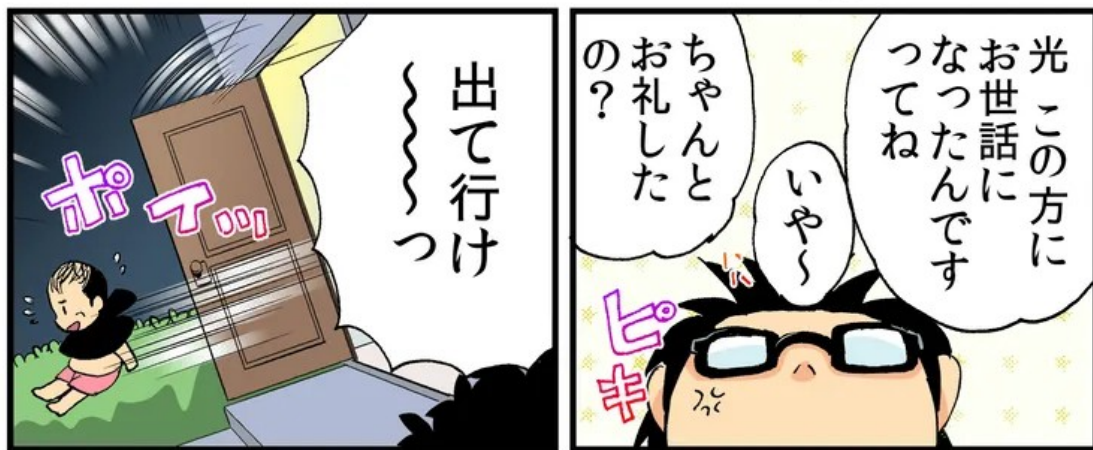
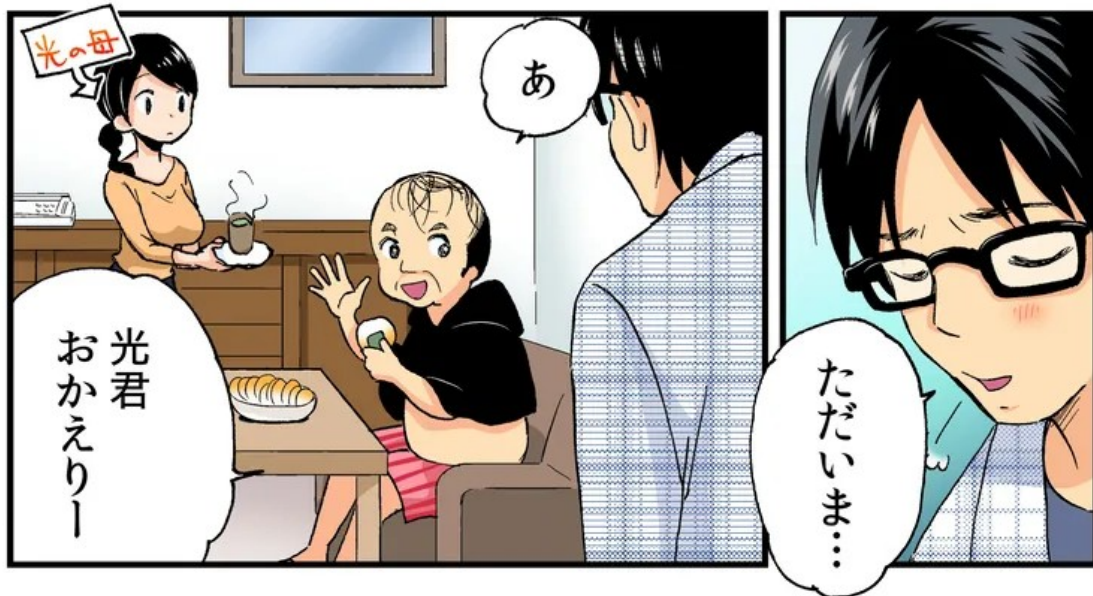
はー！
はー！
マズイ
止められ
ない！！
チン〇を
見せたら
最後なの……
わーい

ほん

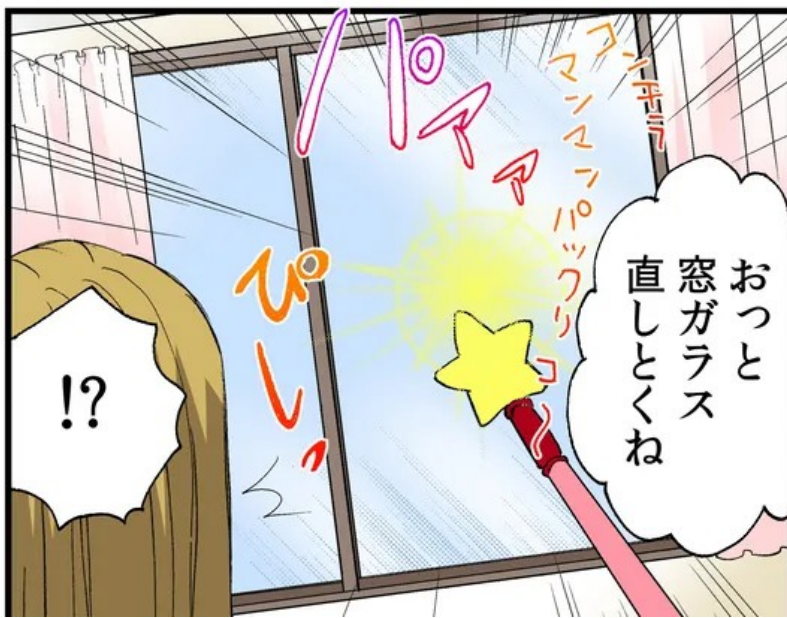
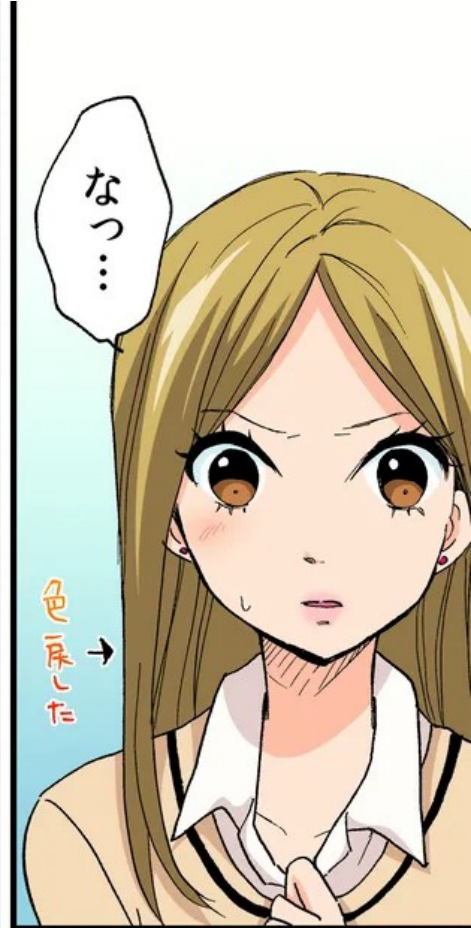
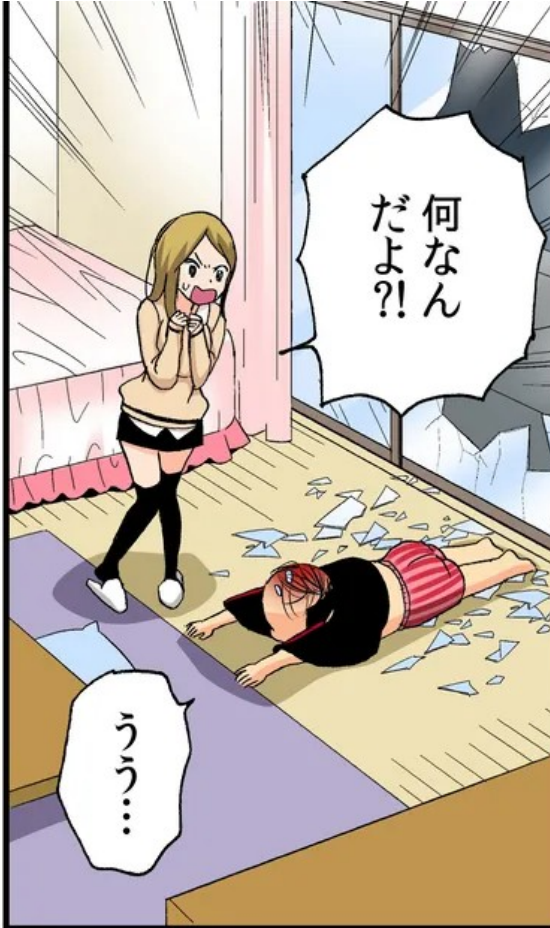
サア……
しましあ……

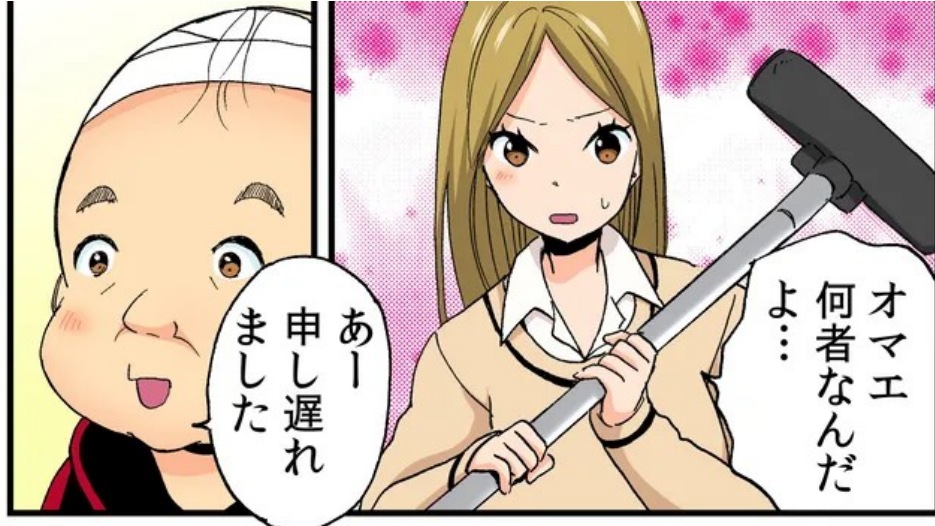
……

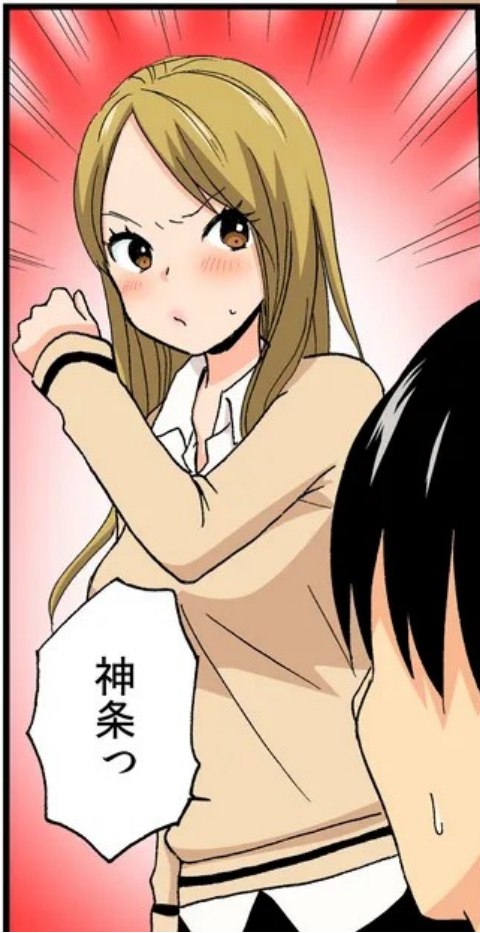
ごめん！
紺野
続きは
また今度
間中君？！
ビュン

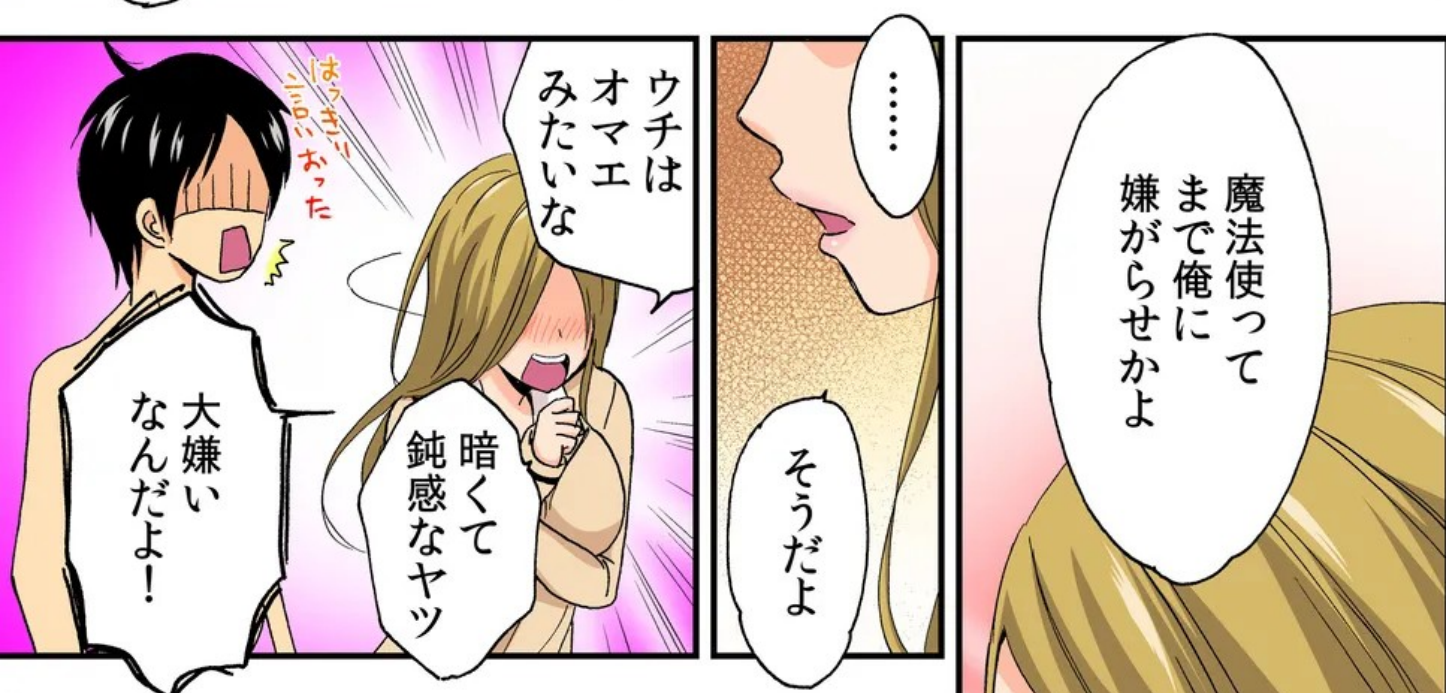
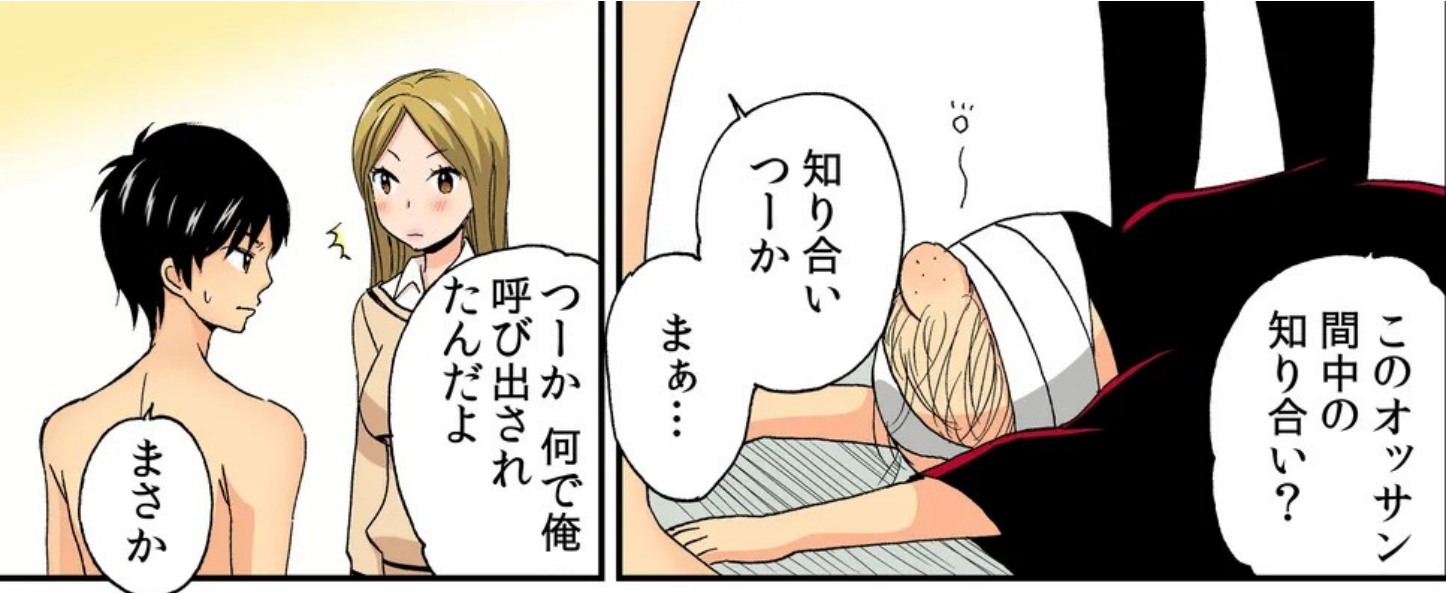


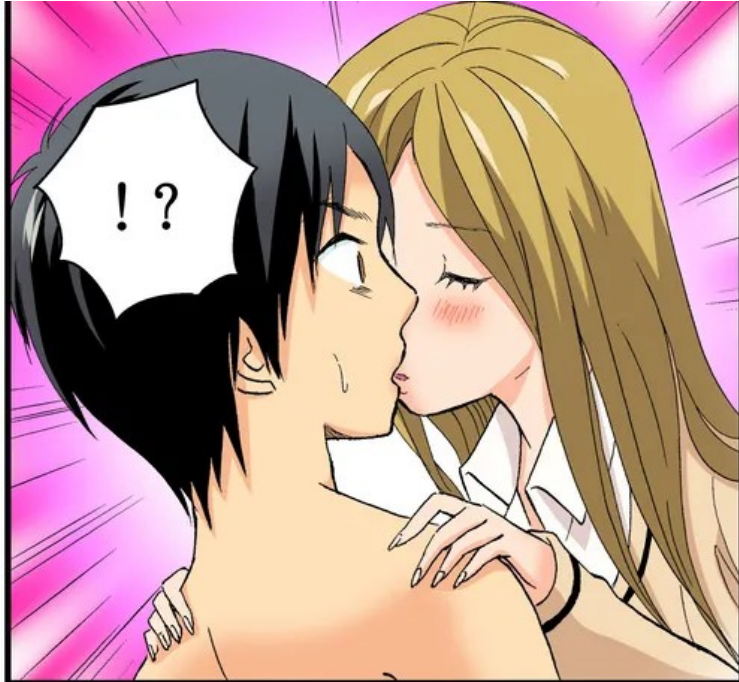










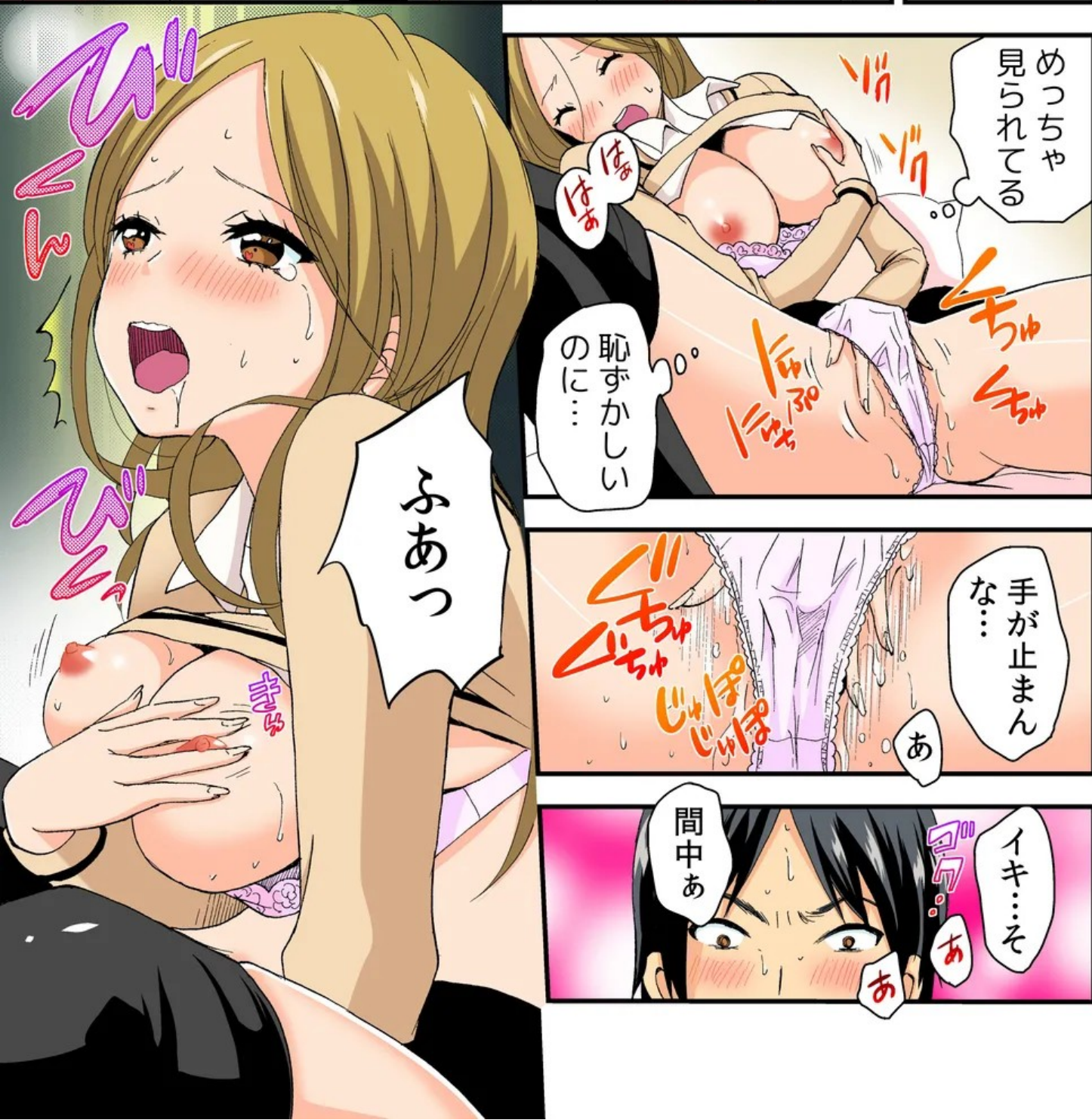


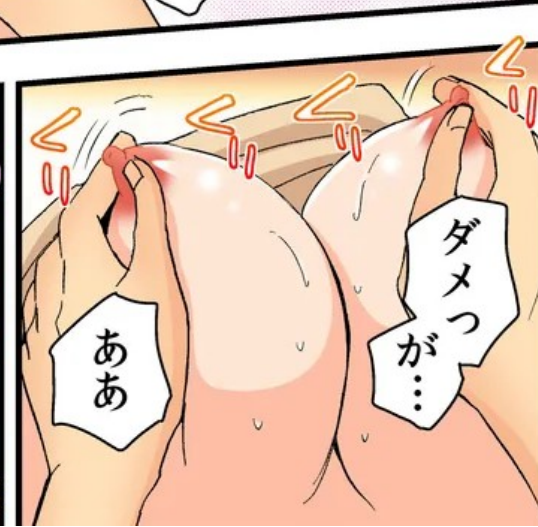
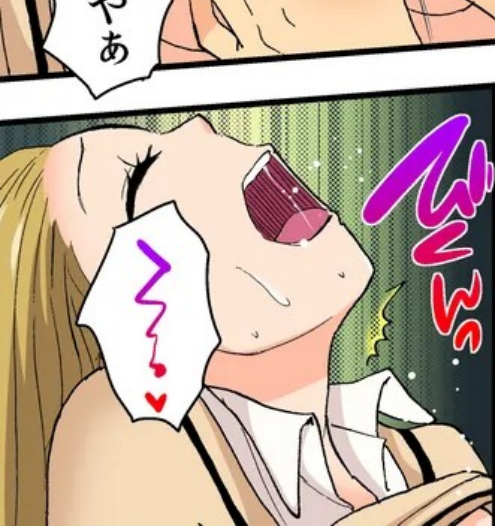
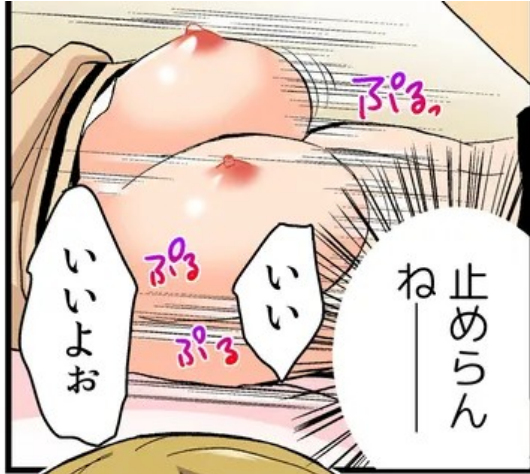
んっ…

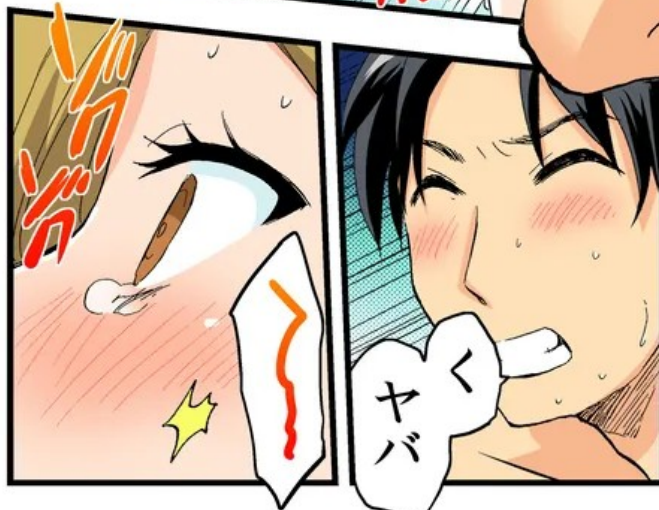
あ

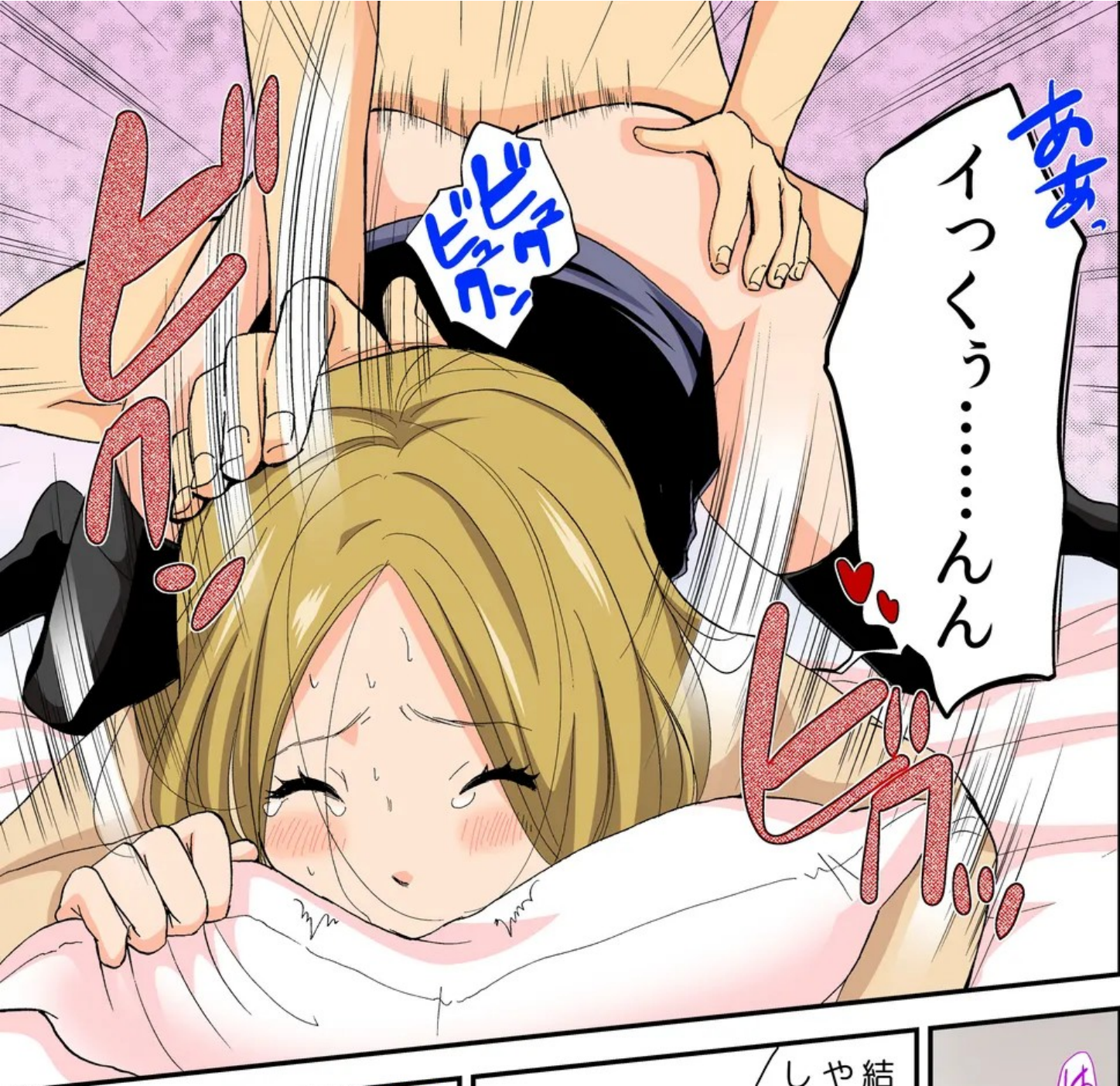
くぢゅ くぢゅ
くぢゅ くぢゅ
くぢゅ くぢゅ
くぢゅ くぢゅ

何これ
えつろ…!!





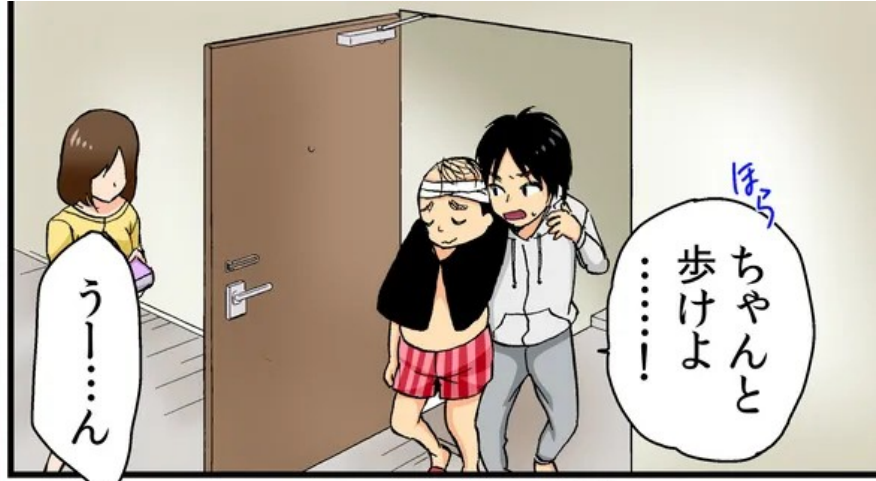






紺野!

間中君



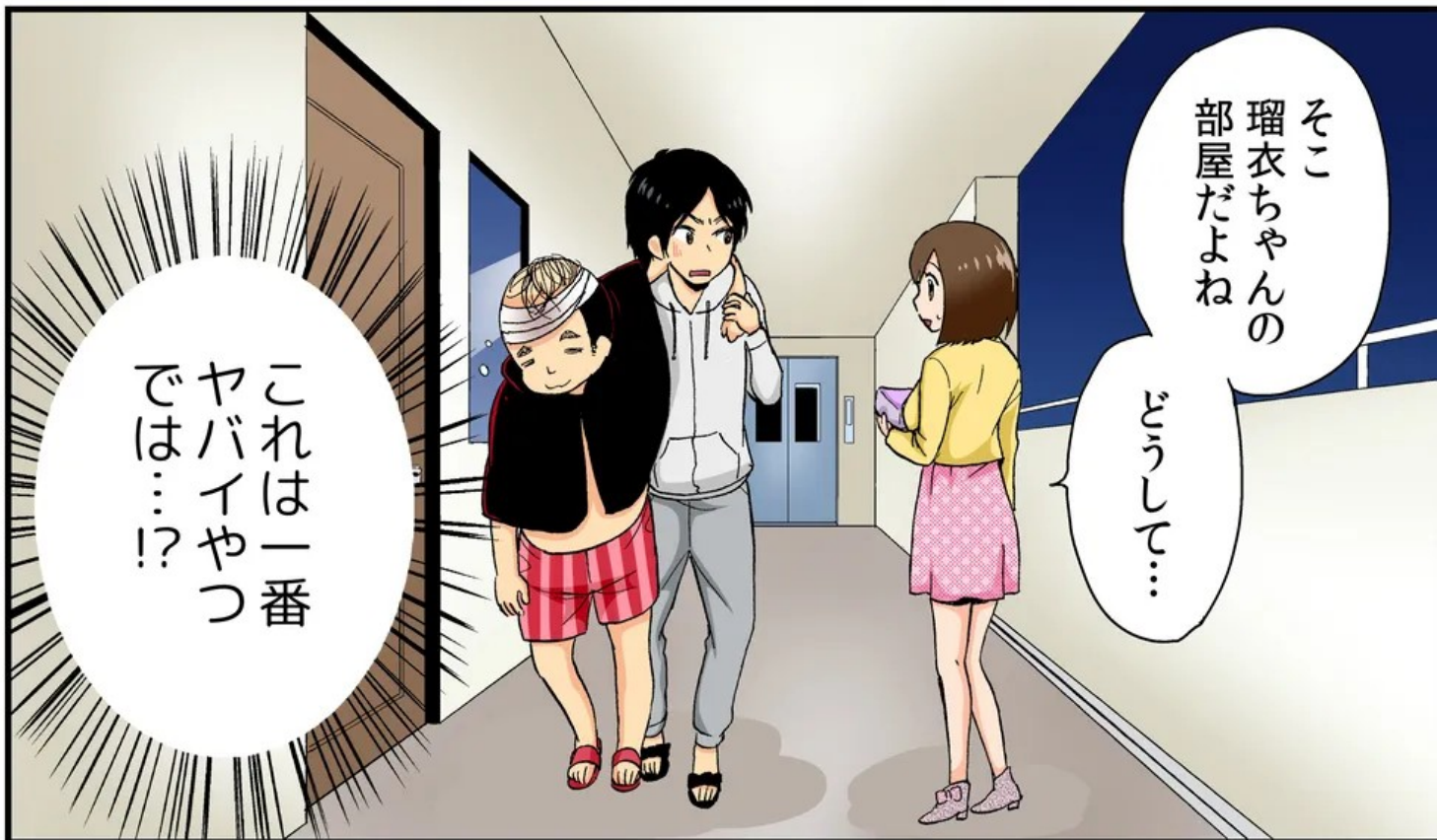
うー…ん

ほら
ちゃんと
歩けよ
……!!



きゃ

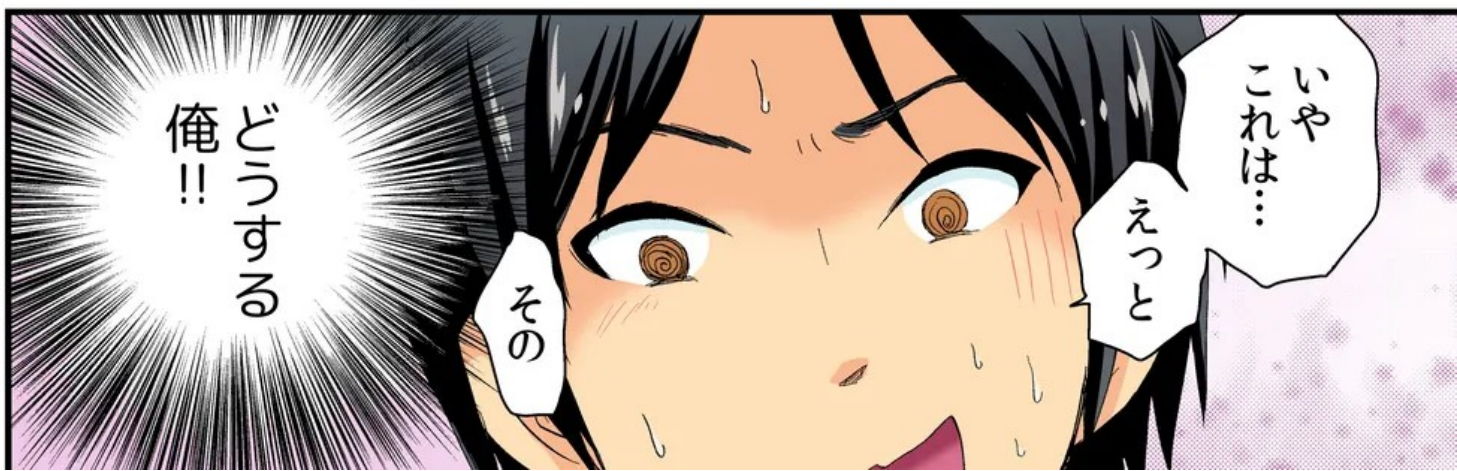
わ



これは一番
ヤバイやつ
では…!?

そこ
瑠衣ちゃんの
部屋だよな

どうして…

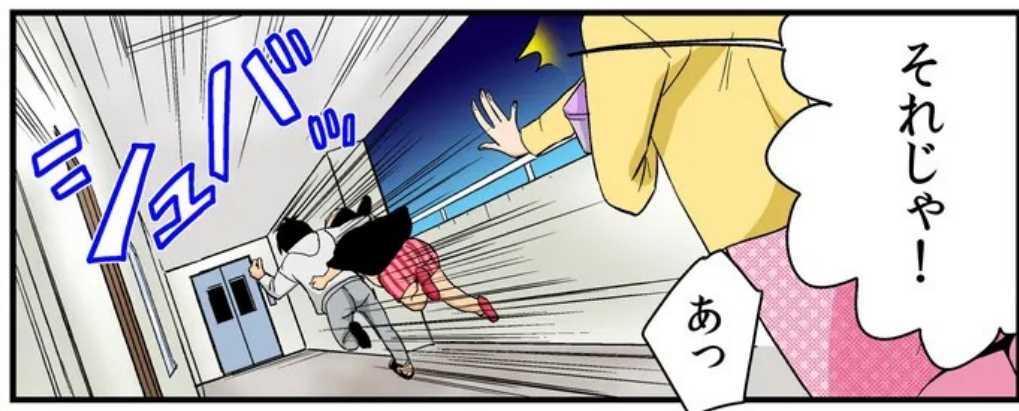


どうする
俺!!

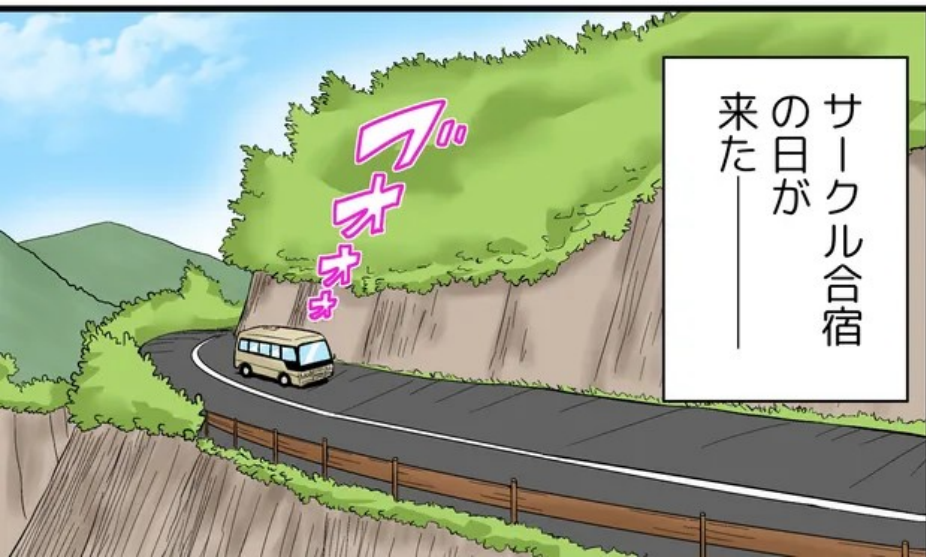
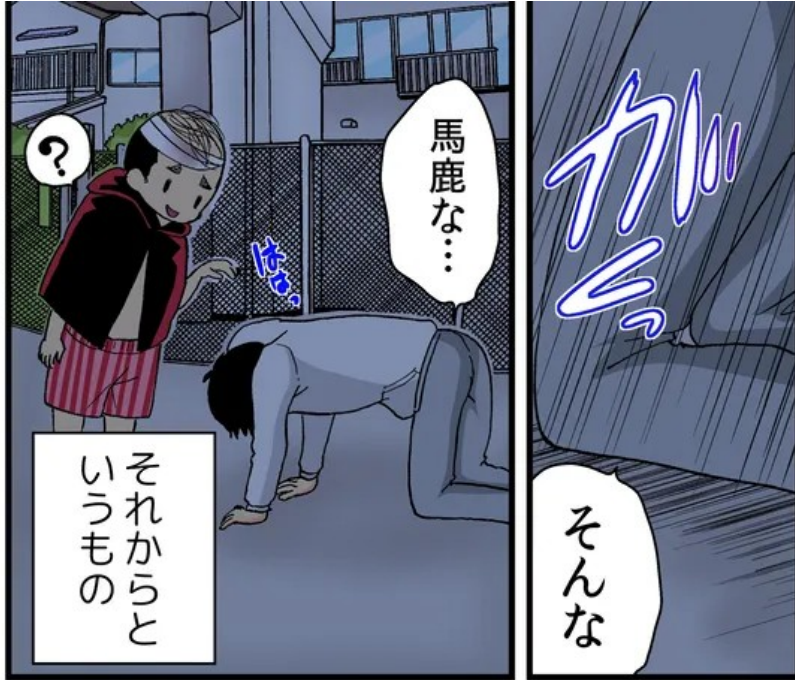
その

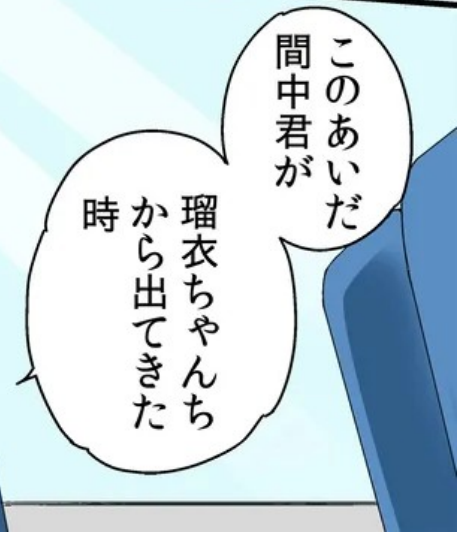
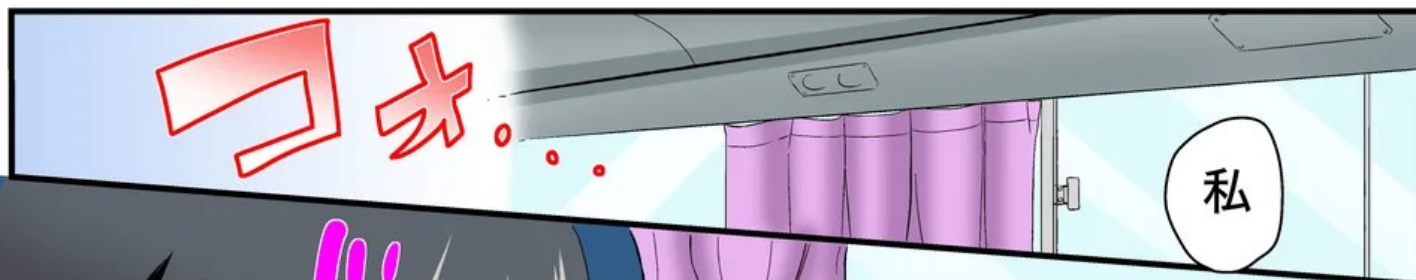
いや
これは…

えっと

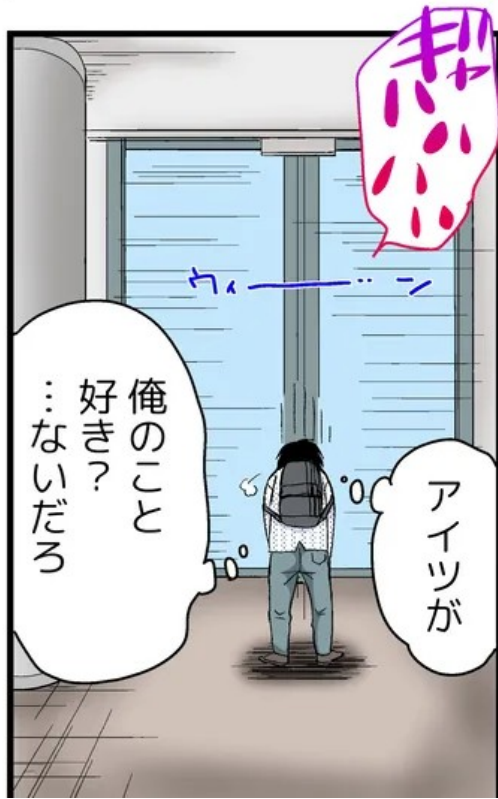
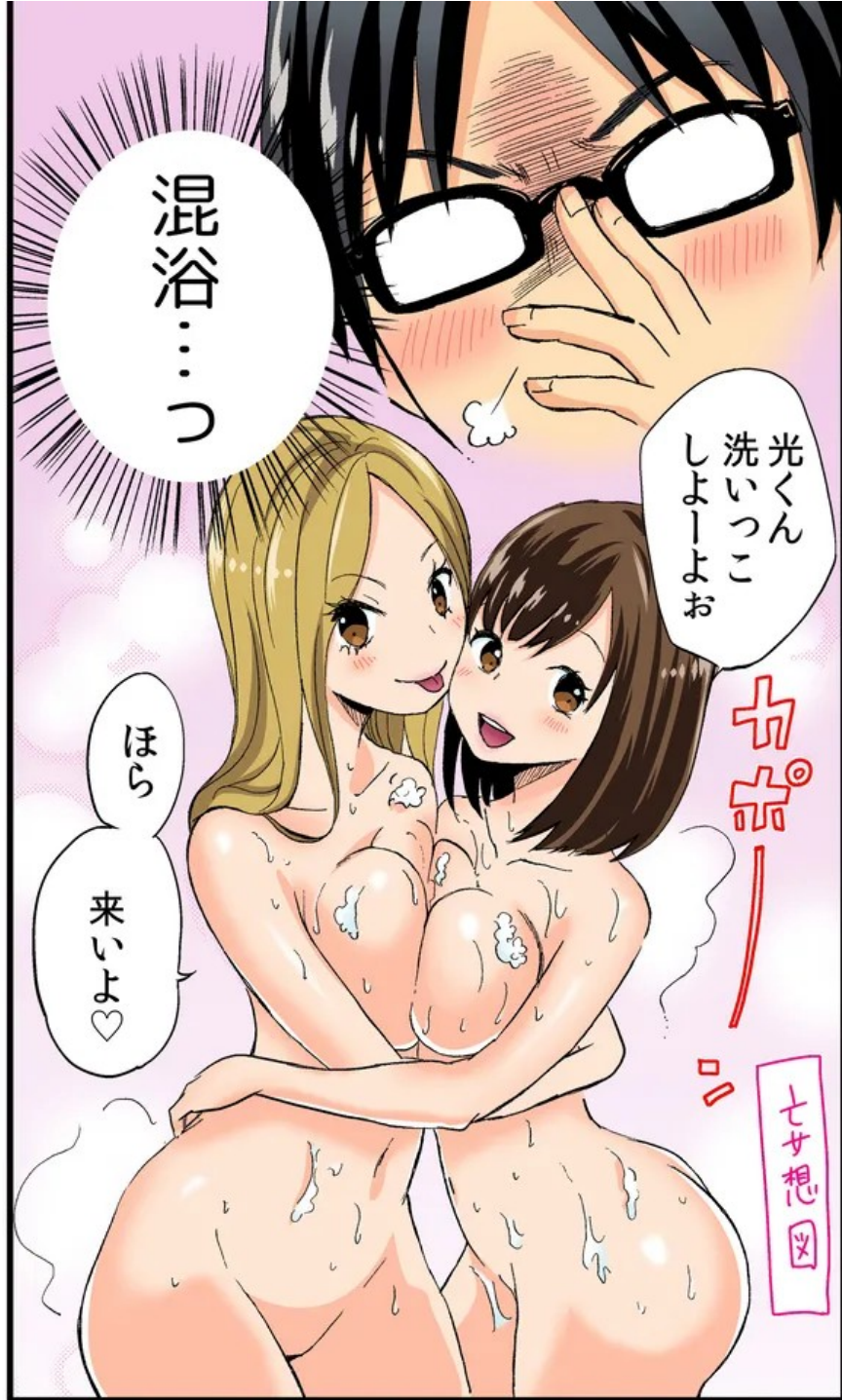




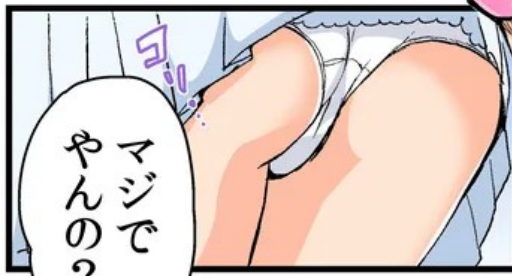


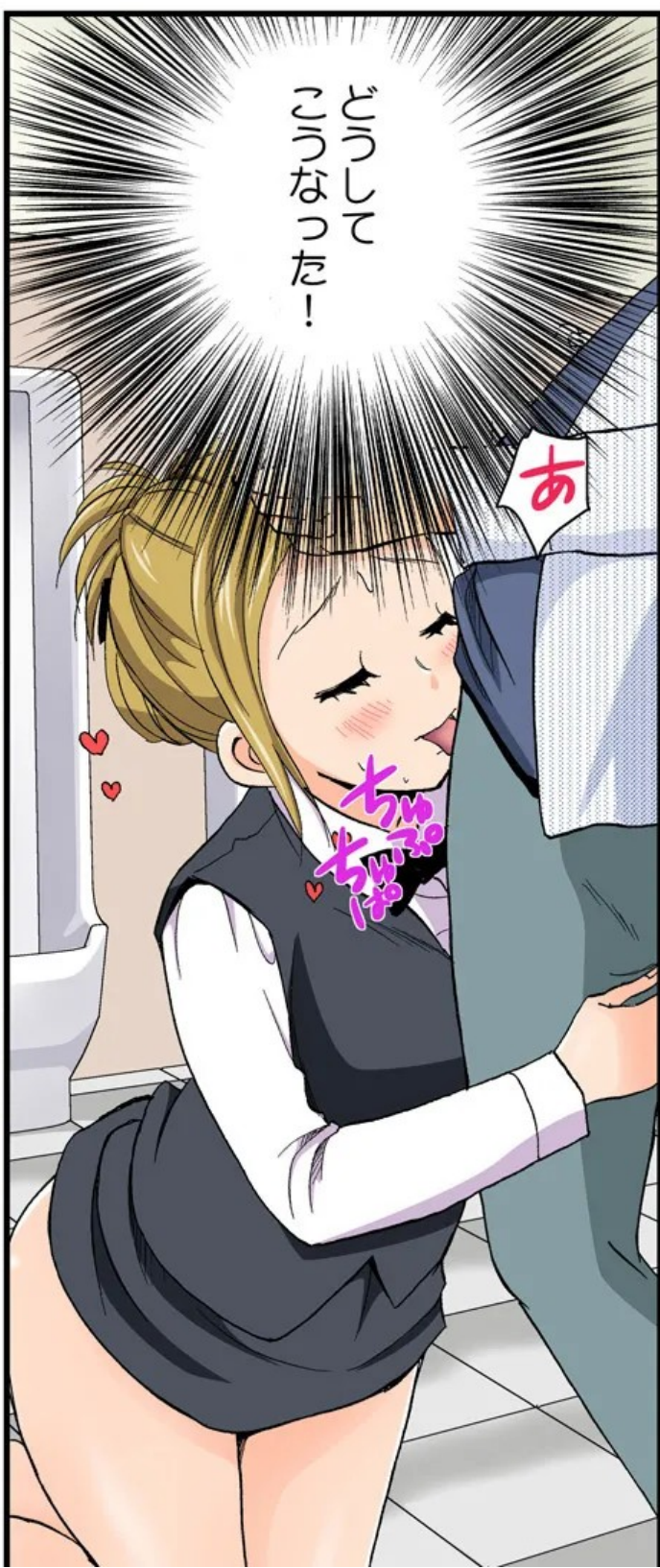


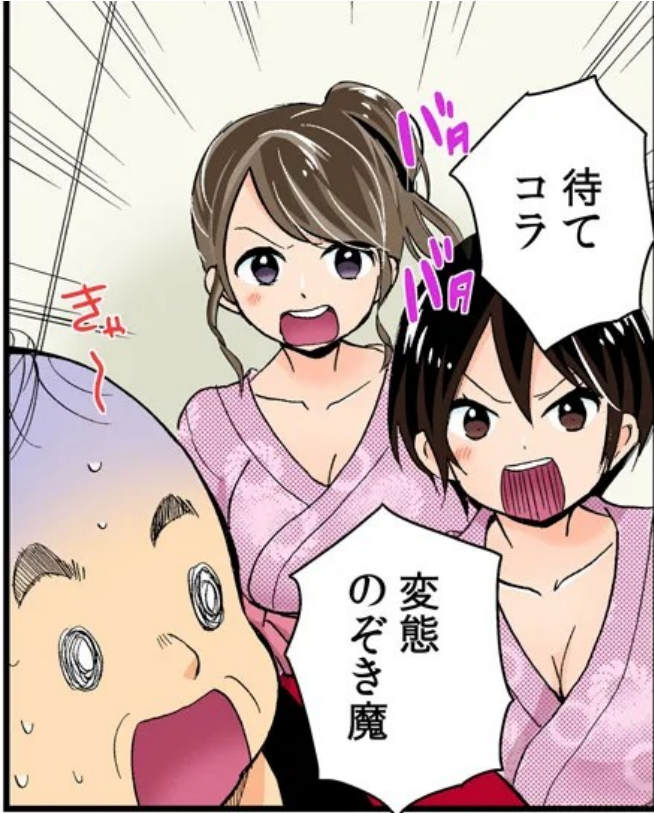






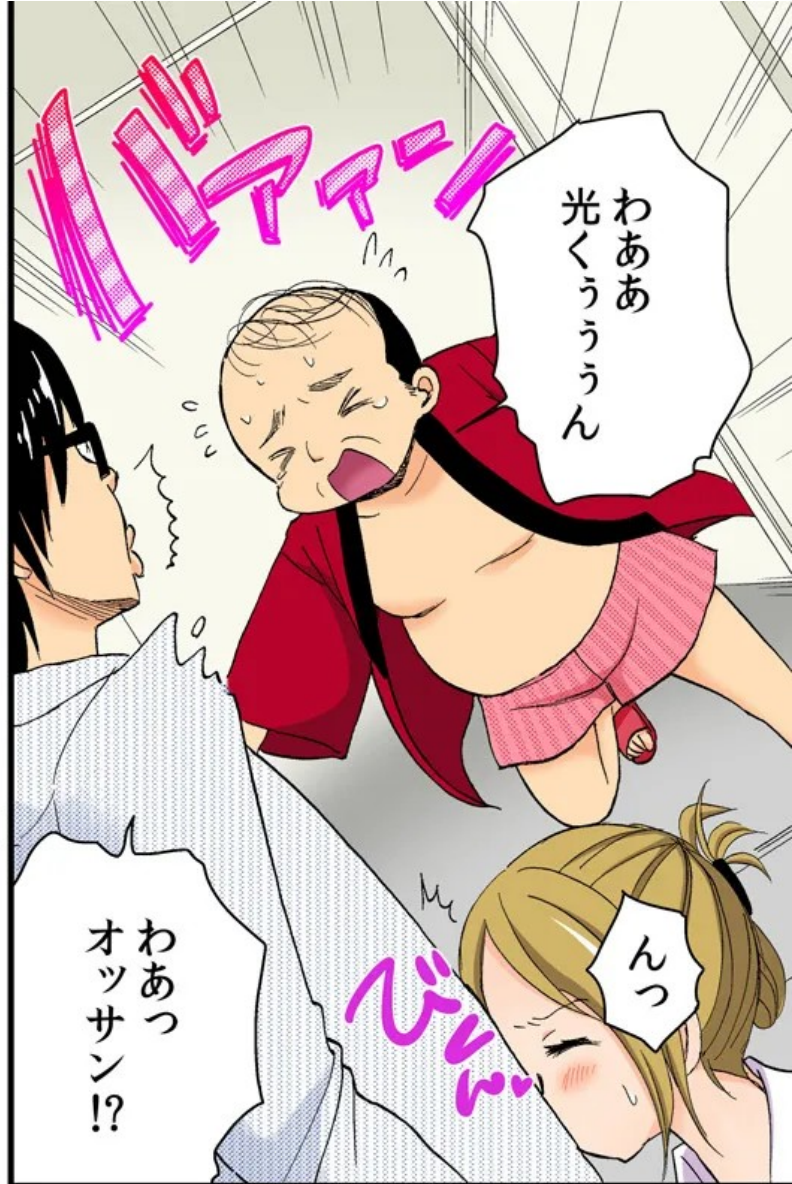






待て
コラ

変態
のぞき魔



わああ
光くううん

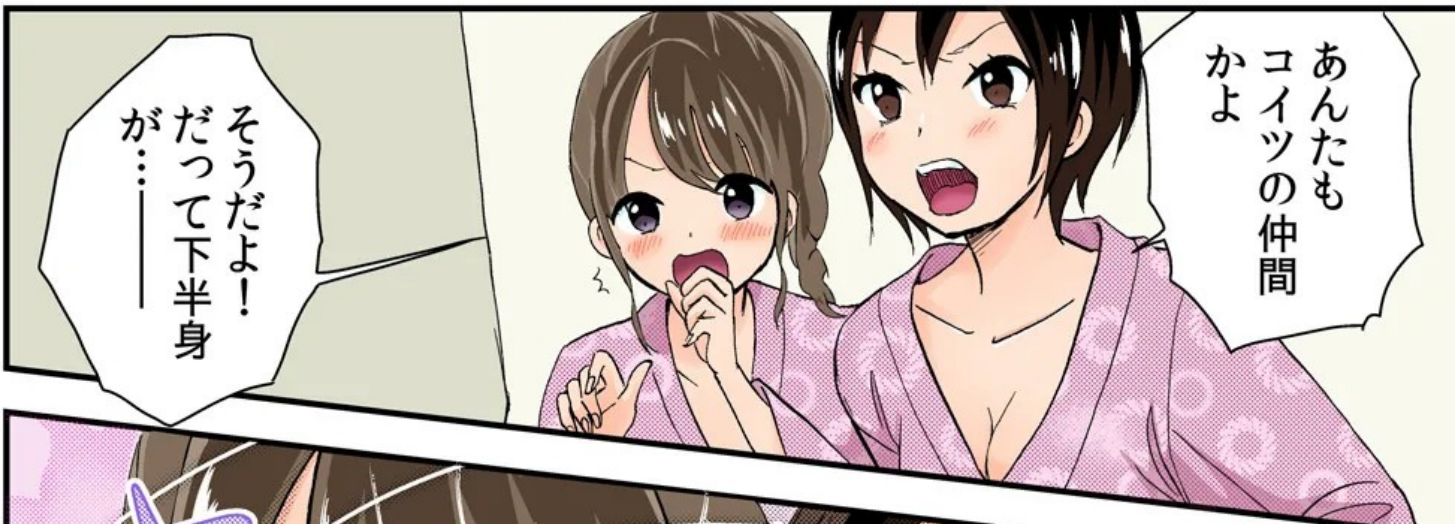
わあっ
オッサン!?

んっ



ちよこつと
女湯を見学
してただけだよう

何やってんの
オッサン



あんたも
コイツの仲間
かよ

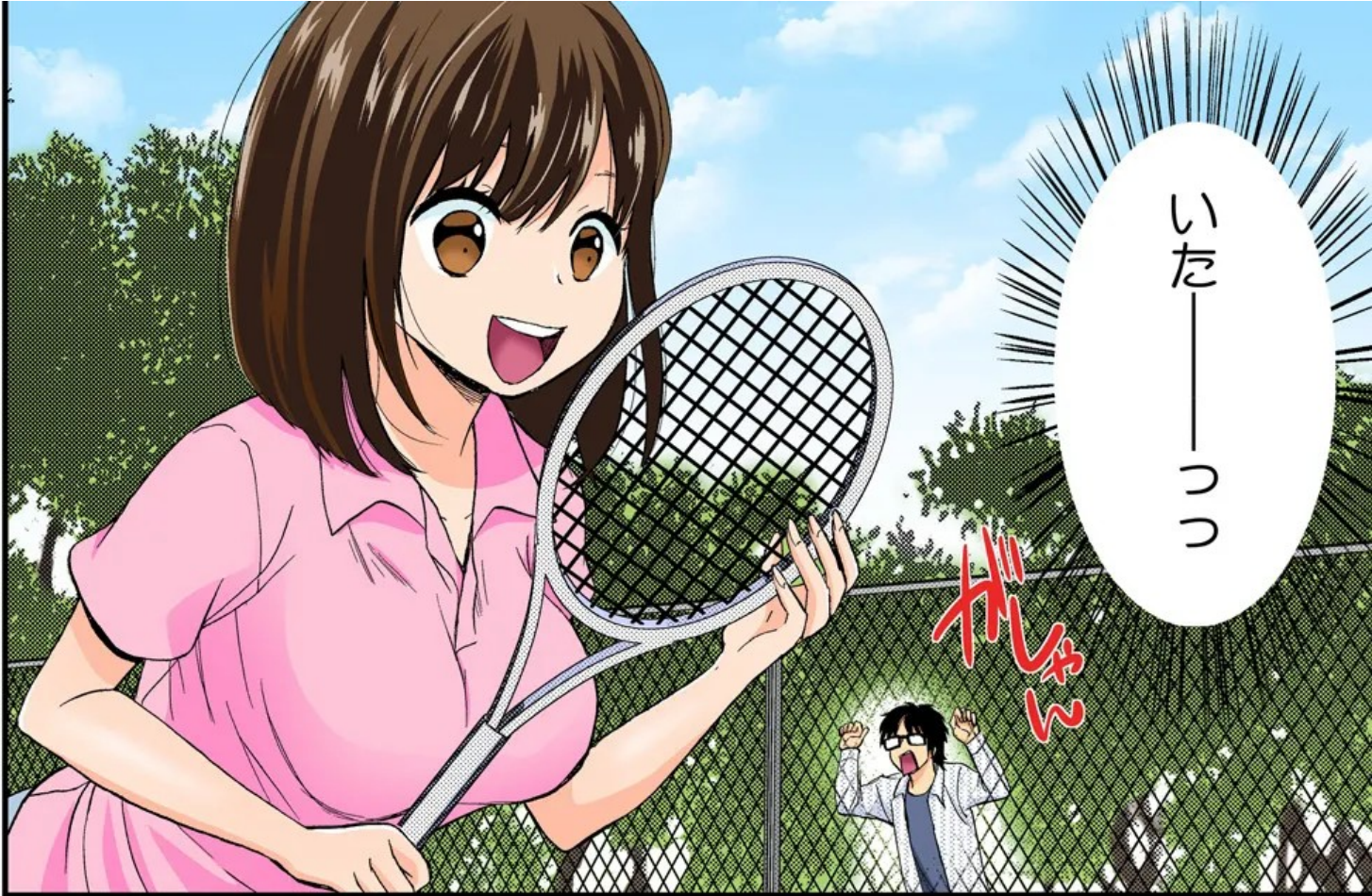
そうだよ!
だって下半身
が...



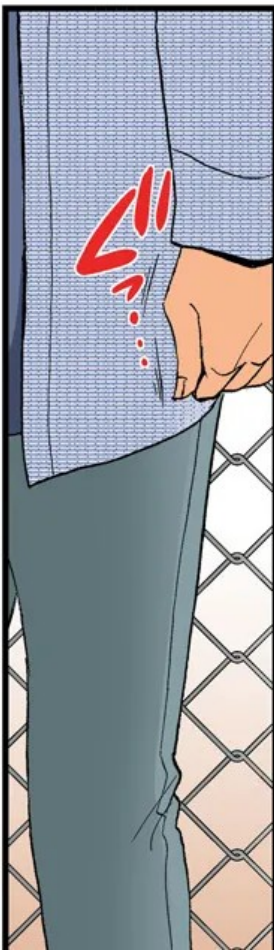
キュキュキュ







昔のナン
取り戻せなくて

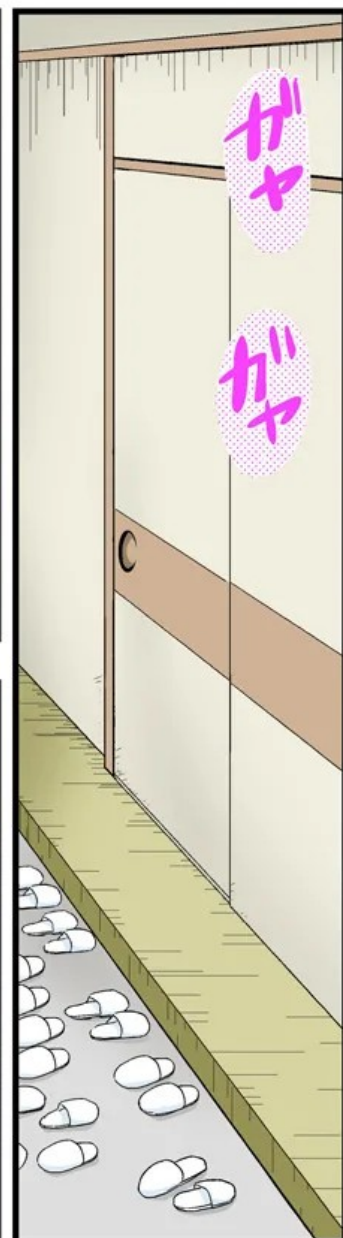


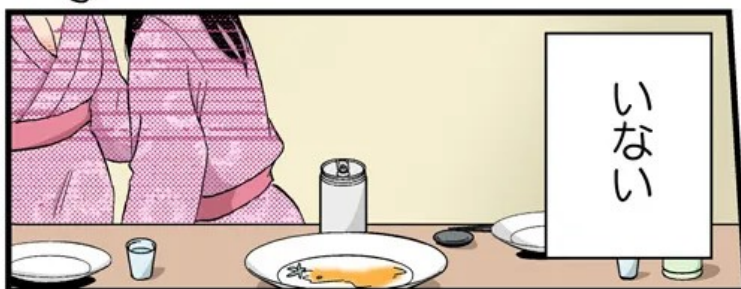
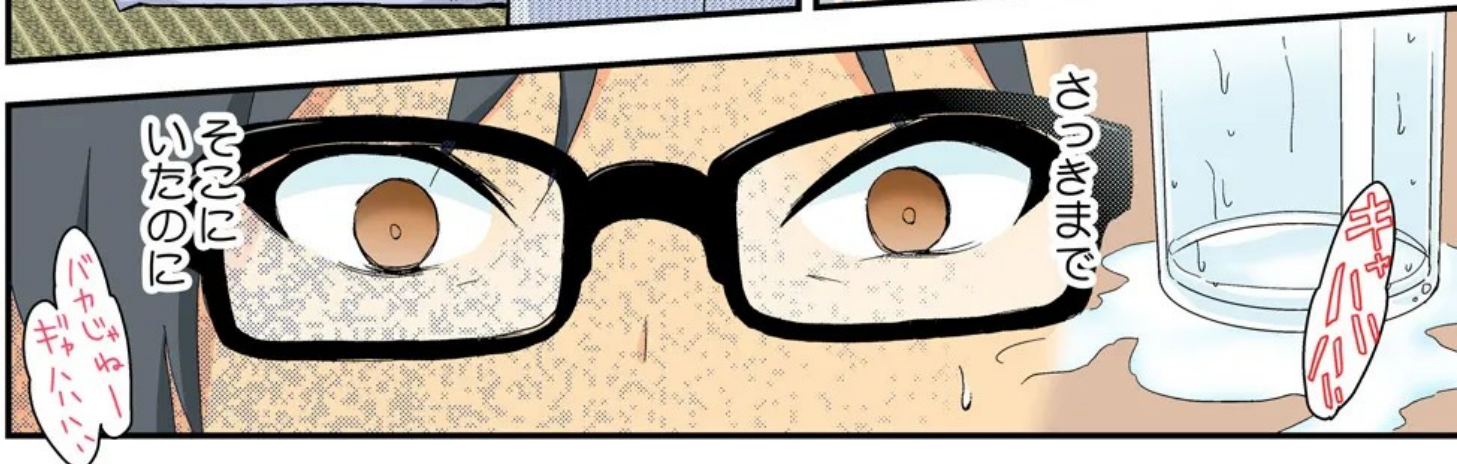
そんなに
悪い奴らじゃ
ないのかも



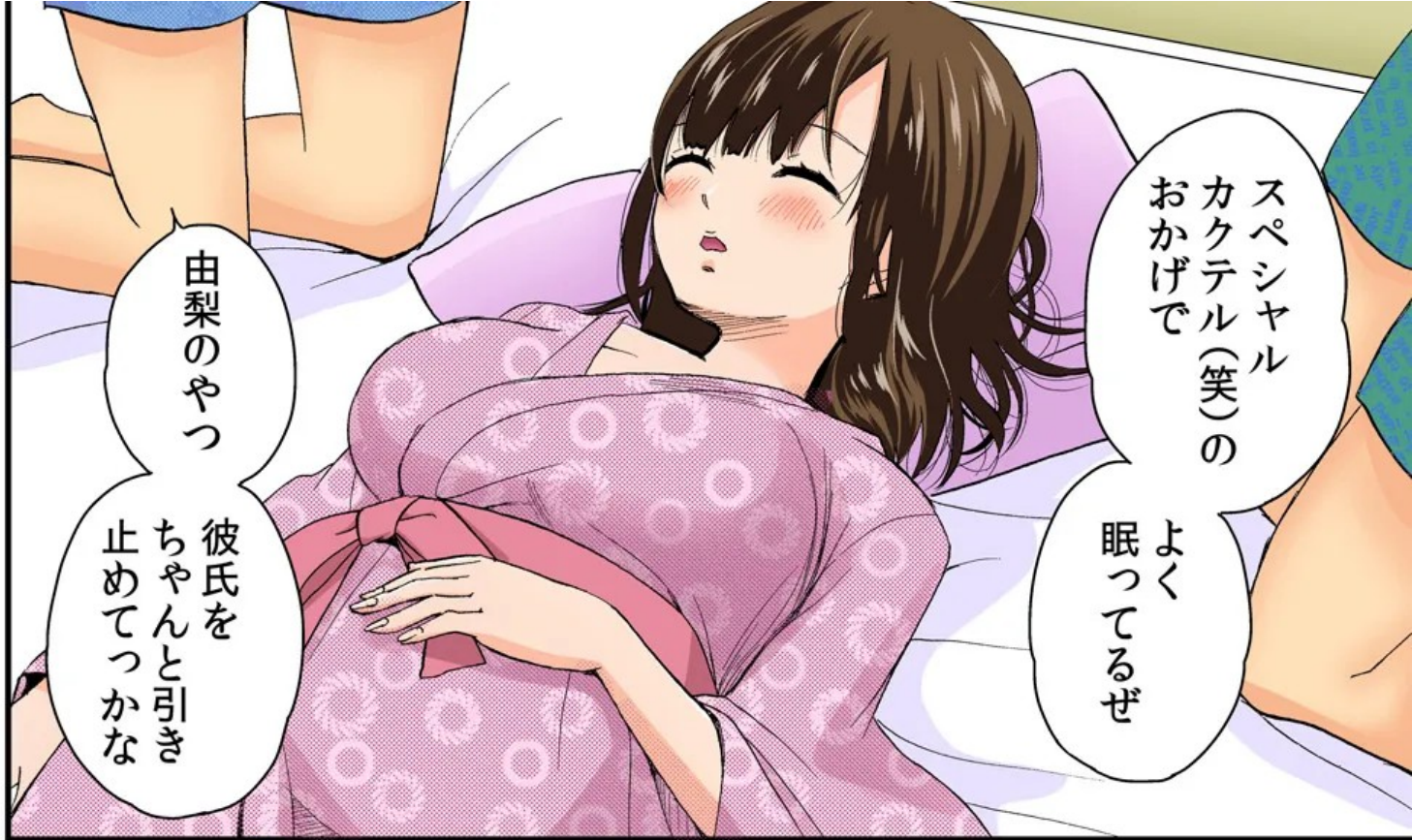
ナニカ、持って
くれてありがとー

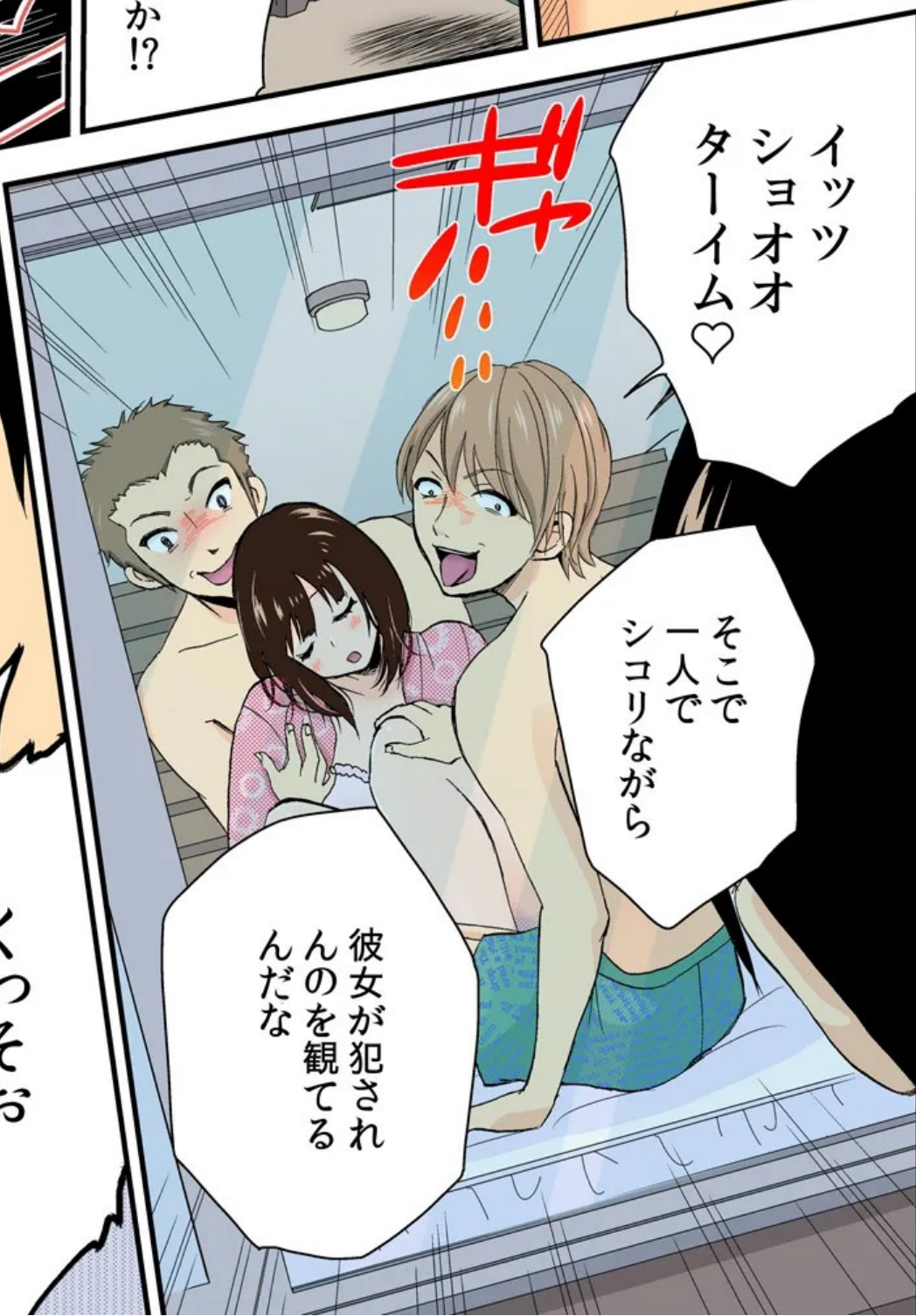
いよいよ
つばき、
すっぴん













いー日さっすー♡

変態かい



全然
割れねーし

くっそ!

開けろ



ずっと...



力が
欲しい

好きな娘を
守れる強さと
自信が欲しい



どうして

俺は
こんなに
非力なんだ



変わりたい

オマエらみたいな
クズに……

紺野は
わたせねえええ



ずっと



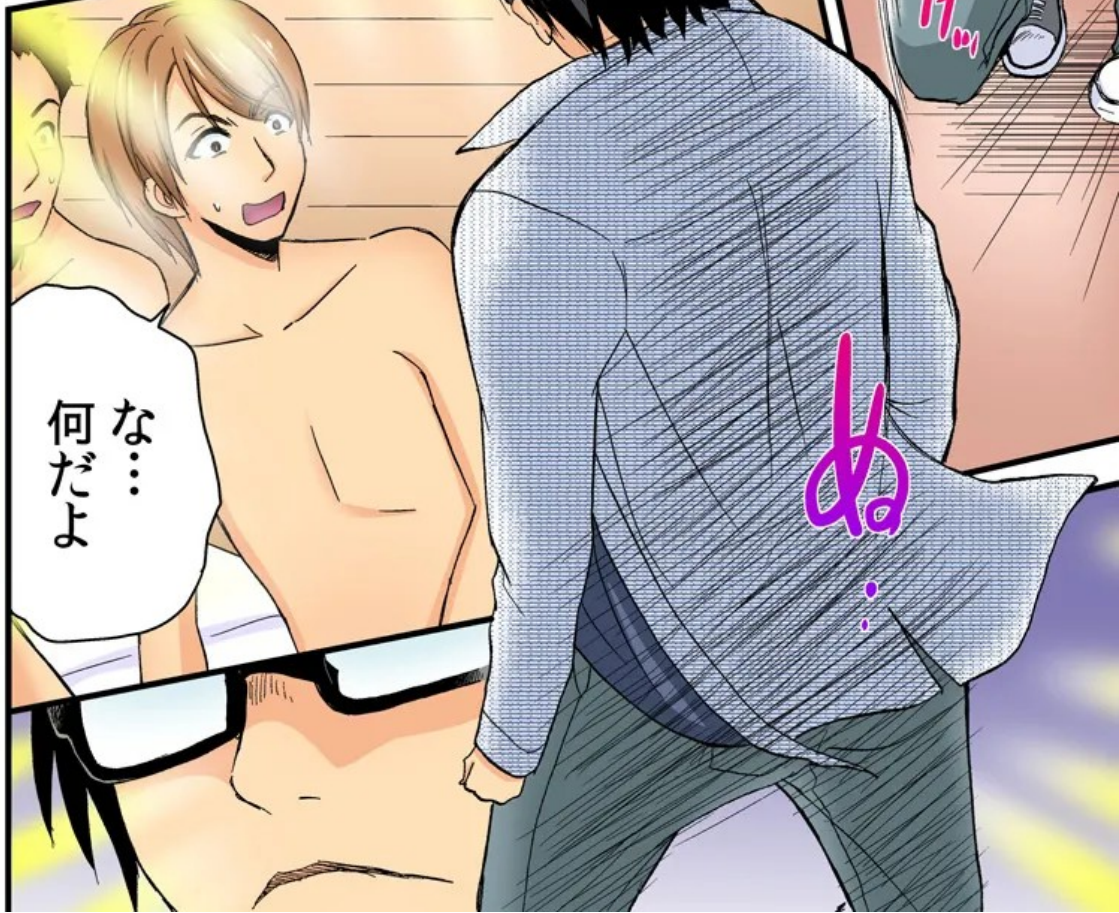
ずっと

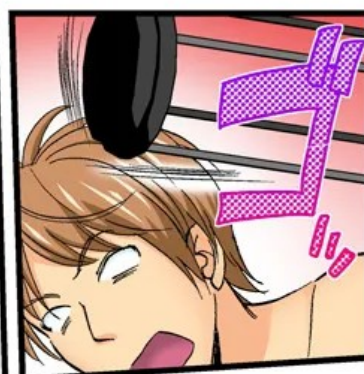
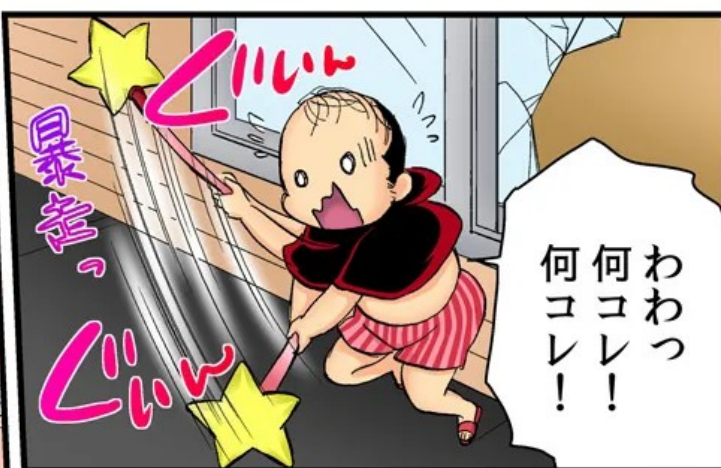


紺野が
好きだったんだ



紺野
だけが







俺の女に
手を出したら
次は無いと思え



間中...君



大丈夫か
紺野

うん



やべーよ
こいつ!!



間に合った



良かった

今回ばかりは
オッサンの魔法に
感謝した

その後

大丈夫だよお

間に合った…

ズズ…

まにあった…

うう
ズズ…

う…

オッサンは
窓と部屋を

元通りにして
去って行った



にえ

ついに
ついに



ね

俺と紺野は
結局
サークル連中
と別れて
帰ることに
した



この時が
来たあああ



魔法が解ける
回数をHした
今

俺は

普通に紺野と
恋人Hが出来る
のだ

魔法の回数は
ないかな
魔法の回数は
ないかな

意味のない叫び



折角だから
二人だけで
もう一泊しない？

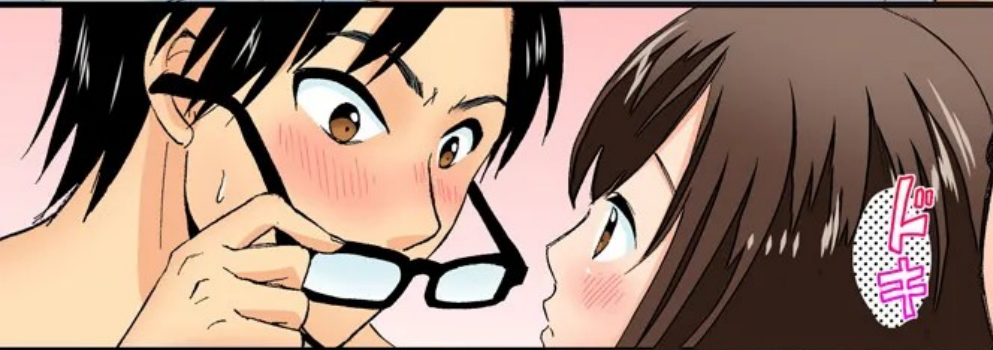
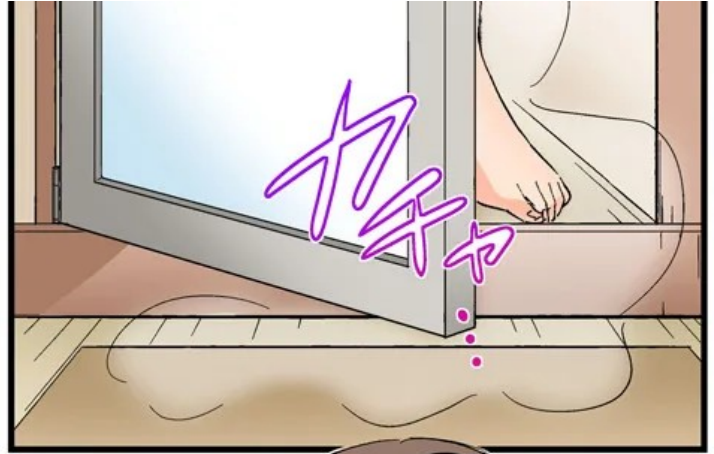
そう



お分かり
だろうか

ふふふ

HOTEL







遠慮
しないからっつ

あ



